

Journal of Japan Society of Information and Knowledge

情報知識学会誌

Vol.24 No.1 (Feb. 2014)

~~~~~ 目 次 ~~~~~

|      |                                                             |   |
|------|-------------------------------------------------------------|---|
| 巻頭言  | 大雪被害に触発されて情報知識学と情報知識学会を考える<br>石塚 英弘 .....                   | 1 |
| 研究論文 | テキスト解析手法を用いた河川文化概念の構造化<br>川島隆徳, 高田知紀, 桑子敏雄, 村井源, 往住彰文 ..... | 3 |

|      |                                                     |    |
|------|-----------------------------------------------------|----|
| 部会報告 | 平成 25 年度第 1 回科学技術データベース懇談会開催報告<br>山下雄一郎, 馬場哲也 ..... | 19 |
|------|-----------------------------------------------------|----|

|                                                  |         |    |
|--------------------------------------------------|---------|----|
| メール・マガジン・アーカイブ                                   |         |    |
| 情報知識学会メール・マガジン (2012 年 10 月号-2013 年 12 月号) ..... |         | 21 |
| お知らせ                                             |         |    |
| 特集「サイエンスデータとマッシュアップ技術」の論文公募 .....                | 村田健史 .. | 89 |
| 情報知識学会 第 22 回 (2014 年度) 年次大会 発表論文募集について .....    |         | 90 |
| 第 11 回 (2014) 論文賞推薦開始のお知らせ .....                 |         | 92 |
| 事務局より .....                                      |         | 94 |



情報知識学会

<http://www.jsik.jp/>

## トッパンの、変革と挑戦。

これまで、世界地図が幾度も刷り直されてきたように、  
私たちトッパンも、印刷の枠組みを超え、世界の在り方の変革に貢献してきました。

その背景には、トッパンならではの「印刷テクノロジー」の存在があります。

印刷を核に挑戦を続け、体系化してきたさまざまな技術。  
社員一人ひとりに刻み込まれた知識、ノウハウ、おもい。  
これらを包含したものを、私たちは「印刷テクノロジー」と呼んでいます。

この「印刷テクノロジー」を軸に、  
分野の壁を越え、あなたのおもいに応えるパートナーに。  
人々の生活に、健康や安全、安心を届け、より心豊かなものに。  
情報やメディアの変化への対応、地球環境保全など、  
社会の課題解決の一翼を担う企業に。

私たちはお約束します。  
あなたの立場で考える、豊かで美しい感性を持つ多彩な「人財」が、  
トータルソリューションを生み出し、世界を変えていくことを。  
その変革を、決して止めないことを。

# 印刷テクノロジーで、 世界を変える。

# TOPPAN

[www.toppan.co.jp](http://www.toppan.co.jp)

凸版印刷株式会社 〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町1番地

## 巻頭言

# 大雪被害に触発されて情報知識学と情報知識学会を考える

情報知識学会長 石塚 英弘

この2月、2週続けて、九州から北海道まで縦断して大雪が降り、被害があった。例年とは異なる現象である。大学入試の時期でもあり、予想しない被害に遭われて困った方も多いと思う。心からお見舞い申し上げる。

異例の大雪の時、筆者は、降雪に関する情報や知識だけでは被害の予測や対策は困難で、関連する領域の情報や知識にも目を向け、それを取り入れて考える必要を感じた。特定の領域に拘らず、関連する領域の情報、知識を含めて考え、研究することは情報知識学の特徴である。そこで、大雪被害に触発されて情報知識学を考えることを試みた。また「情報と知識」についてさまざまな側面から研究し、議論していく場である情報知識学会についても考えた。以下、具体的に述べる。

1 回目の大雪が降った2月8日(土)の午前中、筆者は自宅で「テレビで降雪に関するニュースを見られるし、インターネットとWebブラウザを使って最新の気象情報を得ることができる。自宅に居ても、メールのやり取りを介して学会関係の仕事ができる。」と軽く考えていた。この種のケースは、太平洋側に雪が降るから関東地方にも雪が降るが、降雪地域は南岸が中心という知識があったためである。しかし気象庁のWebサイトで、雪雲は南岸だけでなく広範囲で強く、西から刻々近づいて来ることを知り、今回は関東地方も南岸だけでなく、自宅がある茨城県南部も大雪になる可能性があることに気づいた。

夕方からは積雪量が増えてきて、この地域としては異例の大雪になってきた。夜遅く、

私が愛用している筑波大学のメールサーバとの接続が切れた。同大学のWebサーバに接続できないことから大学で停電があったと推測した。降雪が激しくなり、各地で停電が発生しているとの情報があったためである。

使用できて当然と思っていた情報インフラが突然、使用できなくなる。この事態を筆者は2011年3月11日の東日本大震災で痛感したはずであるが、降雪でも起きることを想定していなかった。認識不足と大いに反省した。

コンピュータ・センターで停電があると、全てのサーバが止まるため、電気が復旧しても、コンピュータ・システムの復旧には手間と時間が掛かる。センターの技術者が機器に異常が無いことを確認した後、様々あるサーバを定められた順番で次々、再立ち上げしていくためである。今回は土曜日の夜遅くに停電が発生し、降雪が稀な筑波での大雪だから出勤も困難である。翌日から、センターのWebサイト上のお知らせページに「豪雪の影響で保守着手に著しい困難があり、長時間ご迷惑をお掛けしました。」のお詫びと、復旧の経過が日時を含めて示された。技術者が土日返上、深夜を含めて復旧に尽力された様子が読み取れる。ありがたいことである。

2 度目の大雪では甲府の積雪は2月15日(土)に1m14cmとなった。この値は甲府での観測史上最多記録であり、平年比114倍の特異な値である。この積雪のため山梨県の道路は通行不能となって食料品を含む物流が止まった結果、同県は一時、陸の孤島のような状態と報道された。山梨県は雪国ではないた

め、除雪車の用意は無い。山梨県は自衛隊に災害出動を要請して除雪の支援を得たこと、新潟県は山梨県に除雪車を派遣したことが報道された。そのことは、異例の積雪量が原因の災害であったことを示している。

前述した事例から、通常は起きないことが稀に起きること、他の領域の知識も必要になることを指摘したい。また、情報知識学との関連について述べる。

甲府での平年の114倍の積雪は通常は起きないことが稀に起きた例である。科学は事実と論理に基づいて知識を形成する。気象学は科学であって測定値が事実であるから、2月15日までは、それ以前の積雪量の最多記録が最多記録であり、これを超える値は未だ観測されてはいないが、有り得ないかと否定してはいない。新記録が得られれば、その事実が記録され、その時の気圧配置、雪雲の状態などの事実と関連付けられて知識になる。新記録の発生機構が明らかになれば、気象学の領域の研究成果となる。一方、積雪量とそれに関連する気圧配置などの情報との関係に着目して、その関係を表現する画期的な情報構造あるいは情報知識構造を新規に考案し、その構造の有効性を明示すれば、情報知識学の研究になると思われる。

他の領域の知識も必要になる例とは、大雪は気象学の領域のテーマだが、それに起因する被害からの回復には他の領域の知識が必要な事例である。停電後のサーバ群の復活には情報システム運用管理技術の知識が、災害復旧や除雪には専門家の知識と経験が必要だが、その事例に該当する。

情報知識学会は「情報と知識」についてさまざまな側面から考え、研究し、議論していく場である。本学会の特徴は、特定の分野の情報に限定せず、何れの分野の情報であって

も研究や議論の対象にすることが可能なこと、特定の分野を越える「広い視野」を持って研究し、議論すること、会員にはさまざまな分野の研究者がいることである。

学会誌の研究論文(査読付)を読むと、研究対象領域と研究手法は論文により様々だが、何れの論文も情報と知識を研究していること、新規性のあるユニークな研究の成果であることが分かる。年次大会の発表論文もテーマは実にさまざまであり、多様性がある。情報知識学フォーラムでは特色あるテーマを採り上げて本学会会員だけでなく他の学会の専門家も招いて開催している。テーマを紹介すれば、2013年は「ビッグデータと新たな知識発見」2012年は「震災の記憶・記録とアーカイブズ」2011年は「電子書籍フォーマットをとりまく新しい潮流」等、多彩である。

学会創立から25年、若手の研究者が育ち、学会活動を担っている。またシニア部会も示唆に富んだ講演会を開催する等活発である。

本学会の事務局は凸版印刷(株)内に置かせていただいていたが、同社が耐震工事、部屋の改装工事を行うため、他の学会の例に習い、学会事務局の一部の機能：年会費徴収・会員データ管理を外部委託する方針を立てた。常務理事会で検討して委託先候補から見積書を取り、(株)アドスリーを選定し、理事会の承認を得て決定した。外部委託費用は予算の人件費の中の事務局費用を減額して充てる。4月から事務委託開始の予定で準備を進めている。4月から消費税が上がり、その分、支出が増えるが、支出増を概算したところ年会費の値上げは行わず、会員を増やすことによって対応可能と判断された。

本学会は、その特徴を活かして今後とも前進を続けるべく、会員の参加を心から期待するものです。

研究論文

## テキスト解析手法を用いた河川文化概念の構造化

# STRUCTURING CONCEPTS OF RIVER CULTURE USING TEXT ANALYSIS

川島隆徳<sup>1\*</sup>, 高田知紀<sup>2</sup>, 桑子敏雄<sup>1</sup>, 村井源<sup>1</sup>, 往住彰文<sup>1</sup>

Takanori KAWASHIMA<sup>1\*</sup>, Tomoki TAKADA<sup>2</sup>, Toshio KUWAKO<sup>1</sup>, Hajime MURAI<sup>1</sup>,  
Akifumi TOKOSUMI<sup>1</sup>

1 東京工業大学

Tokyo Institute of Technology

〒152-8552 東京都目黒区大岡山2-12-1

E-mail: {t\_kawa,kuwako,h\_murai,akt}@valdes.titech.ac.jp

2 神戸市立工業高等専門学校 都市工学科

Department of Civil Engineering, Kobe City College of Technology

〒651-2194 神戸市西区学園東町8-3

E-mail: t-takada@kobe-kosen.ac.jp

\*連絡先著者 Corresponding Author

本研究では、テキストを計算機で計量するテキスト解析の手法を用い、複雑で曖昧な河川文化という概念を、講演集「河川文化」からグループ化された名詞という形で抽出・構造化することを試みた。結果、河川文化には地球環境などのグローバルな観点と生活や教育などのローカルな観点の2極が存在し、その間をつなぐように河川工学など、河川そのものに関する概念が存在しているということが示唆された。また、構造化された概念を利用することで、講演の内容を検索できることを示した。これは、現場で問題解決を行う研究者にとって、類似の事例を参考するための簡易な方法となり、抽出した概念を実践で活用する一つの方法となる。

In this research, we extracted and structured the concept of the river culture which is indefinite and elusive from a lecture collection "river culture" using the technique of the text analysis which measures a text by a computer. It is suggested that there are two major groups of concepts in river culture. One is global such as earth environments, and the other is local which focuses on living, education, etc. And concepts about the river itself, such as river engineering, exist to connect these two groups. Moreover, using the structured concept, it is possible to reach the contents of the lecture corresponding to an actual problem, and the possibility of application to practices was shown.

キーワード: 河川文化, テキスト解析, 川づくり

River culture, Text analysis, River reconstruction

## 1 はじめに

1997年の河川法改正によって、我が国における河川整備あるいは河川管理の目的に治水・利水のみならず良好な環境の保全創出が加えられ、国土交通省や地方自治体は、環境配慮型河川整備に積極的に取り組むようになった。また、2006年に国土交通省が全ての川づくりの基本として示した多自然川づくり基本指針には、「河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境および多様な河川景観を保全・創出」とするとともに、「地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮」した河川管理を行うことをうたっている。そこで、自然科学的諸条件のみならず河川を取りまく様々な文化的要素をふまえた川づくりの推進が求められるようになった。つまり、「河川文化」が川づくりにおける重要なキーワードになったのである。

我が国において河川は、近代以降における利水・治水や生態学的見地のみならず、古人びとの生活の軸として様々な機能や役割を有していた。河川を取りまく文化的要素は多岐の分野にわたっており、河川文化は複雑で曖昧な概念である。したがって河川文化をふまえて川づくりを展開していくためにはまず、河川文化を構成する要素を明らかにしなければならない。さらに、具体的な活動を展開するなかで有効であると考えられるのは、川づくりを実施する主体が、自らの活動が河川文化のどの範囲をカバーしているのか、あるいはどのような要素を新たに加えればより網羅的に河川文化を反映できるのかということ把握することである。そのためには、河川文化の概念を構造化し、かつ人び

とが直感的に理解できるような概念体系を構築する必要がある。

そのような河川をとりまく多様な要素の体系化は、実際の川づくりのプロセスでも重要なニーズとなっている。本論文の執筆メンバーである桑子、高田は、新潟県佐渡市の天王川自然再生事業に、合意形成マネジメントチームとして携わっている[1]。その事業で重要な課題であったのが、天王川の下流に位置する加茂湖という汽水湖との関係であった。加茂湖はカキやアサリの養殖が盛んであり、多くの人びとが漁業によって生計を立てている。加茂湖の漁業者は、天王川で工事を実施することによって、下流に位置する加茂湖の水産資源に悪影響を及ぼすことを強く危惧していた。つまり、河川における生態系保全と湖沼における水産資源保護が対立的に捉えられていたのである。したがって、天王川再生を地域との合意のもとに進めていくためには、河川の自然再生と漁業の活性化をどのように関連付けていくかが大きな課題であった。このような具体的な合意形成マネジメントに携わる立場として、河川整備事業をとりまく様々な要素の関係性を把握することは、きわめて重要な意味合いをもつ。なぜなら、実際の合意形成の場面においては、ステークホルダーが事業の具体的な課題とその解決の方策を共有することが求められるからである。天王川の例では具体的に、「川づくり」と「漁業」、あるいは「生態系」といった要素がどのようにかかわっているかを理解・共有し、事業の方向性を検討しなければならない。そのような場面において、河川文化概念の諸要素が構造的に明示され

ていれば、合意形成マネジメントを実施する者は、ステークホルダーとともに、課題解決のためのいくつかの有用なヒントを得ることができる。たとえば、「川づくり」と「漁業」という要素が乖離しているのであれば、その間をつなぐ要素にはどのようなものがあるかということ把握することで、創造的なブレイクスルーを見いだすことが可能となる。つまり、河川文化概念の構造化は、河川整備事業の合意形成プロセスにも大きく貢献すると考えられる。

しかしながら、河川文化は領域融合的でかつステークホルダー間の価値観の相違の問題を含んでいるため、特定の問題のみを扱う方法では全体像は見えてこない。従って、大規模なデータ分析に基づいて河川文化の構造を定量的に抽出する必要がある。

分析すべきデータとしては、河川とその文化にかかわる様々な事象について言及した文献や講演記録などのテキストが考えられる。様々な方向から語られる河川に関する言説を分析することで、河川文化概念の領域とその諸要素間の関係性が明らかになる可能性がある。そこで本研究では、財団法人日本河川協会が主催する「河川文化を語る会」の講演集『河川文化』を分析対象として用いた。選定理由は以下の3点である。ひとつ目の理由は、この講演会では、河川文化を一貫したテーマとしながらも、様々なバックボーンをもった講演者が、自由に、バラエティに富んだ講演を実施していることである。したがって、既成の枠組みにとらわれることなく、河川文化を構成する要素について考察することが可能となるふたつ目の理由は、本講演集が河川文化を一貫したキーワードとしている点である。「河川」や「河川環境」をテーマにした文献は存在するものの、河川文化

を直接のテーマにした文献は他にみられない。最後の理由は、同様のフォーマットでまとまった量のテキストデータが蓄積されている点である。『河川文化』が河川文化の全てを包括しているわけではなく、講演者の偏りもあるという欠点が考えられるが、そもそも河川文化の概念が曖昧である以上、網羅的にデータを収集することは難しい。まずはまとまった形のある『河川文化』を対象とすることで概念を明確化するための適当な一歩を踏み出すことが可能になる。

本研究の目的は、河川文化に関する概念を整理し構造化することである。そのために、まず河川文化の要素をテキストから抽出した(4章)。次に、構造化の一手法として、抽出された要素間の関連性を調べた(5, 6章)。最後に、得られた関係性をもとに、実際の活動への適用について検討した(7章)。

## 2 既存の研究

河川文化にかかわる既往研究は、大きく二種類に分類できる。ひとつは、個別事例におけるケーススタディや調査研究である。たとえば、林ら[2]は、京都の鴨川を対象に、明治・大正期の料理屋・貸座敷営業者による河岸地と堤外地の土地利用のしくみについて研究している。中嶋らの研究[3]は、郡上八幡における地域コミュニティと水辺空間の関係について調査を行なったものである。また、竹林[4]は、富士川の歴史的変遷を詳細に調査し、富士川を軸とした様々な工学的・文化的要素を紹介している。富山の研究[5]は、淀川、利根川、木曽川、筑後川のそれぞれの流域における文化史に焦点をあてたものである。

ふたつ目は、ある特定の分野・観点から河川にかかわる文化的事象について考察して

いるものである。中村[6]は、景観工学の観点から、生態系と地域文化の一体的再興を通じた水辺空間形成の必要性を説いている。高橋[7]は、琵琶湖疏水や信濃川などの例をあげながら、土木技術と文化の関係について言及している。また、富野[8]も、土木工学の観点から、日本における様々な伝統的河川工法を紹介している。大熊[9]は、洪水の歴史に着目し、治水と地域文化のなかで形成されてきた治水の技術と思想について考察した。

以上のように、個別事例における研究、あるいは特定の分野からの文化に関する考察は実施されているものの、工学・社会・環境・教育・歴史・文学・芸術など多岐の分野にまたがる河川文化を網羅的に取り扱ったものはない。また、広範な領域にまたがる河川文化の概念が体系的に示されていないということは、たとえば第三者がある事例から何かしらのヒントを得ようとした時、それが自分のプロジェクトのなかのどのような問題に對して適応されるべきかわかりにくく、継承されにくいという問題点も存在する。これらの問題を解決するためには、河川にまつわる様々な要素の抽出、分類、関係性等の調査と、対応する事例を検索するためのしくみが必要になる。

一方で、近年テキスト解析という手法を用いて、大規模なテキストから定量的なデータを得る手法が普及してきている。これらはアンケートの分析やインターネット上での市場調査等に用いられるだけでなく、政党の方針の解析[10]や学術誌の傾向調査[11]など、学術的な分野での利用も存在する。大量のデータを客観的な手順で定量化できるため、複雑で情報量が多い領域から問題の要素を切り出すことに長けている。

テキスト解析の方法には様々なものがあ

るが、本研究ではテキストを構成する単語の相互関係についての統計的指標に基づいて、単語の自動カテゴリ化、さらにカテゴリのネットワーク化等をおこないテキストの内容を抽象化して把握する手法を用いた。

### 3 データ

本研究では、「河川文化」その1～31[12]に含まれる全132の講演会の書き起こしを対象とした。電子化されたテキストから図表、キャプション、ルビを取り除き、その後MeCab[13]を用いて形態素解析を行い名詞、動詞などの単語に機械的に分解した。全84861文、のべ2323961語となった。

さらに、132の講演をまとまりとして扱うため、講演者の専門と内容によって講演を4つの大きなまとまり（講演カテゴリ）に分類した。分類は、講演の内容および講演者の専門を基に人手で行った。分類の結果を表1に示す。

表1 講演カテゴリ

| 講演カテゴリ | 講演数 |
|--------|-----|
| 環境・生態  | 44  |
| 社会・暮らし | 20  |
| 土木・空間  | 30  |
| 文化・歴史  | 38  |

## 4 河川文化要素の抽出

### 4.1 方法

河川文化に関する要素は、テキストの中では文、さらにはそれを構成する単語によって表される。また現行の多くのテキスト解析ではテキストを単語単位で計量するため、この手法を使って要素を抽出するためには、必然的に単語や単語の集合を要素として認定する必要がある。河川事業は実際の物を扱う事業であり、専門的な単語も多いため、単語、中でも名詞をもって要素とみなすというの

は直感とも大きく違わない。

名詞の中にも、河川文化に関するとは認められないような語（例えば講演会の記録であることに起因する語“拍手”）は多いため、それらを除く必要がある。また、全ての名詞を個別の要素としてしまうと、要素の数が多くなりすぎて見通しが不明瞭になる。そこで、名詞を選定し、カテゴリ化（グルーピング）することによって要素をまとめる作業が必要となる。このような選定とカテゴリ化は完全に機械的には行えないため、川づくり活動に携わる研究者の手作業を自動処理で補完して行った。

- 1) 品詞が「一般名詞」「固有名詞」「サ変接続名詞」（IPAdic[14]の定義による。これら3つは他の語の一部となっていない名詞である）である語をプログラムで抽出した。
- 2) それぞれの講演毎に、単語の出現回数を参考に人手によって重要な名詞を選択した。また、講演記録であることに由来する高頻出語（「拍手」「図」「写真」「話」「お話」「先生」「司会」「質問」「自分」）、抽象概念などの非具体的な語（「関係」「意味」「先」「下」）、および河川文化のどの講演でも頻度が高いために分野毎の特徴を消失させる語（「水」「川」「河川」「日本」「人」「時代」）を除いた。
- 3) 抽出した名詞において、人手で最も近い語二つをペアにし、さらにそのペアを別の名詞/ペアとペアにした。これを、ペアの数が減るまで繰り返した。このようにしてできあがった単語の集合をカテゴリと呼ぶ。
- 4) できあがったカテゴリに含まれる単語を元データにし、出現頻度が50回以上で未

分類の単語（重要だが、見逃した可能性のある単語）を、共起ベクトルを指標としたクラスタリングで各カテゴリにプログラムを用いて自動的に分類した（[15]と同様の手法）。

- 5) 自動分類の結果を手でレビューし、誤分類を修正した。
- 6) カテゴリには、含まれる頻度の高い単語を基に人手でカテゴリ名を付与した。

## 4.2 結果

テキストに含まれる「一般名詞」「固有名詞」「サ変接続名詞」の単語、全36079語（合計出現頻度439408回）のうち、1064語（合計出現頻度102425回）が要素として抽出され、49のカテゴリに分類された。分類の結果を表2に示す。含まれる単語の数は、各カテゴリが内包する語の数を、カテゴリの出現頻度はカテゴリの単語が合計で何回登場したかを、頻出テキスト数は、 $\chi^2$ 検定および残差分析の結果、カテゴリの出現数が有意（ $p < .05$ ）に多いと判断されたテキストの数を示す。

最多のカテゴリは、「地理・地形・地質」であり、最少のカテゴリは「機械・装置」であった。一方頻出テキスト数が最大なのは「日本地名」、最小なのは「機械・装置」であった。

## 4.3 考察

頻出テキスト数が最大であったのは「日本地名」であった。これは多くの講演が特定の場所に関する話題を扱ったものであるからだと考えられる。類似の「海外地名」なども頻出テキスト数が多く、河川文化に関する活動の多くは特定の川や地域に根ざしたものであるということが示唆される。

「河川一般」、「社会一般」、「科学技術全般」のカテゴリには、様々なコンテキストで使われ、単体では河川文化の特定の一面を

示すとは言えないような語が多く分類され 語は、景観、生物の生息地、護岸等の災害関  
た。例えば、「河川一般」の“水辺”という単 連、人と川がふれあう場所等、様々な意味で

表2 単語カテゴリー一覧

| カテゴリ名      | 代表的な語               | 含まれる<br>単語の数 | カテゴリの<br>出現頻度 | 頻出テ<br>キスト数 |
|------------|---------------------|--------------|---------------|-------------|
| 地理・地形・地質   |                     | 35           | 5022          | 22          |
| 環境・衛生      | 環境, 汚染, 栄養          | 43           | 4644          | 28          |
| 河川一般       | 上流, 流域, 流れ          | 28           | 4602          | 32          |
| 生態系        | 生物, 動物, 保護          | 37           | 4281          | 25          |
| 気候・気象      | 雨, 冬, 風             | 29           | 3997          | 22          |
| 土木構造物・建設工事 | 工事, ダム, 橋           | 37           | 3980          | 24          |
| 防災         | 洪水, 災害, 治水          | 32           | 3693          | 21          |
| 日本地名       | 東京, 京都, 大阪          | 44           | 3444          | 33          |
| 森林・植生      | 木, 植物, 森            | 20           | 3392          | 19          |
| 海外地名       | 中国, アメリカ, ドイツ       | 45           | 3311          | 29          |
| 風習・民俗      | 文化, 伝統, 神社          | 50           | 3118          | 25          |
| 水中生物       | 魚, 貝, アユ            | 25           | 3115          | 17          |
| 地球環境       | 地球, エネルギー, 自然環境     | 18           | 3079          | 19          |
| 歴史         | 歴史, 江戸時代, 近代        | 40           | 3041          | 28          |
| 教育         | 子供, 学校, 学生          | 24           | 3011          | 16          |
| 科学技術全般     | 技術, 開発, 情報          | 25           | 3008          | 26          |
| 海          | 海, 海岸, 海水           | 20           | 2990          | 21          |
| 農業         | 農業, 畑, 米            | 32           | 2491          | 20          |
| 水利用        | 水源, 用水, 水道          | 25           | 2163          | 22          |
| ヒト・カラダ     | 体, 心, 女性            | 30           | 2095          | 23          |
| 交通         | 道路, 船, 舟            | 12           | 2090          | 17          |
| 都市・まち      | 町, 都市, 市民           | 11           | 2026          | 27          |
| 食品・飲料      | 酒, 食べ物, 食料          | 19           | 1997          | 9           |
| 文学         | 歌, 文学, 物語           | 34           | 1833          | 16          |
| 学術         | 研究, 学者, 論文          | 3            | 1793          | 24          |
| 政治・政策      | 事業, 行政, 国土交通省       | 25           | 1770          | 19          |
| 生活・暮らし     | 生活, ふるさと, 暮らし       | 32           | 1625          | 21          |
| 湖沼         | 湖, 池, 琵琶湖           | 19           | 1536          | 17          |
| 河川名称       | 利根川, 多摩川, 隅田川       | 24           | 1509          | 24          |
| 山          | 山, 里, 山地            | 15           | 1495          | 28          |
| 経済・経営      | 経済, 会社, 消費          | 13           | 1302          | 14          |
| 医療・福祉      | 命, 生命, 障害           | 30           | 1272          | 15          |
| 河川工学       | 流量, 浸透, 流速          | 22           | 1227          | 20          |
| 社会一般       | 社会, 人口, ネットワーク      | 6            | 1186          | 16          |
| 音楽         | 音, 音楽, 琴            | 11           | 1154          | 6           |
| 景観         | 風景, 景観, 景色          | 14           | 1038          | 12          |
| 哺乳類・鳥類     | 鳥, コウノトリ, カラス       | 6            | 1012          | 10          |
| 物質・資源      | コンクリート, 資源, 鉄       | 12           | 914           | 17          |
| 爬虫類・両生類・虫  | ホタル, トンボ, オオサンショウウオ | 11           | 900           | 6           |
| 水質         | 水質, 塩分, 軟水          | 7            | 862           | 13          |
| スポーツ・アメニティ | 観光, 遊び, 旅行          | 20           | 846           | 15          |
| 漁業         | 水産, 釣り, 漁業          | 16           | 813           | 15          |
| 絵画・美術      | 絵, 芸術, デザイン         | 13           | 700           | 15          |
| テレビ・マスメディア | テレビ, 映像, 映画         | 9            | 672           | 16          |
| 造園         | 庭, 桜, 栽培            | 12           | 621           | 13          |
| 建築         | 屋根, 建築, 住宅          | 8            | 562           | 22          |
| 物理         | 空間, 光, 物理           | 5            | 548           | 19          |
| 芸能         | 能, 歌舞伎, 芸能          | 11           | 368           | 7           |
| 機械・装置      | ポンプ, 人工衛星, GPS      | 5            | 277           | 5           |

用いられている。これらのカテゴリは分類としては必要だが、細かい部分を見て行く際にはその多義性から解釈が困難であるため、5章以降の解析対象から除外することとした。

## 5 要素の関連性の解析(全体)

### 5.1 方法

要素の関連性については様々な考え方があるが、本研究では、一つの講演内で、二つの要素AとBが両方触れられているとき、それらに関連性があるとする。もちろん、時間の制約上講演者が語りたくとも語れなかった部分があると考えられるが、限られた時間の中で選択された話題だからこそ、その間の関連についても語りたかったと考えることができる。ここでは、以下のような手順で各講演が内包する要素の関連性をプログラムで抽出した。なお、本章以降、要素は名詞単位では無く、それをまとめたカテゴリを単位として解析を行う。

- 1) 講演毎に、各カテゴリの出現頻度を求める。

- 2)  $\chi^2$ 検定および残差分析を用い、それぞれの講演において有意( $p < .05$ )に出現頻度が多いカテゴリを明らかにする(講演が言及しているカテゴリを特定する)。
- 3) 得られた講演毎のカテゴリ間に関連があるとし、ペアを作る。
- 4) 全ての講演で、ペアの出現回数を数える。ただし、3)において、カテゴリとして単一の意味づけが困難である「河川一般」、「社会一般」、「科学技術全般」、「日本地名」、「海外地名」、「河川名称」の6つのカテゴリは対象外とした。

具体例で説明する。講演「地球環境問題と河川」では、「環境衛生」、「気候・気象」、「防災」、「政治・政策」、「地球環境」、「農業」、「水利用」、「河川工学」の8つのカテゴリの出現頻度が高かった。この講演ではこれらの8つに係り性があると考え、 ${}_8C_2=28$ のペアが講演から抽出される。各ペアの出現を他の講演でも見てみると、例えば「地球環境」と「気候・気象」の両カテゴリに言及している講演は全部で11あったため、

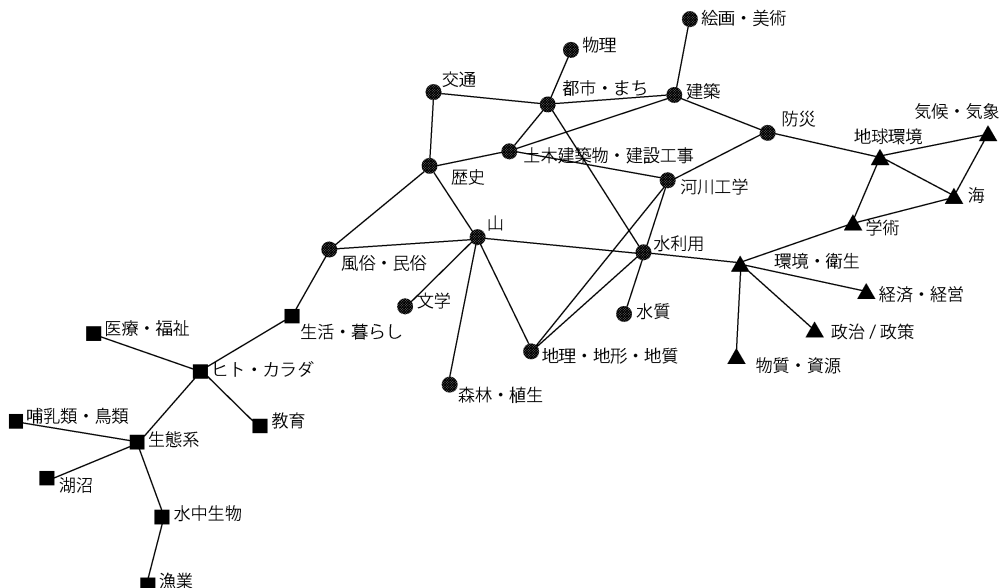


図1 カテゴリの関連ネットワーク (7回以上出現したペア)

このペアの出現回数は11となる。

このようにして得られたカテゴリのペアを、カテゴリをノード（点）、ペアをエッジ（線）とするネットワークとして可視化した。

なお、頻度が高いペアの代わりに少数のペアに着目して、講演の独自性や講演者の個性などを抽出することも可能であるが、本研究では一般的な河川文化概念の抽出を目的とするため、出現頻度の高いペアに着目している。

## 5.2 結果

全132の講演は最低3カテゴリ、最大12カテゴリ、平均7.0カテゴリについて言及しているという結果が得られた。ペア種類の最大論理値は ${}_{43}C_2=903$ 種類であるが、実際に見いだされたペアは697種類だった。ペアの最大出現回数は14、平均は2.9であった。

次にネットワーク図を示す。全てのペアを表示したネットワーク図はエッジが多く、解釈が困難であるため、出現回数が7回以上のペアのみを描画したネットワーク図を示す

（図1）。7という値に設定したのは、ネットワークを簡易にするためになるべく出現回数が多いペアを残す必要があるが、8回以上に設定するとネットワークが複数の部分ネットワークに分断されてしまうという理由からである。このネットワークでは、43カテゴリ中、33カテゴリが登場している。登場していないカテゴリは、7回以上出現するペアを持たないため、ネットワークから切断されたものとなる。

ネットワークのノードの形は、Girvan-Newman-コミュニティ抽出法[16]でネットワークを3つに分割したグループを示す（グループ毎にノードの形を変えている）。

## 5.3 考察

Girvan-Newman法で分割された3つの部分

ネットワークは、それぞれ以下のように解釈できる。まず一つ目は、ノードの形が▲の環境問題を中心としたカテゴリ群である。この群には、「地球環境」や「気象・気象」、「海」など、グローバルな視点が多く含まれる。二つ目のカテゴリ群は、ノードの形が■の、ローカルな要素を含む群である。例えば、ヒト・カラダ、生活・暮らし、教育などが含まれる。

さらにこれらのグローバルなカテゴリ群とローカルなカテゴリ群を繋ぐ形で、ノードの形が●の三つ目の群が形成されている。この群には「河川工学」、「水利用」、「水質」など、河川そのものに関わるカテゴリが含まれ、そこに「山」などの地形、「都市・まち」や「建築」などの工学的側面が合わさった形になっている。これらの要素によって確認できるのは、河川文化を構成する要素において、ローカルな問題とグローバルな問題は、

「川」や「山」などの土地と、「建築」などの工学を介してつながるということである。以下、ネットワークの中で重要な関連を取り上げていく。

### 5.3.1 河川工学と地球環境問題

地球環境と気候・気象を包含した問題として、気候変動の問題をあげることができる。気候変動の問題は、人類の絶対的生息基盤の存続のために喫緊の課題である。例えば、脱温暖化のための具体的なCO<sub>2</sub>削減の実現にむけて、国家レベルで様々な取り組みを実施している。そのような社会的背景のもとで、河川整備においても地球温暖化問題へ何らかの形で貢献することが求められる。例えば、コンクリートを極力用いない多自然工法による河川工事は、従来の工法に比してCO<sub>2</sub>排出量が大幅に低減できることが示されている[17]。また、再生した草本類をバイオマス

としてエネルギー利用することにより、さらなる削減効果が期待できる。さらに、河川における小水力発電設備の導入によって、火力発電や原子力発電に依らないクリーンエネルギーの生産が可能となる[18]。このように、今後検討しなければならない重要なテーマは、河川整備や河川管理を通してどのように地球規模での気候変動問題の解決に貢献するかということである。

しかし、ネットワークでは「地球環境」と「河川工学」は直接接続されておらず（ペアの出現回数は4回）、「防災」を通じて繋がっている。

ネットワーク図には表示されていない「河川工学」と「地球環境」「気候・気象」のペアを含む講演を調べると、前者は4講演、後者は6講演が見つかった。

これらの講演では、特に世界における気候変動に起因すると考えられる水害、およびそれらの水害等に対する対処の方法について言及しているという点で、おおむね共通している。例えば、「地球環境問題と河川」の講演者である沖大幹は、河川工学において的確な治水対策を施すためには、降雨や水文データなど広範囲の気候現象を視野に入れ、予測を実施していくことが重要であると述べている。そこで、河川の問題についても地球レベルでの視野が必要となるのである。また、「ネパール王国を襲う氷河湖決壊洪水」では、氷河湖の決壊とそれがもたらす災害について論じるなかで、気候変動と氷河変動の問題についても言及している。

上述のようなことは、ネットワーク図においても、「河川工学」と「地球環境」のカテゴリは、「防災」カテゴリを介することにつながりをもっているからも把握できる。

### 5.3.2 水系を包括的にとらえる視点

ネットワークから、河川工学と海の要素間のつながりはそれほど強調されていないことがわかる。河川と海は連続しており、それらを流域や水系の視点から連続的に捉えることの重要性は、多くの研究者によって指摘されている。川から海への水系を包括的に捉える視点を導入するためのヒントはどのような点にあるのだろうか。

「海」カテゴリと「河川工学」カテゴリのつながりが強かった講演は全部で4つ存在した。

その一つ、「さまよえる湖・消えゆく湖ー変貌する中央アジアの水環境ー」では、タクラマカン砂漠で頻発するようになった洪水被害とアラル海の問題との関連性について、水循環のバランスに着目しながら言及している。アラル海は海ではなく内陸湖であるものの、砂漠、洪水、湖というそれぞれが連関する流域システムを包括的に論じる視点をもっていると言える。この講演では、人によって水環境にわずかな変化を加えれば、それが時としてより広範囲の水循環のバランスに影響をおよぼす可能性を指摘し、自然の摂理に従った水資源開発や水管理の必要性を説いている。その他3つの講演においては、海と河川に関する用語が出てくるものの、それらは別々の物として語られており、川から海までの水系全体の関連性はほとんど強調されていない。

### 5.3.3 防災と生活

「防災」カテゴリと「生活・暮らし」カテゴリについて、双方を網羅的に語る講演は存在しなかった。ネットワーク図では、「防災」は「地球環境」や「河川工学」のカテゴリと結びついていることから、これまでの防災については技術的あるいは科学的側面を重視して考えられてきたことがわかる。東日本大

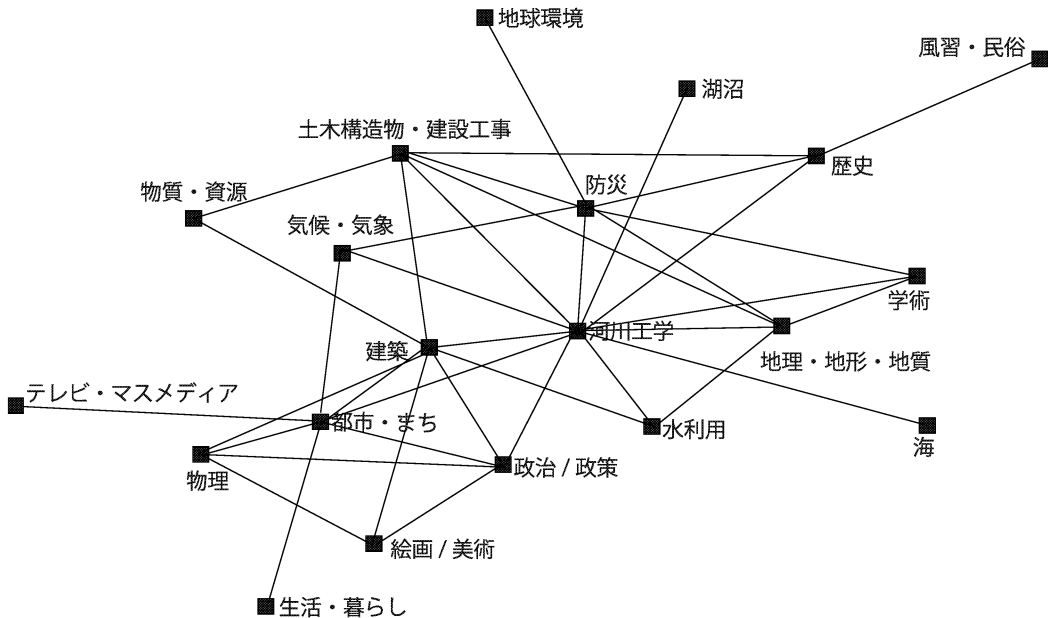


図2 土木・空間のネットワーク

震災の経験からわかるように、科学的技術的な方法で対処することがコスト等の観点も含めて現実的では無い災害が発生することがある。重要なのは、科学技術によって天災からハードに人間を守る姿勢と、それでは防げない災害にソフトに応じていこうとする姿勢をうまく融合させることである。さらに言えば、自然を対立項と捉えて災害を押さえ込もうとする近代の思考的枠組みを超えることである。また、人びとの生活のなかに防災意識を位置づけ、自然現象と良好な関係を築いていくような新たな文化を構築していかなければならない。このことが、これから人間が河川文化を醸成していくうえでの重要な課題となるだろう。

## 6 要素の関連性の解析(講演カテゴリ)

り)

### 6.1 方法

講演者の所属や専門領域、関心分野などによる視点の違いを探るため、3章での講演カテゴリに従ってそれぞれのカテゴリ毎に5章で抽出したペアをネットワーク化した(出現回数4以上、ただし、「社会・暮らし」、「土木・空間」は講演数が少ないため、3以上)。また、場合によってGirvan-Newman法でネットワークを分割した。分割を行った場合には、グループ毎にノードの形を変えている。

## 6.2 結果と考察

### 6.2.1 土木・空間のネットワーク

土木・空間の講演カテゴリには、具体的には河川工学、水文学、建築、景観工学、防災などの分野における研究者・実務家の講演が含まれる。

ネットワーク図(図2)を見ると、「河川工学」を中心として、土木、建築、都市・まち、といった要素が多く語られていることがわかる。またネットワークの密度が高く、要素同士の関連が比較的まとまっていること

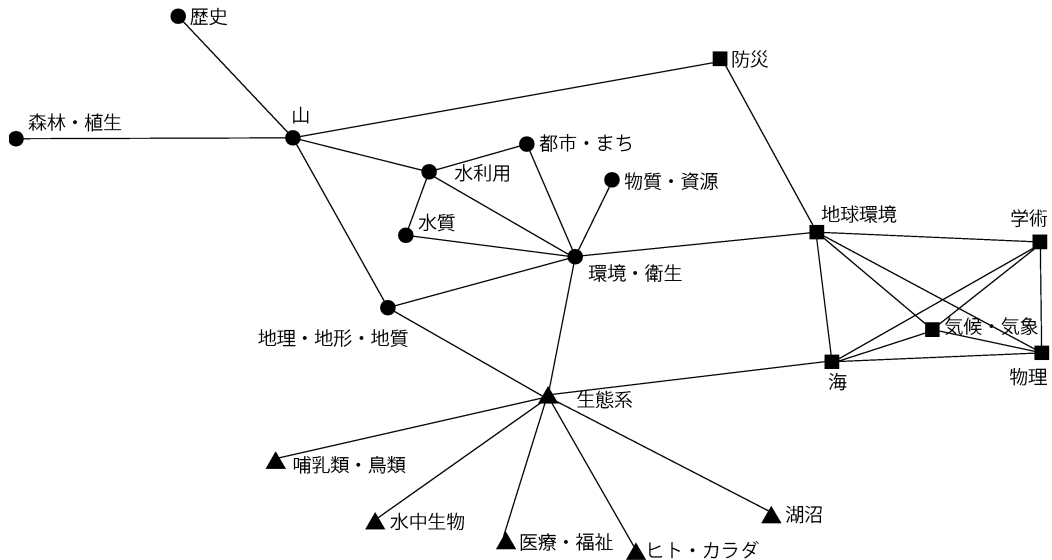


図3 環境・生態のネットワーク

から、これらの講演は自分達の領域の要素をしっかりと捉えている、あるいは要素が限られている、ということが推察される。

特徴的なのは、絵画・美術に関する言及が多かった（6講演）ことである。これは、景観や建築物および土木構造物のデザインに関する講演のなかで、“絵”，“デザイン”，“美学”，“アート”といった単語が頻出していることに起因している。また、「風習・民俗」（5講演）、「歴史」（7講演）についても多く語られている。信玄堤に関する講演や伝統的河川工法など、建築史に関わる講演が見受けられた。

### 6.2.2 環境・生態のネットワーク

環境・生態の講演カテゴリには、衛生工学、地球環境、バイオ・リサイクル、化学、森林、生物、生態系、海洋などの分野における研究者・実務家の講演が含まれる。

環境・生態のネットワーク（図3）を Girvan-Newman法で3つに分割すると、「生態系」、「気候・気象」、「環境・衛生」をそれぞれ中心とする群に分かれる。「気候・気

象」の群は図1と同様グローバルな視点のカテゴリを示すと考えられる。ここに「生態系」を中心とする生物のカテゴリ群と、環境と言っても身の回りの環境を示す「環境・衛生」群が結びついている構造が見てとれる。

「気候・気象」では、図1では離れたところにあった「物理」カテゴリが近接している。これは、物理シミュレーションによって気候や環境の問題に取り組むいくつかの講演に起因している。「生態系」の群で注目すべきは、医療・福祉について多く言及している講演が5つある点である。これらの講演では、環境と生命の問題を関連付けて医療を論じていることが特徴的である。「環境・衛生」の群では、「歴史」のカテゴリが特徴的である。これには、近代以前の水循環システムを考察しながら、現代の水環境のあり方について言及した講演が影響している。

### 6.2.3 社会・暮らしのネットワーク

社会・暮らしの講演カテゴリには、教育、食品、水産業、農業、政治などの分野における研究者・実務家の講演が含まれる。

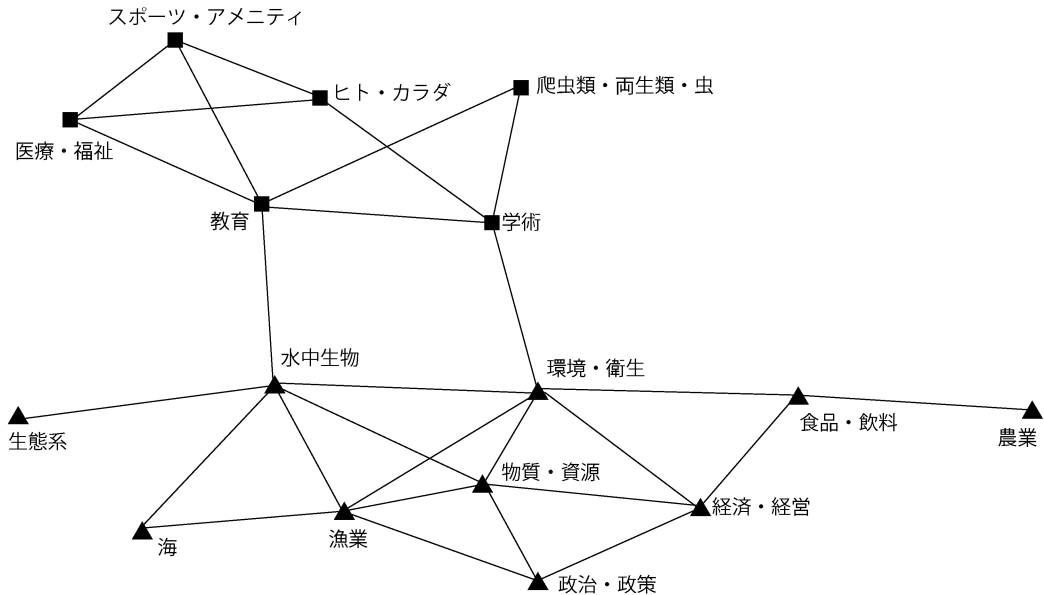


図4 社会・暮らしのネットワーク

ネットワーク（図4）は大きく二つの群に分かれる。「教育」をベースにした上半分（ノードの形が■）と、「漁業」，「食品」，「資源」などをベースにした身の回りの資源の群（ノードの形が▲）である。

教育の群では、高校教員などの教育実務者によって、教育現場における先端的科学技術の実践や草花の品種開発等の取り組みが語られていることもあり、「学術」とも関係がある。ここに、「医療・福祉」や「スポーツ・アメニティ」など、人間を対象とした生活の要素が結びつき、この群を構成している。

一方で、下半分のカテゴリは「水中生物」を中心とした漁業や水辺の生き物が、「物質・資源」を経由して「食品」関連のカテゴリにつながっている。これらのカテゴリは、漁業、食品会社、農業などの個別の講演から生じているが、「政治・政策」も踏まえた資源という大きな絵が重要であるということを示唆している。ただし、社会・暮らしの講演カテゴリでは、「水質」に関する言及は1

講演、「水利用」に関する言及は0講演であり、水を資源として捉える観点が不足していると考えられる。「水利用」は土木・建築の講演カテゴリで主に語られている。

#### 6.2.4 文化・歴史のネットワーク

文化・歴史系の講演カテゴリには、絵画、文学、映像、音楽、歴史、民俗学、宗教などの研究者および実務家の講演が含まれる。これらの講演では「風習・民俗」を中心として、凝集したネットワークになっている（図5）。

興味深いのは「交通」で、文化・歴史の中の12の講演で、「交通」に関する単語が有意に多く語られていた。これらの講演のほとんどで、川を軸とした交通機能としての舟運について言及している。また、「河川を舞台にした能—殺生の川・恩愛の川—」では、川を舞台にした能の演目のなかで、やはり舟の登場する情景を語っている。ネットワーク上でも他の様々な要素と結びついていることから、河川の交通には様々な歴史的観点が関係

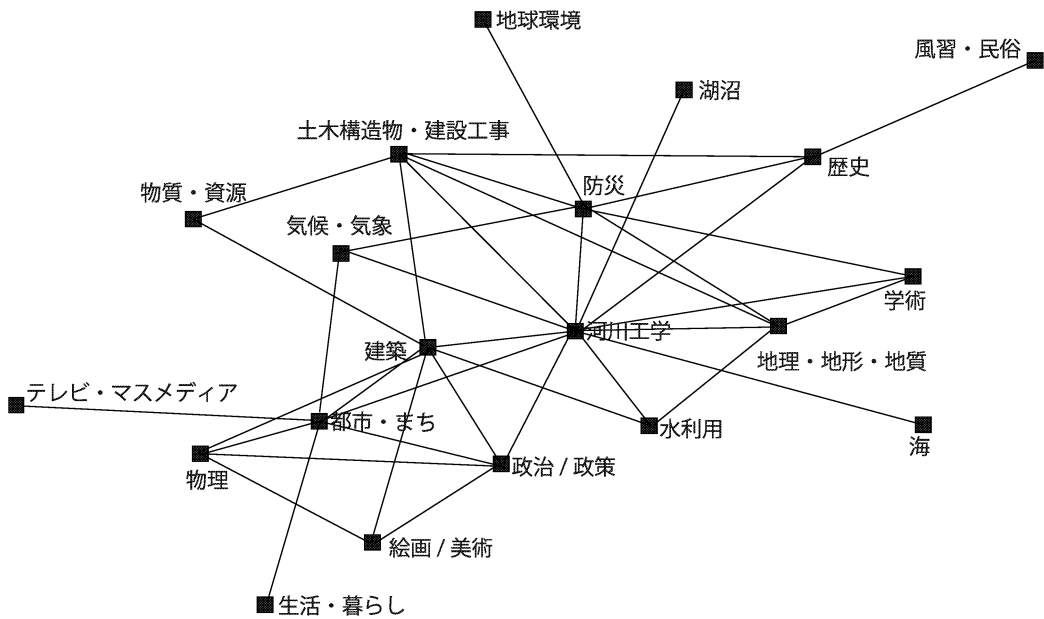


図5 文化・歴史のネットワーク

していることが示唆される。なお、「交通」は他の講演カテゴリではネットワークに出現していない。現在ではあまり利用されていない河川を使った交通を対象とする物であるため、必然的に歴史的な話になってしまうからであると考えられる。しかし、講演の中にはこのような歴史的な水運を復興させようという動きの話もあり、土木・空間の講演カテゴリ等でも言及されてよい要素である。

## 7 実践への貢献可能性

本論文の第1章で述べたように、本論文の執筆メンバーである桑子、高田は、新潟県佐渡市の天王川自然再生事業に、合意形成マネジメントチームとして携わっている。そこでは、河川の下流に位置する湖の漁業者との合意形成が重要なポイントであった。このような川づくりの実践上の課題について、本研究の成果が貢献しうる内容の一つとして講演の検索が挙げられる。

もちろん、適切なキーワードで全文検索す

ることで必要な講演が見つかる可能性はある。しかし、分野横断的な領域の場合、類似の内容を別の語彙で示すことは一般的であり、網羅性をもったキーワード検索は困難である。また関連分野数が多いため、周辺分野や関連分野の関係性や、個々の分野が問題としている内容も明示的ではない。これに対して本論文の手法は、ネットワーク構造の視覚的提示を実現し、かつ特定の問題領域を示す語彙をカテゴリに分類したことで、分野間の関係性を把握した上でその問題点に関わる適切なキーワード(カテゴリ)を用いて論文を検索することを可能にしている。

例えば、「漁業」は、「水中生物」を介して「生態系」とつながっているが、「生活・暮らし」、「環境・衛生」、「河川工学」などのカテゴリとのつながりについては、これまでの講演でそれほど強調されていないことがわかる。そこで、「漁業」と「生活・暮らし」、「環境・衛生」、「河川工学」のカテゴリについて有意なペアを構成している

講演があるかどうかを調べてみる。「漁業」と「生活・暮らし」および「河川工学」のカテゴリについて有意に語っている講演はなかった。「環境・衛生」については、「二十一世紀の食料・農業問題—農的循環社会への道—」, 「汽水に包まれた国, 日本」, 「河川の生態系と漁業について—汽水域のヤマトシジミを中心に—」, 「海と水産業の再生—森と川とのかかわり—」の4つの講演が抽出できた。講演数としてはわずかであるが, これらの講演のなかから課題解決のための重要な示唆を得られるかどうかみてみよう。

その「汽水に包まれた国, 日本」では講演者が, カキ養殖のための良好な環境は, 海から森までの環境を一体的にとらえることで担保されるという考えを述べている。つまり, 上流側の環境改善は, ひいては下流側の水産資源の品質確保へとつながるというのである。そこで講演者は, 山に漁師が広葉樹をつくるという例を紹介している。また, その「海と水産業の再生—森と川とのかかわり—」では, 河川を含む水循環全体のシステムの改善が, 水産業や農業などの問題解決につながる指摘している。

このように講演記録から, 上流側の環境再生は, 下流に位置する海, あるいは湖の水産資源にも必要な取り組みであるという情報を得ることができる。河川文化の講演集を構造化したことによって, それぞれの取り組みにおけるトピックに即したテキストの抽出が可能となり, 現場での有用性が増したと言える。さらに, 直感的には関連性を持っているにもかかわらず, その関係を語った講演が無いことは, そのような視点についても意識的に考えなければならないということを示唆している。

## 8 まとめ

本研究では, 河川文化のテキストからその要素を抽出し, ネットワーク化することでその構造化を試みた。結果として, 図1で示されたように, 河川とその周辺領域に纏わる要素が, グローバルな部分, ローカルな部分に分かれており, その間をつなぐ要素として河川工学などの「河川」があるという大きな構造が示唆された。

本研究は講演集「河川文化」を対象としたケーススタディである。しかし, 8章で述べたようにこの構造を利用して, 実際の活動で問題となる要素を抽象化したり, 応用可能な講演を探したりすることができる。たとえば, 本研究の成果を用いることで河川管理者は, 河川にかかわるより多様な視点を得ることが可能となる。このことは, 河川環境を多機能的に捉え, 河川内の部分的な整備・管理にとどまらず, 川を軸とした自然と人間が共生する豊かな地域社会を形成していくためのヒントを見出すことにもつながる。そういった点において, 本研究は河川文化という複雑かつ曖昧な概念を, 川づくり, あるいは河川にかかわる研究活動のなかに組み込んでいくためのひとつの契機, あるいは具体的手法の提案という意味合いも持つ。

本研究で使われた手法は, a) 不要単語の選定, b) 単語の類似性の判断, c) 機械による自動分類のレビュー, d) 講演の分類の4つの部分で研究者による恣意性が入り込んでおり, この部分については科学的な正当性も, 他の研究者による再現性も無い。とはいえ, 分類作業は専門的な研究者によって行われており, 上記の結果については, 分類を行った研究者の主観をシステムティックに構造化し, その構造を持って「河川文化」を解題したと

考えることが出来る。従って、示された結論が絶対であるとは言えないが、特定の主体の概念体系を広く機械的にテキスト解析に利用するという手法そのものは他の研究にも利用できるものである。この方法は汎用的なものであり、河川に関わる他のドキュメント群を対象とすることもできる。その際には、他の研究者の概念体系を利用することに問題が無ければ、本研究で構築したカテゴリを流用することでより手軽に解析が行える。

今後の展望としては、今回明らかになった概念構造を元にして、更に多くの河川文化を対象とするテキストを分析することが挙げられる。併せて7章で述べた実践への適用を進め、テキストから構造化した知識が実践でどれだけ役に立つのか検証していく。さらには実践の中で出てきたドキュメントに本研究の手法を適用することで、個別の事例の構造化と全体の構造の比較を行うことも考えられる。また、東日本大震災後には防災関連等で大きな意識の変革があったと考えられるため、同じ「河川文化」を題材として、震災前後の比較を行うことも検討する必要がある。

## 謝辞

本研究は、平成22年度河川整備基金助成事業によって実施した。また、研究の実施にあたっては、財団法人日本河川協会の望月常好氏、佐藤節夫氏、高木千恵子氏にご協力いただいた。ここに深く謝意を述べたい。

## 参考文献

[1] 高田知紀：多自然川づくり事業における合意形成プロセスの評価枠組みに関する研究，平成21年度東京工業大学大学院修士論文，

2010. 3.

[2] 林倫子，神邊和貴子，出村嘉史，川崎雅史：明治・大正期の納涼床営業者の鴨川官有地利用に関する研究—先斗町三条・四条間を対象として—，土木学会論文集D，Vol. 66，No. 2，pp. 246-254，2010. 5.

[3] 中嶋伸恵，田中尚人，秋山孝正：水辺空間を基盤とした地域コミュニティの形成に関する研究，土木学会論文集D，Vol. 64，No. 2，pp. 168-178，2008. 4.

[4] 竹林征三：甲斐路と富士川—川を守り・道を拓く—，土木学会山梨会，1996. 9.

[5] 富山和子：水の文化史，文藝春秋，1980. 7.

[6] 中村良夫：湿性文化の行くへー生態・文化複合系を再構築しよう—，河川，pp. 3-6，2009. 7.

[7] 高橋裕：現代日本土木史，彰国社，1990. 5.

[8] 富野章：日本の伝統的河川工法，信山社サイテック，2002. 1.

[9] 大熊孝：増補・洪水と治水の河川史，平凡社ライブラリー2007. 5.

[10] 村井源，松本斉子，山本竜大，往住彰文，“Webの計量言語学的分析からみた政治的感性の特徴”，感性工学会研究論文集，Vol. 7，No. 3，pp. 561-569，2008.

[11] 村井源，川島隆徳，往住彰文，“医療の質・安全研究における関心領域の分析 - 学術論文の計量的分析による研究動向の抽出 - ”，医療の質・安全学会誌，Vol. 4，No. 1，pp. 16-24，2009.

[12] 日本河川協会編：河川文化，日本河川協会，1995-2010.

[13] 工藤拓：MeCab，  
<http://mecab.sourceforge.net/>（2013 年3月31 日参照）

- [14] 浅原正幸, 松本裕治: IPA品詞体系, <http://chasen.aist-nara.ac.jp/chasen/doc/ipadic-2.6.3-j.pdf> (2013 年3 月31 日参照)
- [15] 川島隆徳, 村井源, 往住彰文, “ゲーム批評から見たゲームの「面白さ」ーレビューテキストの計量解析による叙述対象の自動抽出ー”, デジタルゲーム学研究, Vol. 4, No. 1, pp. 69-80, 2010.
- [16] M.Girvan and M.E.J.Newman: “Community structure in social and biological networks”. *Proc. Natl. Acad. Sci. USA* 99, pp.7821-7826, 2002.
- [17] 山田聡宣, 島谷幸宏, 末松吉生, “中小河川の改修手法の工夫によるCO<sub>2</sub>排出量の削減”, 河川技術論文集, 第16巻, pp. 455-458, 2010.
- [18] 独立行政法人科学技術振興機構・社会技術研究開発センター「地域に根ざした脱温暖化・環境共生社会」研究開発領域・地域分散電源等導入タスクフォース (編著), “小水力発電を地域の力で”, 公人の友社, 2010.

(2013年3月31日受付)

(2014年2月3日採択)

CODATA 部会報告

## 平成 25 年度第 1 回科学技術データベース懇談会開催報告

山下雄一郎<sup>1\*</sup>, 馬場哲也<sup>1</sup>

Yuichiro YAMASHITA<sup>1\*</sup>, Tetsuya BABA<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所 計測標準研究部門

National Metrology Institute of Japan, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology

\*連絡先著者 Corresponding Author

科学技術データベースに関する研究者が自由闊達な懇談を行い、現状と課題を共有すると同時に将来への働きかけの可能性についての意見交換を行う場として、情報知識学会 CODATA 部会のもとに科学技術データベース懇談会が設けられ、平成 21 年度より活動を開始した。発足時のメンバーは化学・材料分野における研究者を中心に構成され、現在は 10 余名のメンバーで懇談会を開催している。平成 25 年度においては第 1 回会合（通算第 8 回会合）を 8 月 29 日に東洋大学白山キャンパス（東京都文京区）にて開催したので、その概要を報告する。

懇談会プログラムは話題提供と意見交換、連絡事項という順で構成された。

話題提供ではオープンデータや公共データの 2 次利用を中心テーマに設定し、以下の 3 氏（敬称略）より話題を提供いただいた。

### 話題提供 1

「Linked Open Data (LOD) の普及と発展」

Linked Open Data Initiative 小林 巖生

### 話題提供 2

「産総研地質分野における情報発信体制の変化」

産業技術総合研究所 吉川 敏之

### 話題提供 3

### 「計量標準総合センターにおける DB 整備への取り組み」

産業技術総合研究所 馬場 哲也

会合は適宜質問を受け付ける形式で進行し、各話題の最後にも意見交換の時間を設けた。以下、各話題の概要を記す。

話題提供 1 では、オープンデータの概念の紹介に始まり、各国政府機関におけるオープンデータへの取り組み、Linked Open Data (LOD)、LOD を支える技術 (RDF や SPARQL)、経産省や横浜市における事例、今後に期待することまで、LOD を中心としたとても幅広い話題の提供を頂いた。LOD というテーマは懇談会メンバーの間でも関心が高く、懇談会メンバーにおいては小林氏からの話題提供によりオープンデータの潮流に確かな手応えを覚えると同時に、多分な刺激をうけた印象であった。

話題提供 2 では、3.11 の東日本大震災以降の地質情報のニーズの高まりと公共データ開放の流れを受けて、産総研地質分野がどのような対応をとり、方策を立て、さらに今後どのような方向で進んでいくのかという視点から話題の提供を頂いた。話題の中で、データベースの公式成果物化やデータポリシ

一・利用ガイドラインの明確化という取り組みは懇談会メンバーの高い関心を集めた。

話題提供3では、産総研計量標準総合センタに関連するデータベースの紹介とその整備状況が紹介された。

各話題の後の意見交換も盛況であった。はじめは話題提供の内容が議論の中心であったが、データベースサービスの課金、データジャーナリズムとビックデータ、データプロバイダとインセンティブなど結果的に多方

面にわたる意見交換となった。

H25年度の第2回懇談会は2013年度末に東京近郊での開催を検討している。

参考までに、科学技術データベース懇談会のホームページ(<http://www.codata.jp/>フロントページ)にて、過去の懇談会概要、プログラム、議事メモ等が公開中であるので、ご興味がある方は参照して頂きたい。

\*\*\*\*\*  
☆☆ 情報知能学会 メールマガジン ☆☆☆ 2012.10.26 ☆★ No.61

=====

10月号 CONTENTS(目次)

=====

- ◆◆情報知能学フォーラムのご案内◆◆
- ◆◆常務理事会より◆◆
- ◆◆シニア情報知能学研究会 第2回卓話会のご案内◆◆
- ◆◆関西部会：第2回「知識・芸術・文化情報学研究会」の開催について  
(発表者募集)◆◆
- ◆◆関連団体の行事のお知らせ◆◆  
情報と人をつなぐ じょいんと懇話会  
2012-2014 シンポジウム「情報学による未来社会のデザイン」

\*\*\*\*\*

◆◆情報知能学フォーラムのお知らせ◆◆

=====

\*\*\*\*\*

本年度の情報知能学フォーラムは11月4日(日)東京大学本郷キャンパスにて開催致します。  
震災の記憶をいかに記録し、アーカイブズとして後世へと残していくべきか、一流の講師の先生方と交え、参加者の皆さまとともに考えていければと思います。プログラム等は下記のサイトをご覧ください。

プログラム： <http://www.jsik.jp/?forum2012>  
参加申し込み： <http://bit.ly/jsikforum2012>

何かとご多用とは存じますが、皆さまの積極的なご参加をお待ち申し上げます。

第17回情報知能学フォーラム実行委員会一同

☆☆.....☆☆

第17回情報知能学フォーラム

- 「震災の記憶・記録とアーカイブズ」
- ・日時：2012年11月4日(日) 10:00~17:00
- ・会場：東京大学本郷キャンパス 工学部2号館 1階 213号大講義室(12C室)  
<http://www.t.u-tokyo.ac.jp/epage/access/index.html>
- ・主催：情報知能学会
- 後援：情報科学技術協会、saveMLAKプロジェクト、日本災害情報学会、情報メディア学会、日本図書館情報学会、日本アーカイブズ学会、記録管理学会

第I部：震災の記憶・記録とアーカイブズ 司会：石塚英弘

- 10:10・10:40 国立国会図書館における東日本大震災アーカイブの取組み
- 10:40・11:10 震災をメディアはどう伝えてきたか 一東日本大震災アーカイブスの試み—
- 11:10・11:40 震災アーカイブズの現状と課題

第II部：震災の語りと共有 司会：江草由佳

- 13:00・13:40 日本災害史とアーカイブズ —変わるものと変わらないもの—
- 13:40・14:20 記憶・記録とオーラルヒストリー

第III部：アーカイブズとアーカイブズ以降 司会：梶川裕矢

- 15:00・15:30 神戸の記憶・記録とアーカイブズ
- 15:30・16:00 原子炉事故情報アーカイブの構築に向けて
- 16:00・16:30 記憶と解放、記憶と伝承 —インドネシア・アチェの津波経験を踏まえて—

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会より◆◆

=====

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会の開催報告◆◆

情報知識学会 平成 24 年度 第 3 回常務理事会議事録

日時：2012 年 10 月 17 日(水) 18:40～20:20

場所：情報知識学会事務局（凸版印刷(株)内）

出席：石塚、長塚、原田、芦野、江草、小川、田良島、根岸  
大槻(第 21 回年次大会実行委員長)

議事：

1) 第 21 回(2013 年度)年次大会について

大槻実行委員長より、実行委員会の検討結果として、a)例年の年次大会の内容に、若手セッションと特別セッションを追加すること、b)若手セッションでは奨励賞の新設、c)特別セッションではテーマを「東北大震災と地籍情報及び土地家屋調査士」とすることの提案があった。また、年次大会に関するアイデア、日程、会場の候補、等についても説明があった。

検討の結果、a)と c)を了承し、b)の賞は、本学会として新設することになるため、常務理事会で検討することとした。なお、常務理事からも地籍情報の重要性を指摘する意見があった。

報告事項：

1) 11 月 4 日開催の情報知識学フォーラム

予稿集の原稿が集まり、学会誌 22 巻 4 号として印刷に入っている。多くの学会等から後援が得られ、多くのメーリングリストで参加案内を行い、参加登録者も増えているが、本学会会員以外の参加登録者数に比べて本学会会員の割合がまだ少ない。会場が 300 人と広いので、会員各位の参加登録をお願いします。

2) 11 月 9 日開催のシニア部会、本年度第 2 回卓話会

根岸常務理事、シニア部会世話人より、本年度第 2 回の卓話会は、松村代表世話人の尽力により、講師 2 名を招いて「高齢情報化社会に対応する図書館サービスのあり方」をテーマに 11 月 9 日に開催する。すでに全会員向けの案内メールは発信済みであるが、別途、役員宛参加招請メールを発信する予定。については常務理事各位においては極力参加されるようお願いしたい。

☆★.....☆☆

\*\*\*\*\*

◆◆シニア情報知識学研究部会 本年度第 2 回卓話会ご案内◆◆

\*\*\*\*\*

シニア部会の卓話会では、情報知識学の温故知新のために、各分野の先達諸氏に講話をいただいていたが、本年度はこれに加えて、現下進展の急な高齢情報化社会における諸問題をも検討テーマにすることにし、8 月 24 日開催の第 1 回には、高齢者向きの情報機器・サービスの現況について、小川常務理事に卓話をお願いしました（メルマガ 8 月号既報）。

今般その第 2 回として、『高齢情報化社会』に対応する図書館サービスのあり方」を話題にして、下記により卓話会を開催します。情報化を担ってきた世代が次第に退職し、それらデジタル・シニア向きの機器、サービスに対する旺盛な需要への期待が関連業界では盛り上がっているが、公共図書館のサービスとしては、これに関して今後どのような展開があるべきか。

この点について、高い問題意識を持たれている県立、市立図書館の講師をお招きして、現況の問題点を整理して、今後を見通すという趣旨での卓話をお願いしました。何分、世界最先端高齢化社会のわが国で急進中の問題であり、講師の方々も、参加者各位との意見交換に大いに期待したいとのことですので、老のみならず、壮青層の会員もふるってご参加下さい。

なお、当日参加も可能ですが、参加予定の会員は、根岸(negishi@nii.ac.jp)および学会事務局(jsik@nifty.com)宛、連絡頂ければ幸いです。

テーマ：「高齢情報化社会」に対応する図書館サービスのあり方

<http://www.jsik.jp/?takuwa20121109>

日時：2012 年 11 月 9 日（金） 18:30-20:15

会場：学会事務局（秋葉原、凸版印刷内）

卓話：

18:30-19:10 小池信彦氏（調布市立図書館館長）

19:10-19:50 安宅仁志氏（千葉県立西部図書館調査課長）

討論：19:50-20:15

懇親会：閉会后、会場近辺にて予定、任意参加

（シニア部会代表世話人：松村多美子、世話人：根岸正光）

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

◆◆情報知識学会関西西部会◆◆

◆◆第2回「知識・芸術・文化情報学研究会」の開催について(発表者募集)

\*\*\*\*\*

昨今のデジタル・情報環境の急速な進展とともに、学術分野にも「情報」や「デジタル」を意識した分野横断型の研究が多く見受けられるようになってきました。大学の教育・研究活においても、この傾向は強まっており、これに関連する教育プログラムやコース、学部が立ち上がり始めています。

時代に即した新しい研究テーマを持ち、このような課程で学ぶ院生や若手研究者が学術的な交流をする場へのニーズはますます大きくなっています。

そのため、芸術・文化、およびその他の関連する分野の情報・知識研究に興味のある若手研究者を主に意識した発表・交流の場「知識・芸術・文化情報学研究会」を2011年度に発足させました。

本会は、異分野の人的交流を通じて、参加者相互が新たな研究テーマや方法を発見できる場と位置づけており、学会発表とはひと味違う萌芽的・冒険的な発表の場にもしていきたいと思います。下記の通り第2回目の研究集会を実施しますので、奮ってご応募ください。

知識・芸術・文化情報学研究会

世話役

赤間亮(立命館大学:代表)

金子貴昭(立命館大学:代表代行)

田窪直規(近畿大学)

村川猛彦(和歌山大学)

矢野環(同志社大学)

日時:2013年2月9日(土) ※時間は発表者数により調整します。

場所:立命館大学大阪キャンパス(大阪梅田駅前)

〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階

[http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

研究分野:

- 1.情報技術を使った芸術・文化分野やその他の分野の研究
- 2.芸術・文化やその他の分野に応用できる情報技術の研究

研究発表の内容例:

1. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
2. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の表現、生産、組織化・DB構築、検索、提供
3. 電子出版、電子図書館、電子博物館・美術館
4. 芸術分野やその他の分野の用語、シソーラス
5. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の流通と知的所有権
6. インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
7. その他、広く文化を対象とした情報・知識に関連する諸研究・開発

応募方法:

- ・応募締切:11月9日(金)までに、論題と研究要約(200字以内)を添えて、[kacimeeting2013@gmail.com](mailto:kacimeeting2013@gmail.com)

に電子メールで申し込むこと。

- ・発表資料:発表資料は発表者が必要部数準備する。  
(必要部数は参加締め切り後、発表者に連絡します。)
- ・発表時間:20分程度(含質疑応答時間)。ただし発表者数により調整する。  
(発表時間は発表募集締め切り後、発表申込者に連絡します。)

参加費:500円

※なお、研究発表会後に懇親会を予定しています。

主催:知識・芸術・文化情報学研究会

共催:情報知識学会関西西部会、アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会

協力:立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

☆★.....☆☆

\*\*\*\*\*

◆◆関連団体行事のご案内◆◆

\*\*\*\*\*

【情報科学技術協会 INFOSTA】

◆情報と人をつなぐ じょいんと懇話会

- ◇テーマ「ここまできた自動翻訳技術～言語の壁を越えて広がる情報の世界」
- ◇講師 隅田 英一郎 氏  
(独立行政法人情報通信研究機構ユニバーサルコミュニケーション研究所  
多言語翻訳研究室 室長)
- ◇日時：2012 年 11 月 26 日 (月)
- ◇18:30～19:30 講演
- ◇19:30～21:00 懇話会
- ◇場所：『大阪市中央公会堂』大会議室(重要文化財指定建造物)  
大阪市北区中之島 1 丁目 1 番 27 号
- ※申込先：INFOSTA 西日本委員会「じょいんと懇話会担当」  
E-mail: jointkonwa2012@gmail.com
- ※申込締切 2012 年 11 月 18 日 (日)
- ※URL <http://www.infosta.or.jp/>

\*\*\*\*\*

【科学技術振興機構 JST】【日本学術会議】

◆2012-2014 シンポジウム「情報学による未来社会のデザイン」  
～健全でスマートな社会システムに向けて～

- ◇第 1 回「大量データにもとづく未来社会のデザイン」
- ◇開催日：2012 年 11 月 08 日(火)
- ◇会場：東京都千代田区 / 一橋大学一橋講堂 (学術総合センター内)  
※お問合せ：シンポジウム「情報学による未来社会のデザイン」事務局  
※Tel: 03-3512-3526 Mail: [godosympoinfo.jst.go.jp](mailto:godosympoinfo.jst.go.jp)  
※URL(JST): <http://www.info.jst.go.jp/event/godosympo/>

☆★.....☆★  
編集後記

すっかり涼しくなってきましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。  
本学会、秋の恒例のイベント「情報知識学フォーラム」が 11 月 4 日に開催され  
ます。

また 9 日には本年度第 2 回の卓話会が開催されます。  
読書の秋、食欲の秋、実りの秋、スポーツの秋、芸術の秋、行楽の秋・・・と  
様々な秋がありますが、東京の紅葉はまだ早いかもしれませんパソコンから  
離れて、早くなった夕暮れを楽しみつつ、日本酒が恋しくなった秋の一日いかが  
でしょうか？

担当：長田孝治（東京都ビジネスサービス（株））

☆★.....☆★

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2012.11.27 ☆★ No.62

=====

11 月号 CONTENTS (目次)

=====

- ◆◆第 17 回情報知識学フォーラムの開催報告◆◆
- ◆◆シニア部会卓話会報告◆◆
- ◆◆編集委員会からのお知らせ◆◆
- ◆◆関連団体行事のご案内◆◆

\*\*\*\*\*

◆◆第 17 回情報知識学フォーラムの開催報告◆◆

\*\*\*\*\*

◆本年度の情報知識学フォーラムは「震災の記憶・記録とアーカイブズ」をテーマに開催されました。会員からの参加者は25名と平年並みでしたが、後援頂いた学会の会員や非会員合わせ、総計103名の参加を得て、盛況のうちに会を終えることが出来ました。ustreamによるオンライン中継も35名の視聴者の方にご覧頂きました。また、正会員4名、学生会員2名、合計6名の新規入会者があり、学会の発展に微力ながら貢献できたのではないかと思います。ご協力頂いた皆様方に心より御礼申し上げます。

◇テーマ： 震災の記憶・記録とアーカイブズ

◇日時： 2012年11月4日(日) 10:00～17:00

◇場所： 東京大学本郷キャンパス 工学部2号館 1階 213号大講義室

◇主催： 情報知識学会

◇後援： 情報科学技術協会、saveMLAKプロジェクト、日本災害情報学会、情報メディア学会、日本図書館情報学会、日本アーカイブズ学会、記録管理学会、東京大学大学院工学系研究科総合研究機構イノベーション政策研究センター

なお、当日のプログラムは下記よりご確認頂けます。

<http://www.jsik.jp/?forum2012>

また、当日の様子は、下記のサイトよりご覧頂けます。

開会挨拶～第I部：震災の記憶・記録とアーカイブズ

<http://www.ustream.tv/recorded/26697265>

第II部：震災の語りと共有

<http://www.ustream.tv/recorded/26701265>

第III部：アーカイブズとアーカイブズ以降

<http://www.ustream.tv/recorded/26703123>

(フォーラム実行委員長 梶川裕矢)

\*\*\*\*\*

#### ◆◆シニア部会卓話会報告◆◆

\*\*\*\*\*

#### ◆シニア情報知識学研究部会 本年度第2回卓話会報告◆

シニア部会本年度第2回(通算第5回)卓話会は、「《高齢情報化社会》に対応する図書館サービスのあり方」をテーマとして、11月9日18:30から学会事務局にて開催された。参加者11名。講師には、図書館現場において日々この問題に直面し、考察しておられる、小池信彦氏(調布市立図書館館長)と安宅仁志氏(千葉県立西部図書館調査課長)のお二方をお願いし、講演の後活発な討論が行われた。

小池講師は、調布市立図書館の活発なサービス概況をまとめた後、とくに高齢者について、市内登録者の比率が他の年齢層に比べて高く、貸出実績でもその17%を占めることなどを紹介された。来館困難な人を対象に図書の宅配サービスを実施しているが、その配達を担当するボランティアも高齢者が主体であること、また読書会活動も高齢者を中心の復活のきざしがあることなどを紹介された。

安宅講師は、わが国は高齢化先進国であるとはいえ、図書館での取り組みは遅れており、米国図書館協会では既に1975年に高齢者向きサービスガイドラインを制定していると指摘した後、千葉県立西部図書館での現況として、高齢者では終日滞在型が目立つ、所蔵調査や簡単な質問はなく、自分で調査でき、パソコン持込席での書斎代わりの利用も活発といった特性が紹介された。こうして得られた研究成果の発表会として「図書館まなびトーク」を開催しているほか、再就職支援セミナーなどを実施しているとのことである。

講演後の質疑討論の内容を摘記すれば、次のとおり。高齢者サービスは従来、障がい者サービスの延長という位置付けであったが、さらに踏み込んだ対応が必要になっている。昔の図書館は受験生の勉強が重要な利用目的であった。その後、図書貸出サービスに力を入れるようになったが、再び席貸しの利用に回帰しつつあるかにみえる。高齢者の終日滞在はともかく、ニートらしき若者の終日滞在も多いのが心配である。また、これは博物館にも共通の問題であるが、当面は団塊の世代退職者の波への対応が重要として、さて、その後の10年、20年後をどう見通すべきかといった議論で21時前まで盛り上がり、一旦散会后、近辺の居酒屋に場所を移して延長戦が展開された。

(シニア部会代表世話人：松村多美子、世話人：根岸正光)

\*\*\*\*\*

◆◆編集委員会からのお知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

Vol.22 No.4 第17回フォーラム特集号を11月4日に発行いたしました。また、Vol.22 No.3は11月中旬にJ-Stageに登載される予定です。  
現在、J-Stageのバージョンアップによって書誌情報の登載手順が変わったため、投稿整理カードのフォーマット、投稿手順の見直しを進めております。詳細が決まりましたら、投稿規定、投稿整理カードのテンプレートなど更新し、メールマガジンなどにおいてお知らせ致します。

\*\*\*\*\*

◆◆関連団体行事のご案内◆◆

\*\*\*\*\*

[アート・ドキュメンテーション学会 第5回秋季研究発表会 開催のご案内]

2008年度に新設された秋季・研究発表会は、毎年多くの発表者を得て活発な議論の場となっておりまいた。第5回目となる今年度は、下記要領で開催いたします。奮ってご参加下さい。

■開催日時と会場

日時：2012年12月2日（日） 10：30-17：30（受付10：00～）

会場：印刷博物館 グーテンベルクルーム

〒112-8531 東京都文京区水道1丁目3番3号 トッパン小石川ビルB1階

■参加費

1000円（資料代および企画展等観覧料を含む。懇親会費別途）

■定員

78名（定員になり次第締め切らせていただきます）

■参加申し込み方法

下記フォームよりお申し込みのうえ、受付完了メールを印刷して当日受付にてご提示ください。

<http://www.jads.org/FS-APL/FS-Form/form.cgi?Code=2012fall>

■ プログラム/研究発表要旨 [第77回研究会]

10：00-10：30 受付

10：30-10：40 開会の挨拶

10：40-11：30 第I部

【発表1】日比谷安希子（横浜市民ギャラリーあざみ野）・内田剛史（早稲田システム開発株式会社）

陸前高田被災資料デジタル化プロジェクトの活動について

【発表2】逢坂裕紀子（東京大学大学院学際情報学府）・北岡タマ子（東京大学大学院情報学環）

文化資源情報の利用形態に関する技術動向調査報告

11：30-12：20 第II部

【発表3】筒井弥生

ゲッティ・リサーチ・インスティテュート、インスティテュショナル・アーカイブズを訪ねて（ミュージアム・アーカイブズの事例報告）

【発表4】楠木あづさ

戦後日本における展覧会カタログの変遷

12：20-13：50 昼休み

13：50-15：20 第56回見学会 印刷博物館企画展「印刷都市東京と近代日本」・「世界のブックデザイン2011-12」見学

15：20-16：10 第III部

【発表5】研谷紀夫（関西大学）

「電子研究図誌」としての電子書籍の可能性

【発表6】梶木良夫（神戸女子大学文学部）

民俗芸能資料データベースをめぐって（仮題）

16：10-16：30 休憩

16：30-17：20 第IV部

【発表7】栗原祐司（京都国立博物館）

ユネスコ世界記憶遺産のアーカイブ

【発表8】要真理子（大阪大学招へい准教授）・田村剛（立命館大学大学院 社会学研究科博士課程後期課程）・住田翔子（立命館大学国際言語文化研究所客員研究員）

風景のドキュメンテーション：“個人的な”風景の収集調査

17：20-17：30 閉会の挨拶

18:00 頃～ 懇親会(会場近隣にて開催予定)  
懇親会参加費: 4000 円～5000 円程度、学生 2000 円～3000 円程度

\*\*\*\*\*

【国際シンポジウム「科学技術イノベーション政策の科学」開催のご案内】

◆ 12月13日(木) 10時より東京大学本郷キャンパスにて、国際シンポジウム「科学技術イノベーション政策の科学～政策の科学の手法・システムとイノベーションの実現～」を開催致します。

科学技術イノベーション政策の科学に関する最先端の研究に関して現状を共有し、今後の政策との連携に関して議論を深めたいと思いますので、科学技術政策や計量書誌学にご関心の皆様方の積極的なご参加をお待ち致しております。なお、開催場所は、第17回情報知識学フォーラムの会場と同じです。

参加申し込みは下記のサイトよりお願い致します。  
<http://ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp/jp/events/symposium2012.html>

- ◇日時: 2012年12月13日(木) 10時～17時40分
- ◇会場: 東京大学本郷キャンパス工学部2号館213  
[http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01\\_04\\_03\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/campusmap/cam01_04_03_j.html)
- ◇参加費: 無料
- ◇講演言語: 英語(通訳なし)
- ◇主催: 東京大学大学院工学系研究科 総合研究機構イノベーション政策研究センター
- ◇共催: 東京大学大学院工学系研究科 技術経営戦略学専攻
- ◇協力: 東京大学政策ビジョン研究センター
- ◇後援: NEDO(予定), JST(予定)

◇ プログラム

【10:00-11:40 オープニングセッション 「政策の科学への期待と成果」】

主催者挨拶: 元橋一之 東京大学教授

来賓挨拶: TBA NEDO

特別講演: 「政策の科学における協調」 藤末健三参議院議員

基調講演: 「政策の科学: 熟議と意思決定」  
Andrew Stirling Sussex 大学教授

【13:00-14:30 第一部 「科学技術を捉える技法」】

基調講演: 「科学の可視化」 Katy Borner Indiana 大学教授

招待講演: 「学術活動のメタデータの公開と共有」

武田英明 国立情報学研究所教授

研究成果発表: 「イノベーションへの道筋を描く」

梶川裕矢 東京工業大学准教授

【14:40-16:10 第二部 「科学技術とイノベーションを育むエコシステム」】

基調講演: 「エコシステムの構造と機能」

Martha Russel Stanford 大学、MediaX・執行役員

招待講演: 「産学連携と知財」

渡部俊也 東京大学政策ビジョン研究センター 教授

研究成果発表: 「ネットワークからネットワーキングへ」

森純一郎 東京大学特任講師

【16:20-17:30 第三部 「イノベーションの実現に向けて」】

招待講演: 「政策立案と意思決定」 有本建男 GRIPS 教授

パネルディスカッション

パネリスト: Prof. Katy Borner, Dr. Martha Russel,

Prof. Andrew Stirling, 有本建男教授,

城山英明 東京大学教授, 松見芳男 伊藤忠商事理事

モデレーター: 坂田一郎 東京大学教授

☆★.....☆☆  
編集後記

Windows 8、iPad mini、スマートフォンや PC の秋冬モデルが登場する中、何か一つくらい買いたいなと、浮ついた気分が、2 日で消沈しました。というもある日、研究室の重要なサーバが起動しなくなり(結局、電源を取り替えました)、その次の日は考え事をしていて、車がガードレールをこすってしまいました。

皆様方におかれましては、つつがなく年の瀬を迎えられますように。

ご意見、ご感想の宛先: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メールマガジン 11月号 担当: 村川猛彦)

☆★.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2012.12.30 ☆★ No.63

=====

12月号 CONTENTS(目次)

=====

- ◇◆第21回 年次大会開催のお知らせ◆◇
- ◇◆第21回 年次大会 発表募集のお知らせ◆◇
- ◇◆情報知識学会誌22巻4号の寄贈プロジェクトの報告◆◇
- ◇◆情報知識学会共催行事のお知らせ◆◇
- ◇◆編集委員会からのお知らせ◆◇
- ◇◆関連団体行事のご案内◆◇
- ◇◆研究公募のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇◆第21回 年次大会開催のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇情報知識学会・第21回(2013年度)年次大会(研究報告会&総会)が開催されます。

◆実行委員長 大槻 明 (お茶の水女子大学)

実行委員 松村 敦 (筑波大学)

浅本 紀子 (お茶の水女子大学)

笹倉 理子 (お茶の水女子大学)

梶川 裕矢 (東京工業大学)

村井 源 (東京工業大学)

堀 幸雄 (香川大学)

◆日程: 2013年5月25(土)・26(日)

◆会場: お茶の水女子大学 <http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?kenkyu>

※お問い合わせは: [jsik2013\(at\)valdes.titech.ac.jp](mailto:jsik2013(at)valdes.titech.ac.jp)

\*\*\*\*\*

◇◆第21回 年次大会 発表募集のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇研究報告会の発表論文を下記要領で募集いたしますので、学会員の皆様どうぞ奮ってご応募ください。詳しくは下記の「募集サイト」をご覧ください:

<http://www.jsik.jp/?2013cfp>

◆1. 募集分野

- (1) 情報知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス
- (6) 知識情報の流通と知的所有権
- (7) 専門分野における情報の品質管理、基準化
- (8) インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
- (9) その他情報知識学に関連する諸研究・開発

◆2. 応募方法

\* 登録方法: 登録フォームから必要情報を登録:<http://tinyurl.com/a77x5hf>

\* 応募期限: 2013年3月8日(金)

\* 採択可否通知: 2013年3月15日(金)

\* 原稿提出期限: 2013年4月19日(金)

◆ 3. 論文執筆・発表について

1. 原稿の体裁は、学会誌の論文執筆要領に準拠してください。論文種別欄は第 21 回年次大会予稿」となります。
2. 発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。論文提出がないと発表できません。
3. 登壇発表者は当学会員に限りです。当日入会も可能です。
4. 本論文も WEB 上での提出を予定しています。具体的方法は採否決定時に改めて連絡いたします。
5. 予稿原稿ページ数は 6 ページ以内を基本とします。超過した場合は、2 ページ単位で 2,000 円ずつ超過料金が発生します。  
(例: 超過 1~2 ページ 2,000 円、超過 3~4 ページ 4,000 円)

◆ 4. お問い合わせ先

- \* 〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1
- \* お茶の水女子大学 リーダーシップ養成教育研究センター内
- \* 第 21 回 (2013 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会
- \* Tel:03-5978-5698 (極力メールでお問い合わせください)
- \* E-mail:jsik2013(at)valdes.titech.ac.jp {(at)を@に変えて前後のスペースを削除ください。}

\*\*\*\*\*

◆◆情報知識学会誌 22 巻 4 号の寄贈プロジェクトの報告◆◆

\*\*\*\*\*

2012 年 11 月 4 日 (日) に開催された第 17 回情報知識学フォーラム「震災の記憶・記録とアーカイブズ」の予稿集 (情報知識学会誌 22 巻 4 号) 84 部を、東日本大震災関連の図書を収集している宮城県、福島県、岩手県の公共図書館や大学図書館に寄贈しました。また、阪神淡路大震災関連の資料の収集を行っている神戸大学の震災文庫へも寄贈しました。  
2012 年 12 月 8 日 (土) に、各大学図書館と、市町村立図書館のとりまとめをされている各県立図書館へ無事発送を終えることができました。

この取り組みは、各図書館の寄贈の要望をとりまとめてくださった saveMLAK、宮城県図書館、福島県立図書館、岩手県立図書館の方々の協力によって実現しました。本当にありがとうございました。

情報知識学会は「震災記録を図書館に」キャンペーンに参加しています※。  
今回のこの活動もその一助になればとの思いですすめました。

寄贈された学会誌は、図書館の震災コーナーへの展示や、防災研究に資する未来への記録・記憶として保存、利用に供されます。本フォーラムの主旨にかなう貢献となれば幸いです。  
※参考: メールマガジン 56 号、「情報知識学会誌 Vol. 22 No.2(May.2012) pp.162」

(情報知識学フォーラム 実行委員 江草由佳)

\*\*\*\*\*

◆◆情報知識学会共催行事のお知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

第 2 回「知識・芸術・文化情報学研究会」開催案内

日時: 2013 年 2 月 9 日 (土) 13:30 受付開始  
会場: 立命館大学大阪キャンパス (大阪梅田駅前) 多目的室  
〒530-0018 大阪府北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5 階  
アクセス: [http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

主催: 知識・芸術・文化情報学研究会  
共催: 情報知識学会関西支部、アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会  
協力: 立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

13:30 受付開始  
13:45 開会挨拶  
14:00 発表 1 「計量文献学の観点から西鶴遺稿集の検討」  
上阪彩香 (同志社大学文化情報学研究科 M2)  
14:25 発表 2 「ユーザ種別と閲覧時間を考慮した Web 情報探索の行動特性調査」

遠藤淳一（和歌山大学大学院システム工学研究科 M1）

14:50 発表 3 「メディアに記録される文書の集合に着目したコンテンツデータベースシステム」

原悠也（和歌山大学大学院システム工学研究科 M2）

15:15 発表 4 「全文検索エンジン選定支援システムの構築 - 検索精度を中心に -」

河中健馬（和歌山大学大学院システム工学研究科 M2）

15:40 休憩

15:50 発表 5 「役者評判記自動索引ツールの開発による研究効率の改善」

山路正憲（立命館大学衣笠総合研究機構 RA）

16:15 発表 6 「板木デジタルアーカイブを核とした近世出版総合デジタルアーカイブの構想」

金子貴昭（立命館大学衣笠総合研究機構 PD）

16:40 発表 7 「モーションキャプチャ利用による無形文化財（日本舞踊）の継承支援について」

丸茂美恵子\*・川上央\*・小沢徹\*・三戸勇気\*・西川篤乃助\*・篠田之孝\*\*

\*=日本大学芸術学部、\*\*=日本大学理工学部

17:05 閉会挨拶

17:45 懇親会

参加申し込み方法：

2013 年 2 月 2 日(土)までに、氏名・所属を明記の上、  
kacimeeting2013@gmail.com 宛に電子メールで申し込むこと。

研究会参加費：500 円

※研究発表会後に懇親会を予定しています。大学や分野の枠を超えた交流の場  
にしたいと思いますので、奮ってご参加ください。（懇親会費予定：一般 6000 円、  
学生 4000 円）

\*\*\*\*\*

◇◆編集委員会からのお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

Vol.22 No.4、フォーラム「震災の記憶・記録とアーカイブズ」特集号を間もなく  
J-Stage で公開致します。災害の記憶を伝えるアーカイブのプロジェクトを俯瞰  
する充実した内容になったと思います。Vol.23 No.1 は 2013 年 2 月末 に刊行予定  
ですので、掲載を希望される原稿がありましたら 2013 年 1 月末までにお送り下さい。

\*\*\*\*\*

◇◆関連団体行事等のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

#### ◆第 44 回デジタル図書館ワークショップ 発表募集◆

第 44 回デジタル図書館ワークショップの発表を以下の要領で募集いたします。  
今回は、デジタルアーカイブ支援ネットワーク(Digital Archive Network: DAN)  
の構築を目指した知識の共有・意見交換のための第 2 回 DAN ワークショップも同時  
に 開催いたします。ふるってご応募ください。

日 程：平成 25 年 3 月 14 日(木)

会 場：九州大学 箱崎キャンパス 附属図書館新館 4 階 視聴覚ホール  
(〒812-8581 福岡市東区箱崎 6-10-1)

[http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/central/central\\_loc.html](http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/libinf/central/central_loc.html)

参加費：無料

主 催：総務省、筑波大学知的コミュニティ基盤研究センター、  
九州大学附属図書館（予定）

発表申込締切：平成 25 年 2 月 1 日（金）

論文締切：平成 25 年 2 月 25 日（月）

発表申込方法

発表題目、発表者名（登壇者に○）、所属、概要（50 字程度）、  
発表申込者連絡先（住所、氏名、Tel、E-mail）を明記の上、  
照会先まで E-mail でお申し込みください。  
E-mail には返信いたしますので、返信のない場合はご連絡ください。

発表論文は冊子体版、WWW 版の両方で発行している「デジタル図書館(no.44)」

に収録し、出版いたします。これまでのワークショップ等につきましては  
<http://www.dl.slis.tsukuba.ac.jp/> をご参照ください。  
また、発表募集に関する最新情報は  
<http://www.dl.slis.tsukuba.ac.jp/DLworkshop/DLW-program.html>  
をご参照ください。

照会先:  
永森光晴 (筑波大学図書館情報メディア系)  
E-mail: nagamori AT slis.tsukuba.ac.jp  
(お手数ですが「 AT 」の部分は手で「@」に置換願います。)  
Phone: 029-859-1351 Fax: 029-859-1093

\*\*\*\*\*

◇◆研究公募のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◆NHK アーカイブス学術利用 「トライアル研究Ⅱ」「関西トライアルⅡ」  
第2期研究募集 (平成25年1月8日締切) ◆

NHKでは、大学等の研究者にNHKアーカイブスの保存コンテンツの研究利用  
をしていただく試行運用への参加者を募集しています。公募に採択された方には、  
「トライアル研究Ⅱ」はNHKアーカイブス(川口)で、「関西トライアルⅡ」は  
NHK大阪放送局で、番組やニュースコンテンツを研究用に閲覧していただきます。

- 閲覧時期 平成25年4月～9月の間
- 公募対象者 大学または公的研究所に所属する教員・研究者、大学院生の方
- 募集期間 平成24年11月12日～平成25年1月8日
- 募集研究数 トライアル研究Ⅱ8件程度、関西トライアルⅡ4件程度
- 応募希望の方は、事前の「応募相談」に原則ご参加いただきます。

詳しくはNHKトライアル研究のHPをご覧ください。  
<http://www.nhk.or.jp/archives/academic/>

\*\*\*\*\*

☆☆.....☆☆  
編集後記

今年も残り数日です。個人的には研究の中での思いがけない発見や人との出会い  
もあり、それなりに印象深い1年でした。昨年の震災以来先行きが見えづらく、  
難しい時代になりましたが、あまり右往左往せずにできるだけ確かな情報をつかみ、  
新たな発見・知識を世に問うのが任務と考えて、仕事をしてゆきたいものです。  
来る年が皆様にとって実り多いものでありますように。

ご意見、ご感想の宛先: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)  
(メールマガジン 12月号 担当: 田良島 哲)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013.1.31 ☆☆ No.64

=====

1月号 CONTENTS (目次)

=====

- ◇◆年頭の挨拶 会長 石塚英弘◆◇
- ◇◆第21回 年次大会開催のお知らせ ◆◇
- ◇◆シニア情報知識学研究部会第3回卓話会のお知らせ◆◇
- ◇◆関連団体行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

年頭のご挨拶

昨年は、学会誌の研究論文の着実な増加、情報知識学フォーラムの  
盛会など、大いに成果が現れた一年でした。これらは皆、学会員の皆

様の活動の結果であり、また若手を中心とするフォーラム実行委員会、年次大会実行委員会の尽力のお蔭だと思います。さらに、シニア部会の活動に見られるシニアの方々の活躍に敬意を表します。

今年も、たとえば年次大会実行委員会の意欲的な取り組みが注目されます。ご期待ください。

会員の皆様には今後とも情報知識の諸課題を多様な観点から研究する本学会の取り組みを応援し、ご参加くださいますようお願い申し上げます。

会長 石塚英弘

\*\*\*\*\*

◇◆第 21 回 年次大会開催のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇情報知識学会・第 21 回(2013 年度)年次大会(研究報告会&総会)開催されます。

- ◆実行委員長 大槻 明(お茶の水女子大学)  
実行委員 松村 敦(筑波大学)  
浅本 紀子(お茶の水女子大学)  
笹倉 理子(お茶の水女子大学)  
梶川 裕矢(東京工業大学)  
村井 源(東京工業大学)  
村川 猛彦(和歌山大学)

◆日程: 2013 年 5 月 25 (土)・26 (日)

◆会 場: お茶の水女子大学  
<http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?kenkyu>

※お問い合わせは: [jsik2013\(at\)valdes.titech.ac.jp](mailto:jsik2013(at)valdes.titech.ac.jp)

☆★.....☆☆

◇◆第 21 回 年次大会 発表募集のお知らせ◆◇

◇研究報告会の発表論文を下記要領で募集いたしますので、学会員の皆様どうぞ奮ってご応募ください。詳しくは下記の「募集サイト」をご覧ください:

<http://www.jsik.jp/?2013cfp>

◆ 1. 募集分野

- (1) 情報知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス
- (6) 知識情報の流通と知的所有権
- (7) 専門分野における情報の品質管理、基準化
- (8) インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
- (9) その他情報知識学に関連する諸研究・開発

◆ 2. 応募方法

\* 登録方法: 登録フォームから必要情報を登録:

<http://tinyurl.com/a77x5hf>

\* 応募期限: 2013 年 3 月 8 日 (金)

\* 採択可否通知: 2013 年 3 月 15 日 (金)

\* 原稿提出期限: 2013 年 4 月 19 日 (金)

◆ 3. 論文執筆・発表について

1. 原稿の体裁は、学会誌の論文執筆要領に準拠してください。論文種別欄は「第 21 回年次大会予稿」となります。
2. 発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。論文提出がないと発表できません。
3. 登壇発表者は当学会員に限ります。当日入会も可能です。
4. 本論文も WEB 上での提出を予定しています。具体的な方法は採否決定時に改めて連絡いたします。
5. 予稿原稿ページ数は 6 ページ以内を基本とします。超過した場合は、2 ページ単位で 2,000 円ずつ超過料金が発生します。  
(例: 超過 1~2 ページ 2,000 円、超過 3~4 ページ 4,000 円)

◆ 4. お問い合わせ先

- \* 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1
- \* 東京工業大学 大学情報活用センター内
- \* 第 21 回 (2013 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会
- \* E-Mail:jsik2013 (at) valdes.titech.ac.jp {(at)を@に変えて  
前後のスペースを削除ください。}

\*\*\*\*\*

◇◆シニア情報知識学研究部会第3回卓話会のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇シニア情報知識学研究部会 本年度第3回(通算第6回)卓話会のお知らせ

シニア部会では、「事始めシリーズ」として、情報知識学各方面での先達をお招きして、往時の研究状況の話を伺って、現状への理解深め、今後の展開を議論するための卓話会を開催しています。今回は笹森勝之助会員に講師をお願いして、下記要領により本年度第3回卓話会を開催しますので、若手、現役、シニアの各層会員とも奮ってご参加下さい。

笹森氏は1958年に設立間もない日本科学技術情報センター (JICST、現科学技術振興事業団) に入所され、データベースの編集、情報検索システムの開発を担当され、その後も情報技術関連のほか、多方面で活躍されています。今回は、本邦初のシソーラス制作ソフトウェアである「JICST用語管理システム」(DOCTOR) の設計開発の経緯を中心に当時の状況をお話し頂き、情報検索システムの今後の展望について議論したいと思います。

日時: 2013年3月27日(水) 18:00-19:00 (適宜延長)

会場: 学会事務局 (秋葉原、凸版印刷内)

<http://www.jsik.jp/?access>

講師: 笹森勝之助氏 (学校法人恵泉女学園理事、株式会社国際開発センター監事、元日本科学技術情報センター (JICST、現科学技術振興事業団))

テーマ: 「JICST用語管理システム」(DOCTOR) の設計と実装の思い出

参加申込: 事前申込は不要ですが、参加予定の会員は、根岸

(negishi\_at\_nii.ac.jp) および学会事務局 (jsik\_at\_nifty.com)

宛、連絡頂ければ幸いです(atは@と読み替えてください)。

(シニア部会代表世話人: 松村多美子、世話人: 根岸正光)

\*\*\*\*\*

◇◆関連団体行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

◇第2回「知識・芸術・文化情報学研究会」開催案内

日時: 2013年2月9日(土) 13:30 受付開始

会場: 立命館大学大阪キャンパス (大阪梅田駅前) 多目的室

〒530-0018 大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5 階

アクセス:

[http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

主催: 知識・芸術・文化情報学研究会

共催: 情報知識学会関西部会、アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会

協力: 立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

13:30 受付開始

13:45 開会挨拶

14:00 発表 1 「計量文献学の観点から西鶴遺稿集の検討」

上阪彩香 (同志社大学文化情報学研究科 M2)

14:25 発表 2 「ユーザ種別と閲覧時間を考慮した Web 情報探索の行動特性調査」

遠藤淳一 (和歌山大学大学院システム工学研究科 M1)

14:50 発表 3 「メディアに記録される文書の集合に着目したコンテンツデータベースシステム」

- 15:15 発表 4 原悠也 (和歌山大学大学院システム工学研究科 M2)  
「全文検索エンジン選定支援システムの構築 - 検索精度を  
中心に -」  
河中健馬 (和歌山大学大学院システム工学研究科 M2)
- 15:40 休憩
- 15:50 発表 5 「役者評判記自動索引ツールの開発による研究効率の改善」  
山路正憲 (立命館大学衣笠総合研究機構 RA)
- 16:15 発表 6 「板本デジタルアーカイブを核とした近世出版総合デジ  
タルアーカイブの構想」  
金子貴昭 (立命館大学衣笠総合研究機構 PD)
- 16:40 発表 7 「モーショントラッキング利用による無形文化財 (日本舞踊)  
の継承支援について」  
丸茂美恵子\*・川上央\*・小沢徹\*・三戸勇気\*・西川箕乃助\*・  
篠田之孝\*\*(\*=日本大学芸術学部、\*\*=日本大学理工学部)
- 17:05 閉会挨拶
- 17:45 懇親会

参加申し込み方法： 2013 年 2 月 2 日(土)までに、氏名・所属を明記の上、  
kacimeeting2013@gmail.com 宛に電子メールで申し込むこと。  
研究会参加費：500 円  
※研究発表会後に懇親会を予定しています。大学や分野の枠を超えた交流  
の場になりたいと思いますので、奮ってご参加ください。  
(懇親会費予定：一般 6000 円、学生 4000 円)

◇ <電子書籍で地域づくり！～「お散歩 e 本」おひろめ会>のお知らせ

田原市が愛知大学に委託している田原市「お散歩 e 本」刊行実験事業の  
一環として、このイベントを開催いたします。電子書籍をはじめとする電  
子メディアの、地域づくりへの活用に関心をお持ちの市民および図書館・  
行政・大学・団体・企業等の関係者のみなさまの参加をお待ちしておりま  
す。

- 1 日時 2 月 21 日 (木) 午後 1 時 30 分～午後 5 時
- 2 会場 田原文化会館 1 階 101 会議室 (田原市中央図書館と併設)  
<http://www.city.tahara.aichi.jp/facility/f013.html>
- 3 プログラム  
13:30 開会あいさつ (豊田高広：田原市図書館)  
13:40 基調講演「お散歩活動と電子メディアを活用したまちおこし」  
(岡野裕行：皇學館大学文学部)  
14:30 実験事業の目的と概要 (豊田)  
14:50 「お散歩」ワークショップ報告 (岡野)  
15:10 「e 本 (電子書籍)」制作報告 (時実象一：愛知大学文学部)  
15:30 休憩  
15:40 討議「電子書籍が開く地域づくりの可能性と課題」(岡野、時  
実、満尾哲広：フルライトスペース株式会社、豊田)  
16:30 質疑応答  
17:00 閉会

4 「お散歩 e 本」とは  
「おさんぽいいほん」と読みます。田原市内の地域で「お散歩」のワーク  
ショップを行った結果を、「e 本」(電子書籍)によるその地域の気軽な  
お散歩のためのガイドブックとして編集しました。昨年 8 月 24 日に  
清田・福江の両校区で行ったワークショップの成果を 1 冊にまとめ、刊行  
します。

- 5 参加方法  
参加無料 (事前申込制) 定員 30 人  
お申込みはメールでお願いします。  
件名を「2 月 21 日おひろめ会参加申込み」とし、本文に  
・お名前とご所属 (メール 1 件で複数可。ご所属は必須ではありません。)  
・メールアドレス (複数の場合は代表の方でけっこうです)  
・電話番号 (複数の場合は代表の方でけっこうです。日中に連絡可能な  
電話をお願いします)  
以上の項目を明記し、toyoda-takahiro アット city.tahara.aichi.jp  
(アットは@に置き換え) に送信してください。折り返し確認のメー  
ルを差し上げます。確認のメール送信まで数日かかる場合があります  
ので、あらかじめご了承ください。お問い合わせ先も同じです。

☆★.....☆☆  
編集後記

1月号の発行は月末ギリギリになってしまいました。編集が遅くなって申し訳ありません。新年にはいって1ヶ月、忙しい生活が戻ってまいりました。私が所属する同志社大学の図書館司書課程は本年60周年ということで、記念式典や記念号の編集などに追われています。大学におられる方は、これから成績評価、入試など慌ただしい日々が続くかと思います。インフルエンザとノロウイルスが大流行しているようでもあります。うがい、手洗いを徹底して予防に努めたいと思います。

ご意見、ご感想の宛先: jsik@nifty.com  
(メールマガジン 1月号 担当: 原田隆史)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013. 2.27 ☆☆ No.65

=====

2月号 CONTENTS(目次)

=====

- ◆◆常務理事会議事概要◆◆
- ◆◆第21回 年次大会開催のお知らせ◆◆
- ◆◆第21回 年次大会 発表募集のお知らせ◆◆
- ◆◆第10回(2013)論文賞 推薦開始のお知らせ◆◆
- ◆◆学会誌編集委員長からのお知らせ◆◆
- ◆◆シニア部会第3回卓話会のお知らせ◆◆
- ◆◆関連行事のご案内◆◆
  - ・ 学術著作権協会 著作権講演会のご案内
  - ・ 東日本大震災アーカイブ公開記念シンポジウム
  - ～東日本大震災の記録をのこす意志、つたえる努力～

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会議事概要◆◆

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会の開催報告◆◆

情報知識学会 平成24年度 第4回常務理事会議事要旨

日時: 2013年1月29日(火) 18:45～21:15

場所: 情報知識学会事務所(凸版印刷(株)内)

出席: 石塚、長塚、原田、芦野、江草、岡本、小川、田良島、根岸

議事:

1) 永年会員表彰(第2回)について

第1回表彰の際の検討では会員期間20年以上を永年とし、次第に短縮して最終的には10年以上とするとしたことを基に検討した。その結果、第2回では15年以上を対象とすることとした。

2) 学会年次大会での賞の新設について

大学院生・学生を対象としたプレゼンテーション賞を設置することについて検討した。その結果、院生・学生セッションで登壇発表した院生・学生の発表を審査委員会が審査して受賞者を決定し、当日、審査委員長が表彰し、受賞理由を述べることにした。また、審査基準の原案作成を賞の提案者である大槻年次大会実行委員長と松村委員に依頼することとした。

3) 第22回(2014年度)年次大会 実行委員長選任の件

第21回年次大会実行委員長から第22回実行委員長として村川理事(和歌山大学)の推薦があったので、第22回年次大会実行委員長に村川理事を選任した。

4) 論文賞推薦委員会設置等について

長塚副会長を委員長とする委員会の構成を決定した。今後のスケジュールは同委員会が昨年に準じて立案し、進めることとした。

5) 学会誌色刷り印刷印刷代について

芦野編集委員長、五所事務局長から学会誌 22 巻 3 号で色刷り印刷が 1 頁あり、今回は試行的に本誌は著者負担 5 千円／頁、別刷りは＋7 千円／頁で実施したが、頁数が多い場合は印刷時に手間が掛かるため、検討を要するとの報告があり、別刷り料金はもっと高くてもよい等、種々意見交換を行った。その結果、色刷り頁数が多い場合について見積もりを取りさらに検討することとした。

6) 「男女共同参画人文系学協会連絡会」への参加について

岡本常務理事から説明があり、男女共同参画は分野によらず行うべき等、種々意見交換があり、今後引き続き検討することとした。

\*\*\*\*\*

◆◆第 21 回 年次大会開催のお知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

◇情報知識学会・第 21 回(2013 年度)年次大会(研究報告会&総会)開催されます。

◆実行委員長 大槻 明(東京工業大学)

実行委員 松村 敦(筑波大学)

浅本 紀子(お茶の水女子大学)

笹倉 理子(お茶の水女子大学)

梶川 裕矢(東京工業大学)

村井 源(東京工業大学)

村川 猛彦(和歌山大学)

◆日 程: 2013 年 5 月 25(土)・26(日)

◆会 場: お茶の水女子大学

<http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

◆内 容(予定): 前回までの内容(研究発表等)に加え、今回は学生セッションや地籍情報シンポを行う予定です。詳細は、<http://www.jsik.jp/?kenkyu> をご参照ください。

※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?kenkyu>

※お問い合わせは:

☆★.....☆☆

◆◆第 21 回 年次大会 発表募集のお知らせ◆◆

◇研究報告会の発表論文を下記要領で募集いたしますので、学会員の皆様どうぞ奮ってご応募ください。詳しくは下記の「募集サイト」をご覧ください:

<http://www.jsik.jp/?2013cfp>

◆1. 募集分野

- (1) 情報知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス
- (6) 知識情報の流通と知的所有権
- (7) 専門分野における情報の品質管理、基準化
- (8) インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
- (9) その他情報知識学に関連する諸研究・開発

◆2. 応募方法

\* 登録方法: 登録フォームから必要情報を登録:

<http://tinyurl.com/a77x5hf>

\* 応募期限: 2013 年 3 月 8 日(金)

\* 採択可否通知: 2013 年 3 月 15 日(金)

\* 原稿提出期限: 2013 年 4 月 19 日(金)

◆3. 論文執筆・発表について

1. 原稿の体裁は、学会誌の論文執筆要領に準拠してください。  
論文種別欄は「第 21 回年次大会予稿」となります。
2. 発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。論文提出がないと発表できません。

3. 登壇発表者は当学会員に限りです。当日入会も可能です。
4. 本論文も WEB 上での提出を予定しています。具体的な方法は採否決定時に改めて連絡いたします。
5. 予稿原稿ページ数は 6 ページ以内を基本とします。超過した場合は、2 ページ単位で 2,000 円ずつ超過料金が発生します。  
(例: 超過 1~2 ページ 2,000 円、超過 3~4 ページ 4,000 円)

◆ 4. 学生セッション（仮称）について  
第 21 回年次大会では、学生セッション（仮称）を予定しております。  
学生セッションへの参加を希望される場合は、発表申し込みページで「学生セッションを希望する」にチェックを入れてください。

- ◆ 5. お問い合わせ先
- \* 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1
  - \* 東京工業大学 大学情報活用センター内
  - \* 第 21 回 (2013 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会
  - \* E-Mail:jsik2013\_at\_valdes.titech.ac.jp  
{\_at\_は@と読み替えてください}

\*\*\*\*\*

◆◆第 10 回 (2013) 論文賞 推薦開始のお知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

第 10 回 (2013) の論文賞の選定を行います。昨年同様の選考方式に基づき、学会員が直接投票で選びます。論文賞推薦委員会の委員は、長塚副会長（委員長）、芦野編集委員長、根岸常務理事、田良島常務理事の 4 名です。

(1) 選定の日程

- 1 論文賞の候補の推薦。本学会員（正会員、賛助会員）は、推薦委員会に対して論文賞にふさわしいと思われる論文をその理由をつけて推薦する。
  - ・推薦開始 : 2013 年 2 月 27 日
  - ・推薦締切り : 2013 年 3 月 15 日
- 2 推薦委員会は、会員からの推薦論文が多数の場合は一次選考を行い、また少数の場合は推薦委員会により追加推薦を行って、候補論文を決定する。
  - ・候補決定 : 3 月 18 日
- 3 これら論文賞候補論文とその推薦理由を学会ホームページおよびメルマガ等に掲載し、会員に投票を依頼する。投票は、総会出欠回答はがきに併設の論文賞投票欄に記入する。  
なお、推薦者の名前、人数などは公表しない。
  - ・投票開始 : 3 月 27 日
  - ・投票締切り : 4 月 21 日
- 4 投票の結果、最多得票の論文を論文賞授賞論文とする。  
ただし、推薦委員会は得票数や論文内容などを勘案し、得票数第 2 位の論文についても論文賞とすることができる。
- 5 選定結果発表
  - ・授賞式 : 次期総会 (5 月 26 日(日) 予定) において

(2) 推薦対象論文 (下記 8 件、掲載順)

1. 秋元 良仁, 亀山 渉: “分散的な異なるスキーマに対応した Museum メタデータ記述言語”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 1, pp. 9-22, 2012.
2. 村井 源, 川島 隆徳, 工藤 彰: “映画と演劇の批評文における固有名の関係性と役割の計量分析”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 1, pp. 23-43, 2012.
3. 芳須 弘, 藤田 充苗, 原田 幸明, 緒形 俊夫: “マテリアルリスク指標とその応用”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 3, pp. 171-186, 2012.
4. 工藤 彰, 村井 源, 往住 彰文: “共通語の布置と変化に基づく並行形式小説の物語構造”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 3, pp. 187-202, 2012.
5. 村井 源, 川島 隆徳: “総合芸術の批評における批評対象の特徴 &#8722;映画と演劇の批評の計量的比較&#8722;”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 3, pp. 203-222, 2012.

6. 香川 恵里奈, 村上 幸一: “オープンソースソフトウェアを対象とした設定マニュアル自動生成システムの開発”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 3, pp. 223-237, 2012.
7. 林 賢紀, 阪口 哲男: “文献データベースと電子ジャーナルの利用行動に対するリンクリゾルバの影響の分析”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 3, pp. 238-252, 2012.
8. 渡部 孝幸, 宮崎 佳典: “二次元の位置構造に着目した数式のパターンマッチング手法”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 3, pp. 253-271, 2012.

<注> これらは学会誌の他, オンライン (J-Stage) でも論文全文を参照できる.

<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/-char/ja/>

#### (3) 推薦方法・締め切り

推薦する論文について, 400 字程度の推薦理由を付して, 2013 年 3 月 15 日までに, 学会事務局 (jsik@nifty.com), および, 推薦委員会 (nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp) あてに, 電子メールで送信する。形式自由。ただし, SUBJECT 欄に「論文賞候補推薦状」と明示すること。

#### (4) 意見募集

来年度以降の選定方式の改定について会員の意見を求めます。例えば現状では, 年度単位のため論文賞の対象とする論文が少ないので, 例えば 2 年置きに選定する, あるいは 2 年間にわたって (前年度の論文も重複して) 対象にする等の案も考えられます。

※ご意見は, 事務局 (jsik@nifty.com) まで。

\*\*\*\*\*

#### ◆学会誌編集委員長からのお知らせ◆

\*\*\*\*\*

昨年末に Vol.22 No.4 を J-Stage にて公開いたしました。フォーラム実行委員会のご尽力により、大変充実した内容となり、東北三県の図書館、神戸大学の震災文庫へも寄贈いたしました。

また、Vol.23 No.1 は 2 月中に発行予定です。昨年度は国沢先生からの委員長交代に伴って編集作業に不手際があったため、Vol.22 No.1 は発行が遅れてしまいましたが、本年度はなんとか従来のペースに戻すことが出来ました。会員の皆様のご協力により、研究論文 5 本、100 頁を超えるものとなりました。今後共論文の投稿、査読へのご協力など何卒よろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

#### ◆シニア情報知識学研究部会第 3 回卓話会のお知らせ◆

\*\*\*\*\*

#### ◇シニア情報知識学研究部会 本年度第 3 回(通算第 6 回)卓話会のお知らせ

シニア部会では、「事始めシリーズ」として、情報知識学各方面での先達をお招きして、往時の研究状況の話を伺って、現状への理解を深め、今後の展開を議論するための卓話会を開催しています。今回は笹森勝之助会員に講師をお願いして、下記要領により本年度第 3 回卓話会を開催しますので、若手、現役、シニアの各層会員とも奮ってご参加下さい。

笹森氏は 1958 年に設立間もない日本科学技術情報センター (JICST、現科学技術振興事業団) に入所され、データベースの編集、情報検索システムの開発を担当され、その後も情報技術関連のほか、多方面で活躍されています。今回は、本邦初のシソーラス制作ソフトウェアである「JICST 用語管理システム」(DOCTOR) の設計開発の経緯を中心に当時の状況をお話し頂き、情報検索システムの今後の展望



■開催日時と会場

日時： 2013 年 3 月 26 日(火) 14:00 ～ 17:00 (13 : 30 開場)

会場： 国立国会図書館 東京本館 新館 講堂

国立国会図書館 関西館 1 階 第一研修室

※東京本館のシンポジウムの様子を関西館にテレビ中継

■募集人数

東京本館 250 名、関西館 60 名 (先着順)

■参加費

無料

■プログラム

<http://www.ndl.go.jp/event/events/archive-sympo.html>  
をご参照ください。

■申込先・方法

申込みフォームに下記(1)&#12316;(6)の事項をご記入の上  
お申し込みください。

[https://www.ndl.go.jp/event/apply\\_archive-sympo.html](https://www.ndl.go.jp/event/apply_archive-sympo.html)

FAX 03-3581-0768 での受付もしております。

(1)シンポジウム名 (「3 月 26 日 シンポジウム申込み」)

(2) 希望会場 (東京本館または関西館)

(3)お名前

(4)お名前 (ふりがな)

(5) ご所属

(6)連絡先 (FAX 番号またはメールアドレス)

■申込み締切

2013 年 3 月 20 日 (水・祝)

(先着順で定員となり次第、受付を終了します。)

■お問い合わせ先

国立国会図書館 電子情報部 電子情報流通課

東日本大震災アーカイブ担当

電話 03-3581-2331 (代表)

☆☆・・・・・・・・・・・・・・・・☆☆  
編集後記

第 21 回 年次大会 (5/25-26)の発表論文募集が

開始されております (3/8 締め切り)。

また、第 10 回 (2013) 論文賞の推薦も開始されております。

(3/15 締め切り)。

会員諸氏の積極的なご参加及びご協力をお願い申し上げます。

まだまだ寒い日が続きますが、

お風邪など召されないように、ご自愛下さいませ。

ご意見、ご感想の宛先： [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メールマガジン 2 月号 担当：大槻 明)

☆☆・・・・・・・・・・・・・・・・☆☆

\*\*\*\*\*  
☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013.3.27 ☆☆ No.66

=====

3 月号 CONTENTS (目次)

=====

◆◆常務理事会議事概要◆◆

◆◆第 21 回 年次大会開催のお知らせ◆◆

◆◆第 10 回 (2013) 情報知識学会論文賞について◆◆

◆◆関連行事等のご案内◆◆

◆◆関連分野の動向◆◆

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会議事概要◆◆

\*\*\*\*\*

◆常務理事会の開催報告◆

情報知識学会 平成 24 年度 第 5 回常務理事会議事要旨

日時：2013 年 3 月 18 日(月) 18:45－21:30

場所：情報知識学会事務所（凸版印刷(株)内）

出席：石塚、長塚、原田、江草、小川、田良島、根岸

議事：

1. 論文賞推薦等について

論文賞推薦委員長 長塚副会長より同委員会で候補論文を決めた旨の報告があり、これを承認した。投票の集書は総会通知と兼用することとした。

2. 年次大会準備状況について

会員からの発表応募件数 31、うち 9 件が学生セッションと多数の応募があり、実行委員会でプログラムを検討中、シンポジウムは第 1 日の午後を予定、との現状紹介が会長からあった。プログラムについて意見交換した。学生セッションの発表に対する賞の名称を「学生奨励賞」とし、その審査基準について実行委員会からの案を基に検討した。

3. 永年会員表彰（第 2 回）について

第 2 回では会員期間 15 年以上を対象とする方針で該当者リストを確認し、表彰状作成担当を決めた。

4. 平成 24 年度実績(仮)および平成 25 年度予算について

事務局から 24 年度の現時点での実績の報告があり、25 年度予算は次回検討することとした。

5. 平成 25 年前半の作業予定・計画について

事務局から例年の状況を基に作業予定・計画が示され、今後の日程を検討。

6. 学会誌のカラー印刷の費用負担について

2 月末発行の学会誌では 4 頁のカラー印刷があったため、その費用と別刷りの著者負担について意見交換。本日は編集委員長欠席のため後日決定する。

付記：平成 24 年度は総会前の 4 月 25 日に第 1 回常務理事会を開催したため、メルマガ上では第 1 回が 2 つ存在するミスがあったことが分かりました。お詫びして、7 月 23 日開催分を第 2 回、10 月 17 日を第 3 回、25 年 1 月 29 日を第 4 回と修正いたします。

\*\*\*\*\*

◇◆第 21 回 年次大会開催のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇情報知識学会・第 21 回(2013 年度)年次大会(研究報告会&総会)開催されます。

◆実行委員長 大槻 明（東京工業大学）

実行委員 松村 敦（筑波大学）  
浅本 紀子（お茶の水女子大学）  
笹倉 理子（お茶の水女子大学）  
梶川 裕矢（東京工業大学）  
村井 源（東京工業大学）  
村川 猛彦（和歌山大学）

◆日 程：2013 年 5 月 25(土)・26(日)

◆会 場：お茶の水女子大学

<http://www.ocha.ac.jp/access/index.html>

◆内 容（予定）：前回までの内容（研究発表等）に加え、今回は「学生セッション」や「地籍情報シンポ」を行う予定です。

地籍シンポのポスターは下記 URL をご覧ください。

<http://www.jsik.jp/?kenkyu>

また、詳細プログラムについても、決定次第、同 URL に掲載致しますので適宜ご参照賜れば幸いです。

※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?kenkyu>

※お問い合わせ先：

\* 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

\* 東京工業大学 大学情報活用センター内

\* 第 21 回（2013 年度）情報知識学会 年次大会実行委員会

\* E-Mail: [jsik2013\\_at\\_valdes.titech.ac.jp](mailto:jsik2013_at_valdes.titech.ac.jp)

{\_at\_は@と読み替えてください}

\*\*\*\*\*

◇◆第 10 回（2013）論文賞について◆◇

\*\*\*\*\*

◆候補論文に対する会員投票の公告◆

◇2013 年 3 月 18 日 論文賞推薦委員会(長塚, 根岸, 田良島, 芦野(欠席))

・第 10 回 (2013) の論文賞は、「学会員の選ぶ論文賞」として、全学会員の直接投票に基づいて選定します。投票に先立ち論文賞候補論文の推薦を募集したところ、会員から下記 3 件について推薦があり、論文賞推薦委員会にて審議の結果、この論文を候補として、会員各位の投票を募ることに致しました。投票に参加下さるようお願いします。

(1) 投票方法

4 月中旬に郵送予定の 2013 年度総会出欠票はがきの論文賞投票欄の 3 論文のうちひとつを選択し、5 月 5 日 (日) 必着にて投函する。

(2) 開票および結果発表

論文賞推薦委員会において開票し、多数票を得たものを授賞論文とする。ただし、同票の場合には論文賞推薦委員会が決定する。選定結果の発表および授賞式は 2013 年度総会の席上にて行う。

(3) 投票対象候補論文および推薦理由

1. 「分散的な異なるスキーマに対応した Museum メタデータ記述言語」  
Vol. 22, No. 1, pp. 9-22, 2012 (秋元 良仁, 亀山 渉)  
本論文は、博物館や美術館間における収蔵品の属性情報 (Museum メタデータ) の共有・交換を可能にする新しい記述言語 Fuzzy Schema (FS) を提案したものである。FS 言語は、独自のデータモデルである「マッピング・パターン」と「あいまい度」の 2 つの機構を備えており、これらの機構により、分散環境における Museum メタデータに情報の相互交換性を提供する機能を有している。本論文では、FS 言語を用いて Museum メタデータを記述することで、博物館・美術館間で Museum メタデータの共有・交換が可能になることを示した。現在、様々な館種間でのメタデータの共有・交換は、重要な課題となっており、単に新しい記述言語 Fuzzy Schema (FS) の提案にとどまらず、その実現可能性を実際に示したことの意義は大きい。有用性の観点から高く評価できる。よって、本論文を第 10 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。
2. 「マテリアルリスク指標とその応用」 Vol.22, No.3, pp.171-186, 2012  
(芳須 弘, 藤田 充苗, 原田 幸明, 緒形 俊夫)  
現在、原子力発電、化学プラントなどの機器用材料の素材採集時の鉱石採掘などにより環境破壊が生じ、それらの材料製造中に発生する CO<sub>2</sub>、SO<sub>x</sub>、および NO<sub>x</sub> による大気汚染が地球環境に影響をおよぼすことが問題となっており、機器設計時の材料評価にマテリアルリスク指標が提案されている。本論文は、これらの指標のデータ構造を決定した後、リスク指標のデータベースを試作し、Web で提供されている耐熱材料の特性との関係を調査したものである。著者らは、地球環境を考慮した機器設計時における最適材料は容易に入手可能な元素からなる材料を選択すべきとの前提で、各種のステンレス鋼を評価し、ニッケルをマンガンで置き換えたステンレス鋼の環境適合性が良好なことを明らかにした。  
本論文は、現代社会で解決すべき重要課題となっている環境破壊の軽減による持続可能社会の実現への新たな提案ともなりうるものである。よって、本論文を第 10 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。
3. 「総合芸術の批評における批評対象の特徴—映画と演劇の批評の計量的比較—」 Vol. 22, No. 3, pp. 203-222, 2012 (村井 源, 川島 隆徳)  
本論文は、批評対象を計量分析することで、批評の科学的分析の際の基礎的な知見を得ようとしたものである。総合芸術である映画と演劇に関する批評文から、批評対象に関連した名詞を抽出し、30 のカテゴリに分類し、 $\chi^2$  乗検定によって映画と演劇で重要視する要素の相違を分析し、映画では特定の人物に集中するのに対し、演劇では分散的であること、因子分析により、カテゴリ間の関係性を調査し、「監督」と「演技」における映画と演劇でのニュアンスに相違があること、さらに、N-gram 法により映画の場合は「物語」が、演劇の場合は「演技」が批評の論理展開の中心的要素であること、などを明示した点が評価できる。本論文は、批評文を計量分析し、分野の異なる芸術領域間における相違についての基礎的な知見を得ようとしたものであり、他の様々な資料への適用の可能性も含めて、今後の計量分析への新たな糸口を提案するものとなっている点で、高く評価できる。よって、本論文を第 10 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。

◇これらの論文は学会誌、及び J-Stage にてオンラインで論文全文を参照  
できます。

1. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/1/22\\_9/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/1/22_9/_pdf)
2. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22\\_22\\_171/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22_22_171/_pdf)
3. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22\\_22\\_203/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22_22_203/_pdf)

\*\*\*\*\*

◇◆関連行事等のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

◆文化情報資源政策の確立を求めて：利活用に関わる課題を中心に◆

日時：2013 年 3 月 30 日(土)14:00-17:30  
会場：早稲田大学大隈会館 2F 会議室  
<http://www.waseda.jp/jp/campus/waseda.html>

主催：文化情報資源政策研究会  
共催：早稲田大学演劇博物館

概要：

基調講演.....14:00  
「演劇資料の特徴と利活用の可能性」 竹本幹夫早稲田大学演劇博物館館長

基調報告.....14:30  
A. 「文化情報資源政策研究会の趣旨と研究対象範囲」  
柳与志夫（文化情報資源政策研究会幹事）  
B. 「これまでの研究会例会（第2回～第9回）における論議のまとめ」  
渡邊太郎（文化情報資源政策研究会事務局長）  
（休憩）

シンポジウム「文化情報資源の利活用を進めるための政策とは？」…15:30  
パネリスト

太下義之（三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング主席研究員）  
後藤和子（埼玉大学教授）  
福井健策（弁護士）  
吉見俊哉（東京大学副学長・情報学環教授）；司会  
赤松健（漫画家、株式会社 J コミ代表取締役社長）  
質疑応答・意見交換  
（終了後、午後 6 時から 大隈記念タワー15F レストラン「西北の風」で  
懇親会を行います）

参加：  
参加費 500 円（懇親会も参加の場合は+3,000 円）  
予約方法  
メールにて事務局<[bunka-sigen@list.waseda.jp](mailto:bunka-sigen@list.waseda.jp)>まで下記項目を明記の上、  
お申し込みください。  
1. お名前  
2. ご所属  
3. 電話連絡先  
4. 懇親会参加の有無

☆★.....☆☆

◆アジア情報アクセスサマースクール（ASSIA 2013）開催案内◆

※申込受付は、4 月 2 日 - 5 月 14 日 です

情報アクセス分野の第一線で活躍している研究者を招聘し、分野の基礎から  
最新動向までを短期間で学べるサマースクールを以下の要領により開催いたし  
ます。今回はその第 1 弾として、主に情報検索やウェブ検索に焦点を当てると  
共に、クラウドソーシングや E-Discovery など近年重要性が増しているトピッ  
クも講義します。アジア圏の大学、研究機関、企業に在籍する学生や若手研究  
者が主な対象ですが、情報アクセス分野の知識をブラッシュアップしたいベテ  
ラン研究者の参加も大歓迎です。

○ 開催日時

2013年6月22日(土) - 6月24日(月)

※ASSIA 2013は、NTCIR-10 Conference (6月18日-21日 @ NII) と連続開催  
しますので、NTCIR-10 Conference への参加も是非ご検討ください。  
NTCIR-10 Conference 参加者には参加費割引があります。

○ 会場  
筑波大学 春日エリア 情報メディアユニオン  
所在地：〒305-8550 茨城県つくば市春日 1-2

詳細は、Web サイトをご覧ください：  
<http://www.kc.tsukuba.ac.jp/assia2013/>

\*\*\*\*\*

◆◆関連分野の動向◆◆

\*\*\*\*\*

◆ISO/TC37 および ISO/TC46 国内審議団体の移行について◆

2013年4月1日より、ISO/TC37 (専門用語、言語、内容の情報資源)  
および ISO/TC46 (情報とドキュメンテーション) の国内審議団体 (事務局)  
が、日本規格協会から情報科学技術協会 (INFOSTA) に移行されます。

ISO (国際標準化機構) は、ご存じの通り参加国の国家標準化機関の連合  
であらゆる分野の国際標準を決める非政府機関です。この中に TC (技術委員  
会) と呼ばれる各専門分野ごとの委員会 (約 200) があり、設立順に番号が付  
与されています。

今回 INFOSTA が事務局を引き受けることになったのは、ISO/TC37 および  
ISO/TC46 の国内審議団体です。

ISO/TC37 (専門用語、言語、内容の情報資源) は、専門用語、言語、情報  
資源の応用などの分野の国際標準を扱っています。組織としては TC のもとに  
SC (分科委員会) が5つと、2つの WG (ワーキンググループ) があります。

- ・ TC37/SC1 : (専門用語作成の) 原則と手法
- ・ TC37/SC2 : 用語辞書編纂方法
- ・ TC37/SC3 : 用語、情報、内容の管理システム
- ・ TC37/SC4 : 言語資源マネジメント
- ・ TC37/SC5 : 翻訳、通訳及び関連技術
- ・ TC37/WG8 : オントリジー言語的、用語的、知識構成側面
- ・ TC37/WG9 : データカテゴリ登録

TC46 (情報とドキュメンテーション) は、図書館、ドキュメンテーション、  
記録管理 (文書管理)、出版・流通などの分野の国際標準を扱っています。  
組織としては TC のもとに SC (Subcommittee) 分科委員会が4つと、4つの WG  
(ワーキンググループ) があります。

- ・ TC46/SC4 : 技術的相互運用性
- ・ TC46/SC8 : 品質一統計及び評価
- ・ TC46/SC9 : 識別と記述
- ・ TC46/SC11 : アーカイブズ/記録管理
- ・ TC46/WG2 : 国名コード
- ・ TC46/WG3 : 書き言葉の変換
- ・ TC46/WG4 : 用語
- ・ TC46/WG5 : アーカイブボックス

皆様の専門分野に近い規格を審議・制定しておりますので、今まで以上に関心  
を持っていただけたら幸いです。

☆☆.....☆☆

編集後記

東京では、33/23,24 の土日で桜が満開になった。大阪の満開は、一週遅れて  
3/30,31 という。一週遅れでもまだ早い。気候温暖化と、おそらくこれに伴う  
気候の”荒っぽい”変化に驚いている。

さて、後約2ヵ月で、第21回 年次大会 (5/25-26) が開催され、その時には

第10回(2013)論文賞の授賞も行われる。会員諸氏とは、少し汗ばむ5月下旬に、大会会場であるお茶の水女子大学でお会いできれば幸いである。

ご意見、ご感想の宛先: jsik@nifty.com

(メールマガジン 3月号 担当: 田窪 直規)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013.4.25 ☆☆ No.67

---

---

4月号 CONTENTS(目次)

---

---

- ◆◆第1回常務理事会報告◆◆
- ◆◆第3回シニア部会卓話会報告◆◆
- ◆◆第21回 年次大会開催のお知らせ◆◆
- ◆◆論文賞会員投票のお知らせ◆◆
- ◆◆情報知識学会誌についてのお知らせ◆◆

◆◆関連団体行事のご案内◆◆

【情報メディア会 JSIMS】第12回研究大会開催 2013年6月29日

【情報処理学会 IPS】

第98回人文科学とコンピュータ研究会発表会 2013年5月11日

第60回電子化知的財産・社会基盤研究発表会 2013年5月16日

【科学技術振興機構 JST】

新技術説明会 広島大学: 2013年05月10日

新技術説明会 電気通信大学: 2013年05月14日

\*\*\*\*\*

◆◆第1回常務理事会報告◆◆

◆◆常務理事会の開催報告◆◆

情報知識学会 平成25年度 第1回常務理事会議事要旨

日時: 2013年4月22日(月) 18:45-21:10

場所: 情報知識学会事務所 (凸版印刷(株)内)

出席: 石塚、長塚、芦野、岩田、江草、岡本、小川、根岸

議事:

1. 論文賞関係進捗状況

論文賞推薦委員長 長塚副会長より、推薦論文3件について会員へ投票依頼と年次大会の知らせの封書の発送を業者に依頼済みであること、投票締切後、委員会が開票して決定することなどの報告があり、承認した。

2. 学会誌カラー印刷に関する著者の費用負担について

本誌印刷の際のカラー頁当りの費用負担金額、別刷りの際のカラー頁に関する追加負担金額を検討し原案を作成した。編集委員会で審議し、決定する。

3. メールマガジンの編集の流れ、編集担当などについて

岡本常務理事から報告、提案があり、審議した。会員に配布するメルマガの版は月の担当者ではなく岡本先生が事務局に送ることを決定し、2013年度の編集担当候補者への依頼を承認し、副委員長を置くべく、打診を始めることを承認。

4. 永年会員表彰について

2013年度永年会員表彰該当者への通知書を用意したこと、5月26日の表彰式への出欠の返事用の葉書を準備し、該当者に近々発送することが、石塚会長から報告がされ、了承した。

5. 平成25年度(2013年度)年次大会準備状況

年次大会のプログラムが決定し、学会のWebサイトに掲載されたことなど、現状報告が石塚会長よりあった。

6. 平成25年度総会資料について

総会は5月25日(土)12:00開始。事務局が現時点で取りまとめた資料を検討した。平成24年度事業報告と決算報告、平成25年度事業計画と予算案の説明は両副会長が分担して行うこととした。5月26日に表彰する永年会員名簿を資料として付けることとした。現時点で事業報告を提出していない部会には提出を願うこととした。

☆★.....

上述の常務理事会を開催する以前に行った、メール審議により、次の2件の学会と図書館総合展を後援することをメール審議により決定した。

1. アート・ドキュメンテーション学会 (JADS) の2013年度年次大会、  
6月1日・2日、金沢
2. 日本デジタル・ヒューマニティーズ学会(<http://www.jadh.org/>)の第3回  
国際シンポジウム: JADH2013、2013年9月19-21日、立命館大学、京都
3. 第15回図書館総合展、2013年10月29-31日、パシフィコ横浜  
(<http://2013.libraryfair.jp/>)

\*\*\*\*\*

◆◆第3回シニア部会卓話会報告◆◆

\*\*\*\*\*

◆◆第3回シニア部会卓話会報告◆◆

シニア情報知識学研究部会 本年度第3回(通算第6回)卓話会報告

本年度第3回シニア部会卓話会は、3月27日18時から学会事務局にて、本会員笹森勝之助氏に講師を願ひして、「JICST用語管理システム: DOCTOR の設計と実装の思い出」をテーマとして開催された。出席者9名。

笹森氏は1957年に創設されたJICSTに翌年の第一期新卒採用所員として入所され、文献速報編集業務および情報検索システムの構築に取り組まれた。文献速報はUDCによる検索のみであったので、シソーラスによる多角的検索機能の実現を企図され、その研究開発を進められた。本講の主題である

DOCTOR (Dictionary Operation & Control for Thesaurus ORganization)は、用語および用語対の入力をもとにシソーラス用語間の関係を構成し作り上げてゆくシソーラス編集システムで、これにより、1970年に部内での稼働を開始し、1975年に23,000語の冊子体JICSTシソーラス第1版が出版され実用に供された。

当時、大型コンピュータといっても、今日のパソコンの100万分の1程の能力、容量で、シソーラスのようなリンク構造データを扱うのは容易でなかった。またコンピュータによる情報検索やシソーラスなるものも、わが国では未知で、米国の先進事例の勉強から始めなければならなかったとのことで、その成果として翻訳書も出版された(チャールズ・T・メドウ 著、高地高司、笹森勝之助訳、「情報検索-検索言語・情報構成・ファイル処理」、1970年、日本経営出版会刊)。

このような当時の状況解説について、当時を知る出席者会員からは補足的意見も出され、活発に議論が行われた。19:30に一旦散会し、場所を近所の居酒屋に移して21時頃まで延長戦が展開され、今や全文検索が全盛で、編集者により付与される統制語彙は軽視されがちであるが、改めてその有効性を認識すべきである、そのためには技術史を含めた教育が重要である等々の議論で盛り上がった。ところで現今IRといえば機関リポジトリで、情報検索ではなくなったが、そもそも「情報検索」なる訳語の創始者は誰か、笹森氏ではないとのことであったので、この際読者諸賢からのご教示を仰ぎたい。

なお、笹森氏は本講演を元にして、関連論稿を学会誌に寄稿して下さいとのことで、大いに期待したい。

(シニア部会代表世話人: 松村多美子、世話人: 根岸正光)

\*\*\*\*\*

◆◆第21回 年次大会開催のお知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

◇情報知識学会・第21回(2013年度)年次大会(研究報告会&総会)が開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆実行委員長 大槻 明 (東京工業大学)
- 実行委員 松村 敦 (筑波大学)
- 浅本 紀子 (お茶の水女子大学)
- 笹倉 理子 (お茶の水女子大学)
- 梶川 裕矢 (東京工業大学)
- 村井 源 (東京工業大学)
- 村川 猛彦 (和歌山大学)

◆日程: 2013年5月25(土)・26(日)

◆会場：お茶の水女子大学

[http://www.ocha.ac.jp/access/campusmap\\_1.html#no2](http://www.ocha.ac.jp/access/campusmap_1.html#no2)  
の 6. 共通講義棟 2 号館 101、102、201

◆参加費：無料

◆資料代：会員無料、一般非会員 3,000 円、学生非会員 1,000 円

◆情報交流会参加費（予定）：2,000 円（学生無料）

◆プログラム：<http://www.jsik.jp/?2013program>  
今大会では、以下のとおり「地籍情報シンポ」や  
「学生セッション」も行う予定です。

◆シンポジウム「東北大震災と地籍情報」：

<http://www.jsik.jp/?plugin=attach&refer=kenkyu&openfile=JSIK21sympo.pdf>

◆学生セッション：26 日午前に学生セッションを実施する予定です。  
また、このセッションにおいて「学生奨励賞」の授与を現在検討して  
おります。

※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?kenkyu>

※お問い合わせ先：

\* 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1

\* 東京工業大学 大学情報活用センター内

\* 第 21 回 (2013 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会

\* E-Mail: [jsik2013\\_at\\_valdes.titech.ac.jp](mailto:jsik2013_at_valdes.titech.ac.jp)

{\_at\_は@と読み替えてください}

\*\*\*\*\*

## ◆論文賞会員投票のお知らせ◆

\*\*\*\*\*

論文賞投票を下記の要領で行いますので、ぜひご参加くださるようご案内致します。  
会員各位にはすでに送付しております葉書（総会出欠票兼委任状、論文賞投票欄）にご記入のうえ、事務局へご返送願います。

[1] 論文賞候補論文に対する会員投票の締切は 5 月 7 日です。

[2] 表彰式・記念講演は 5 月 26 日(日)13:00 から年次大会と同じ会場で行います。

☆★.....

【第 10 回 (2013) 情報知識学会論文賞】

◆◆再掲 - 候補論文に対する会員投票の公告◆◆

◇2013 年 3 月 18 日 論文賞推薦委員会(長塚 根岸, 田良島, 芦野(欠席))  
第 10 回論文賞は、「学会員の選定論文賞」として、全学会員の直接投票に基づいて選定します。投票に先立ち論文賞候補論文の推薦を募集したところ、会員から下記 3 件について推薦があり、論文賞推薦委員会にて審議の結果、この論文を候補として、会員各位の投票を募ることに致しました。投票に参加下さるようお願いいたします。

### (1) 投票方法

同封の 2013 年度総会出欠票はがきの論文賞投票欄の 3 論文のうちひとつを選択し、  
5 月 7 日 (火) 必着にて投函する。

### (2) 開票および結果発表

論文賞推薦委員会において開票し、多数票を得たものを授賞論文とする。  
ただし、同票の場合には論文賞推薦委員会が決定する。選定結果の発表および授賞式は、2013 年度年次大会の席上にて行う。

### (3) 投票対象候補論文および推薦理由

1. 「分散的な異なるスキーマに対応した Museum メタデータ記述言語」

Vol. 22, No. 1, pp. 9-22, 2012 (秋元 良仁, 亀山 渉)

本論文は、博物館や美術館間における収蔵品の属性情報 (Museum メタデータ) の共有・交換を可能にする新しい記述言語 Fuzzy Schema (FS) を提案したものである。FS 言語は、独自のデータモデルである「マッピング・パターン」と「あいまい度」の 2 つの機構を備えており、これらの機構により、分散環境における Museum メタデータに情報の相互互換性を提供する機能を有している。本論文では、FS 言語を用いて Museum メタデータを記述することで、博物館・美術館間で Museum メタデータの共有・交換が可能になることを示した。現在、様々な館種間でのメタデータの共有・交換は、重要な課題となっており、単に新しい記述言語 Fuzzy Schema (FS) の提案にとどまらず、その実現可能性を

実際に示したことの意義は大きい。有用性の観点から高く評価できる。  
よって、本論文を第 10 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。

2. 「マテリアルリスク指標とその応用」

Vol.22, No.3, pp.171-186, 2012(芳須 弘, 藤田 充苗, 原田 幸明, 緒形 俊夫)  
現在、原子力発電、化学プラントなどの機器用材料の素材採集時の鉱石採掘などにより環境破壊が生じ、それらの材料製造中に発生する CO<sub>2</sub>、SO<sub>x</sub>、および NO<sub>x</sub> による大気汚染が地球環境に影響をおよぼすことが問題となっており、機器設計時の材料評価にマテリアルリスク指標が提案されている。本論文は、これらの指標のデータ構造を決定した後、リスク指標のデータベースを試作し、Web で提供されている耐熱材料の特性との関係を調査したものである。著者らは、地球環境を考慮した機器設計時における最適材料は容易に入手可能な元素からなる材料を選択すべきとの前提で、各種のステンレス鋼を評価し、ニッケルをマンガンで置き換えたステンレス鋼の環境適合性が良好なことを明らかにした。本論文は、現代社会で解決すべき重要課題となっている環境破壊の軽減による持続可能社会の実現への新たな提案ともなりうるものである。  
よって、本論文を第 10 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。

3. 「総合芸術の批評における批評対象の特徴  
—映画と演劇の批評の計量的比較—」

Vol. 22, No. 3, pp. 203-222, 2012 (村井 源, 川島 隆徳)  
本論文は、批評対象を計量分析することで、批評の科学的分析の際の基礎的な知見を得ようとしたものである。総合芸術である映画と演劇に関する批評文から、批評対象に関連した名詞を抽出し、30 のカテゴリに分類し、 $\chi^2$  乗検定によって映画と演劇で重要視する要素の相違を分析し、映画では特定の人物に集中するのに対し、演劇では分散的であること、因子分析により、カテゴリ間の関係性を調査し、「監督」と「演技」における映画と演劇でのニュアンスに相違があること、さらに、N-gram 法により映画の場合は「物語」が、演劇の場合は「演技」が批評の論理展開の中心的要素であること、などを明示した点が評価できる。  
本論文は、批評文を計量分析し、分野の異なる芸術領域間における相違についての基礎的な知見を得ようとしたものであり、他の様々な資料への適用の可能性も含めて、今後の計量分析への新たな糸口を提案するものとなっている点で、高く評価できる。  
よって、本論文を第 10 回情報知識学会論文賞候補に推薦する。

◇これらの論文は、学会誌、及び J-Stage にてオンラインで論文全文を参照できます。

1. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/1/22\\_9/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/1/22_9/_pdf)
2. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22\\_22\\_171/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22_22_171/_pdf)
3. [https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22\\_22\\_203/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsik/22/3/22_22_203/_pdf)

\*\*\*\*\*  
◇◆情報知識学会誌◆◇  
\*\*\*\*\*

◆【編集委員会からのお知らせ】  
4月18日に学会誌第23巻第1号がJ-Stageにて公開されました。  
今回はカラーの図表が多く、印刷ではグレイスケールになっているものもありますので、PDF版でもご覧下さい。

\*\*\*\*\*  
◇◆関連団体行事のご案内◆◇  
\*\*\*\*\*

◇【情報メディア会 JSIMS】

◆第12回研究大会開催のご案内

情報メディア学会では「ビッグデータ時代の図書館の役割  
～データのキャストディアンは誰か～」を基調テーマにして  
下記の要項で第12回研究大会を開催します。参加希望者は、  
下記によりお申し込み下さい。非会員の参加も歓迎いたします。

◆基調テーマ

ビッグデータ時代の図書館の役割～データのキャストディアンは誰か～  
◇日時： 2013年（平成25年）6月29日（土）10:00～18:30

◇会場： 鶴見大学（予定）  
〒230-8501 神奈川県横浜市鶴見区鶴見 2-1-3  
<http://www.tsurumi-u.ac.jp/about/accessmap/>  
※参加費： 会員 3,000 円、非会員 4,000 円、学生 1,000 円  
※申し込み・問い合わせ先： 〒305-8550 茨城県つくば市春日 1-2  
筑波大学 図書館情報メディア系内 情報メディア学会事務局  
FAX 020-4665-4761  
※詳細は：  
<http://www.jsims.jp/kenkyu-taikai/yokoku/12.html>

☆☆.....☆☆

◇【情報処理学会 IPSJ】

◆第 98 回 人文科学とコンピュータ研究会発表会  
（主査： 阪田真己子，幹事： 末代誠仁，関野樹，研谷紀夫，松村敦）  
◇共催： 大谷大学文学部人文情報学科  
◇日時： 2013 年 5 月 11 日（土）  
◇会場： 大谷大学（京都市北区小山上総町）  
<http://www.otani.ac.jp/nab3mq0000004vfa.html>

◇プログラム

【学生ポスターセッション】

- (1) 映像・画像資料アーカイブ連携・時空間処理システム
- (2) 絵巻の構造化記述による”絵解き” デジタルアーカイブの構築
- (3) スマートフォンを用いた「景観文字」調査支援システムの試作
- (4) 井原西鶴の『万の文反古』の文体分析

【一般セッション】

- (5) 理念型モデル化分析法の実装と運用における技術的問題の整理
- (6) 論理構造と物理構造が混在するテキストの XML による マークアップに関する考察
- (7) 人文学においてデジタル技術はどう活用されてきたか：  
CH 研究会研究報告を手がかりとして

【特別セッション】

タブレット型 PC の人文学への応用(大谷大学)  
※研究発表会はどなたでも参加いただけます。事前申し込みは不要。  
※詳細は：  
<http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/ch98.html>

☆☆.....☆☆

◇【情報処理学会 IPSJ】

◆第 60 回電子化知的財産・社会基盤研究発表会  
電子化知的財産・社会基盤研究会 (IPSJ-EIP)  
（主査： 山下博之；幹事： 金子格，小向太郎，須川賢洋，上相 英之）  
◇日時： 2013 年 5 月 16 日（木） 10:00-17:30  
◇議題： 知的財産，一般  
◇会場： 情報セキュリティ大学院大学 <http://www.iisec.ac.jp/access/>  
〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町 2-14-1  
◇プログラム  
5 月 16 日（木）  
(1) プライバシー概念の論理的記述  
(2) プライバシーの社会的価値について  
～ D. Solove のプラグマティズム的アプローチの検討 ～  
(3) 情報セキュリティにおける脅威資料への認知効果に関する実験的検討  
(4) 情報セキュリティ DB を用いた SNS 会員資格制度の提案  
(5) 利用経験およびトラブル経験がオンラインショッピングの利用意識に与える影響  
(6) [招待講演] 知財的保護と秘密的保護～情報法の基礎理論に向けて～  
5 月 16 日（木）  
(7) 指定管理者制度と個人情報保護  
(8) 企業・組織における個人情報漏えい事故の補償について  
—お詫び金に着目した考察—  
(9) 番組ジャンルの視聴感を用いた個人の視聴カルテの分析手法の検討  
(10) マルチバンドカメラを用いた顔検出システム  
(11) 利用停止事例と非実現事例に見る行政手続オンライン化の課題と可能性  
(12) ストリートビュー事件高裁判決（福岡高判平成 24 年 7 月 13 日判例集未登載（平成 23 年（ネ）第 439 号））の分析と我が国個人情報保護制度への示唆  
※研究発表会はどなたでも参加いただけます。事前申し込みは不要。  
※詳細は：  
<http://www.ipsj.or.jp/kenkyukai/event/eip60.html>

☆☆.....☆☆

【科学技術振興機構 JST】

◆新技術説明会 広島大学

- ◇日時： 2013 年 05 月 10 日（金）  
◇会場： 東京都千代田区 / JST 東京別館ホール  
※お問合せ：産学連携展開部 産学連携支援担当  
Tel: 0120-679-005, Fax: 03-5214-8399, Mail: scettjst.go.jp  
(独立行政法人科学技術振興機構・理事 小原満穂)

◇プログラム

- (1) ヒューマンモデリング技術に基づく使いやすさの定量化
- (2) 知的動き情報分析に基づいたテレビ映像酔い防止システムに関する研究
- (3) 津波で流されない橋梁

e t c.

※詳しいプログラムについては：  
<http://jstshingi.jp/hiroshima/2013/program.html>  
※申込み等については：  
<http://www.jstshingi.jp/hiroshima/2013/>

☆☆.....☆☆

【科学技術振興機構 JST】

◆新技術説明会 電気通信大学

- ◇日時： 2013 年 05 月 14 日（火）  
◇会場： 東京都千代田区 / JST 東京別館ホール  
※お問合せ：産学連携展開部 産学連携支援担当  
Tel: 0120-679-005, Fax: 03-5214-8399, Mail: scettjst.go.jp

◇プログラム

- ・電気通信大学の産学官連携活動の紹介
- ・(株)キャンパスクリエイトの活動紹介
- (1) 伝播波長選択性及び発光集光性を有するサブミクロン直径のテーパ光ファイバ
- (2) 高精度位相イメージングと細胞検査への応用
- (3) スマートフォンのための触覚提示

※詳しいプログラムは：  
<http://www.jstshingi.jp/uec/2013/program.html>  
※申込みなどについては：  
<http://www.jstshingi.jp/uec/2013/program.html>

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

編集後記

このところの気候の変化は本当に激しくて、半袖で過ごせる暖かい日があったかと思うと、先週末は東北地方や北海道では雪が積ったとのこと。新学期が始まり何かと忙しい4月ですが、しっかりと体調管理したいものです。年に一度の大会は、あと1ヶ月で開かれます。会場に多くの方にお集まりいただき、お目にかかれると嬉しいです。

ご意見、ご感想の宛先： [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

(メールマガジン 4月号 担当: 孫 媛)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*  
★ ☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆ ★ ☆ 2013.5.21 ☆ ★ No.68

=====

5月号 CONTENTS (目次)

=====

- ◇◆平成25年度第1回理事会・議事要旨◆◇
- ◇◆第21回 年次大会開催のお知らせ (最終ご案内) ◆◇
- ◇◆第10回 情報知識学会論文賞・表彰式・記念講演のお知らせ◆◇
- ◇◆情報知識学会フォーラムのお知らせ◆◇
- ◇◆後援行事のご案内◆◇

【2013 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会・シンポジウム】

6 月 1 日(土)・6 月 2 日(日)

金沢 21 世紀美術館 B1F シアター21 / 金沢美術工芸大学

◆◆関連行事のご案内◆◆

【国立情報学研究所 オープンハウス 2013】

6 月 14 日(金)・15 日(土) 学術総合センター

【NHK アーカイブス学術利用「トライアル研究Ⅱ」「関西トライアルⅡ」】

第 3 期研究募集 (平成 25 年 7 月 9 日締切)

◆◆会員からの情報◆◆

【XML/JATS 入門セミナーのご案内】

6 月 13 日 (木)ベルサール九段 ROOM 3

\*\*\*\*\*

◆◆平成 25 年度第 1 回理事会・議事要旨◆◆

\*\*\*\*\*

◆◆理事会の開催報告◆◆

◆情報知識学会 平成 25 年度 第 1 回理事会議事要旨

◇日時：2013 年 5 月 7 日(火) 17:30-20:10

◇場所：凸版印刷(株)内

◇出席：石塚、原田、江草、岡本、小川、田良島、根岸、大槻、長田、  
孫、堀、村井、細野、山本(毅)

◇議事：

1. 平成 24 年度事業報告・決算報告

事務局から資料に基づいて報告があり、了承された。

2. 平成 25 年度事業計画・予算(案)

事務局から資料に基づいて説明があり、了承された。

3. 第 21 回(2013 年度)年次大会について

大槻実行委員長から資料に基づいて現状報告があり、了承された。

4. メールマガジン月別担当予定

メールマガジン編集長の岡本常務理事から資料に基づいて提案があり、  
基本的に了承された。岡本常務理事から各月の担当候補者に依頼がある。

5. 第 18 回情報知識学フォーラムについて

第 17 回のフォーラム実行委員長の梶川理事の推薦により、堀理事に  
実行委員長を依頼する提案があり、満場一致で承認された。

6. 平成 26・27 年度役員選挙管理委員会について

25 年度は役員選挙を行う年度であることから、まず選挙管理委員長の  
人選を行い、次いで委員長が委員の人選を行うこととした。規定により  
同委員長は役員以外の会員から選ぶ必要があるため、委員長候補者を  
会長が検討して、提案することとした。

7. 平成 25 年度総会

総会資料案が説明され、了承された。24 年度事業報告・決算報告は  
原田副会長が、24 年度監査結果報告は細野監事が報告することとした。

25 年度事業計画と予算案は長塚副会長が説明することとした。なお、  
永年会員表彰対象者のリストを総会資料に付けることとした。

8. 永年会員表彰式次第

5 月 26 日 13 時からの論文賞表彰式・記念講演の後に永年会員表彰式を  
行うこと、表彰者挨拶を行うこととした。

9. 論文賞について

論文賞推薦委員会委員長の長塚副会長から 5 月 10 日に委員会を開催して  
論文賞受賞者を決める旨の連絡があったことが紹介された。

10. 次回理事会

平成 25 年 5 月 25 日 12:30 から、お茶ノ水女子大学にて開催予定。

\*\*\*\*\*

◆◆第 21 回 年次大会開催のお知らせ (最終ご案内) ◆◆

\*\*\*\*\*

◇情報知識学会・第 21 回(2013 年度)年次大会(研究報告会&総会)が  
開催されます。皆様のご参加をお待ちしております。

◆日程：2013 年 5 月 25(土)・26(日)

◆会場：お茶の水女子大学

[http://www.ocha.ac.jp/access/campusmap\\_1.html#no2](http://www.ocha.ac.jp/access/campusmap_1.html#no2)

地図上の ⑥ 共通講義棟 2 号館 101、102、201

【重要】お茶大への入構には身分証明書が必要です、  
当日は必ずご持参くださるようお願いいたします。

- ◆参加費： 無料
- ◆資料代： 会員無料、一般非会員 3,000 円、学生非会員 1,000 円
- ◆情報交流会参加費（予定）： 2,000 円（学生無料）
- ◆プログラム： <http://www.jsik.jp/?2013program>  
今大会では、以下のとおり「地籍情報シンポ」や「学生セッション」も  
行われます。
- ◆シンポジウム「東北大震災と地籍情報」：

<http://www.jsik.jp/?plugin=attach&refer=kenkyu&openfile=JSIK21sympo.pdf>

- ◆学生セッション： 26 日午前に学生セッションを実施する予定です。  
またこのセッションにおいて「学生奨励賞」の授与を予定しております。  
※大会 URL: <http://www.jsik.jp/?kenkyu>  
※お問い合わせ先：  
\* 〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1  
\* 東京工業大学 大学情報活用センター内  
\* 第 21 回 (2013 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会  
\* E-Mail: [jsik2013@valdes.titech.ac.jp](mailto:jsik2013@valdes.titech.ac.jp)

\*\*\*\*\*

◇◆第 10 回情報知識学会論文賞・表彰式・記念講演のお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

【第 10 回 (2013) 情報知識学会論文賞】

◇論文賞会員投票への参加のお礼と表彰式・記念講演への参加のお願い◇

論文賞投票に多数の会員の方がご参加いただきありがとうございました。

- ◆5 月 10 日に論文賞推薦委員会(長塚、根岸、田良島、芦野)が開催され、  
会員の皆様からの投票の結果に基づき、論文賞の受賞者が決定致しました。
- ◆論文賞の受賞者の発表・表彰式・記念講演は、  
5 月 26 日 (日) 13:00 から  
年次大会と同じ会場で行いますので、ぜひ、ご参加ください。

(論文賞推薦委員会委員長 長塚 隆)

\*\*\*\*\*

◇◆情報知識学会フォーラムのお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇2013 年秋に開催予定の第 18 回情報知識学フォーラムについては、  
いまのところ関西地域での開催を予定しております。

- ◆今後、日時、会場、テーマ、講演者等が決まりましたら、Web や  
メールマガジンでご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

第 18 回情報知識学フォーラム 実行委員長：  
堀 幸雄 (香川大学総合情報センター)

\*\*\*\*\*

◇◆後援行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

【2013 年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会・シンポジウム】

◇「近現代日本工芸・デザイン史のドキュメンテーション」  
および研究発表会・総会のご案内 (情報知識学会・後援行事) ◇

- ◆主 催：アート・ドキュメンテーション学会 (JADS)
- ◆共 催：金沢美術工芸大学 / 金沢 21 世紀美術館
- ◆後 援：遍プロジェクト/ 意匠学会/記録管理学会/ 情報処理学会  
CH 研究会/情報知識学会/ 日本アーカイブズ学会/日本デザイン学会/  
日本ミュージアム・マネジメント学会
- ◆日 時：2013 年 6 月 1 日 (土) - 6 月 2 日 (日)
- ◆会 場：金沢 21 世紀美術館 B1F シアター-21 / 金沢美術工芸大学  
視聴覚教室 (本館棟 2 階)  
金沢工業大学扇が丘キャンパスアクセス：

[http://www.kanazawa-it.ac.jp/about\\_kit/ogigaoka.html](http://www.kanazawa-it.ac.jp/about_kit/ogigaoka.html)

※一般公開 参加費無料 (資料代: 会員 ¥1,000 / 非会員 ¥2,000)

◇趣 旨◇ 工芸・デザインをいかにドキュメンテーションするか  
～この課題に正面から向きあうことは、アート・ドキュメンテーション学会の20余年の歴史においても欠けていた作業でした。

一点もの、タブローを主軸に考えがちなアート・ドキュメンテーションから脱して、工芸・デザインのためのドキュメンテーションがあるならば、その際だった特性とは何か、をまず考え直したいと思います。

その特性とは、例えば、プロダクトの複数性であり、共同体的共作行為における作者の複数性があるでしょう。平行して存在するのが、作者の覆面性であり無名性と言っても良いかもしれません。タブローとデッサンとの二項対立をはるかに越える制作過程の重層性と、それに伴って多くの局面において生み出される予備的プロダクトの数々。そもそも何をもって作品とするかの問い、それ自体が大きな課題として存在しています。

今回、2010・2012年度の3年度におよんだ金沢美術工芸大学による科研「近代日本工芸・デザイン史基礎資料の総合的調査研究」の成果を踏まえ、地場産業としても工芸・デザインの盛んな金沢の地で、しかもグラフィック・デザイナーにしてジャンルを横断して活躍した栗津潔の一大コレクションを所蔵し、アート・ドキュメンテーションに積極的に取り組む金沢21世紀美術館において、「近現代日本工芸・デザイン史のドキュメンテーション」をテーマに、シンポジウムを開催することの意義は、大きく深いものでありましょう。

※プログラムの詳細は下記をご覧ください：

<http://www.jads.org/news/2013/20130601.html>

\*\*\*\*\*

◇◆関連行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

☆★.....☆☆

【国立情報学研究所 オープンハウス 2013】

◇「未来を紡ぐ情報学—新しい価値の創成へ」◇

◆日 程：2013年6月14日(金)・15日(土) 入場無料

◆会 場：学術総合センター (千代田区一ツ橋 2-1-2)

※詳細はこちら：<http://www.nii.ac.jp/openhouse/>

※申し込みフォーム：<https://ez-entry.jp/nii/entry/>

◆講演・ミニレクチャー・ワークショップ

< 6月14日(金) >

○基調講演

「フカシギの教え方」—組合せ爆発に立ち向かう最先端アルゴリズム技術

・湊 真一 (北海道大学教授・JSTERATO 湊離散構造処理系プロジェクト研究総括)

○基調講演

テレビを通して社会を見る

—大規模放送映像アーカイブの解析による社会分析の挑戦

・佐藤 真一 (NII 教授)

< 6月15日(土) >

○基調講演

Design Everything by Yourself ～創造力を引き出すインタラクティブ～

・五十嵐 健夫 (東京大学 教授)

○基調講演

ロボットは井戸端会議に入れるか

・坊農 真弓 (NII 助教)

○ミニレクチャー

「図書館は宝箱」「ウェブ検索のいま、これから」「正しく動くゲームの

作り方」「インターネットの仕組みと怖い話」「意外に身近なスーパーコ

ンピュータ」「セキュリティ講座：みんなのパスワードは本当に大丈夫？」

○ワークショップ

「個人情報を守る!プライバシーバイザー」

◆ポスター展示

オープンハウスでは、人工頭脳やロボット、学術情報の流通を支えるネットワーク、量子コンピュータなど幅広い分野にわたる最先端の「情報学」の研究成果や活動を広く公開します。展示会場では、約100のポスター展示

やデモ、プレゼンテーションを実施します。

- ☆☆.....☆☆
- 【NHKアーカイブス学術利用「トライアル研究Ⅱ」「関西トライアルⅡ」】
- ◇第3期研究募集（平成25年7月9日締切）◇
- ◆NHKでは、大学等の研究者にNHKアーカイブスの保存コンテンツの研究利用をしていただく試行運用への参加者を募集しています。公募に採択された方には「トライアル研究Ⅱ」はNHKアーカイブス(川口)で「関西トライアルⅡ」はNHK大阪放送局で、番組やニュースコンテンツを研究用に閲覧して頂きます。
- ・閲覧時期：平成25年10月～平成26年3月の間
  - ・公募対象者：大学または公的研究所に所属する教員・研究者、大学院生の方
  - ・募集期間：平成25年5月15日～平成25年7月9日
  - ・募集研究数：トライアル研究Ⅱ8件程度、関西トライアルⅡ4件程度
  - ・応募希望の方は、事前の「応募相談」に原則ご参加いただきます。  
※詳しくはNHKトライアル研究のHPをご覧ください：  
<http://www.nhk.or.jp/archives/academic/>

\*\*\*\*\*

◇◆会員からの情報◆◇

\*\*\*\*\*

- 【XML/JATS 入門セミナーのご案内】
- ◇学術情報 XML 推進協議会 JATS 分科会主催◇
- ◆電子ジャーナルや電子書籍などの学術出版において、欧米ではXMLによる編集・出版・流通が標準となっております。XMLでの電子ジャーナル作成・電子書籍作成を考えている出版者・学会・印刷会社の方々に、XMLの基礎と、学術出版のXML基準であるJATSの基礎を解説します。
- ◆日時：2013年6月13日(木) 15:00-17:00
- ◆場所：ベルサール九段 ROOM 3  
〒102-0073 東京都千代田区九段北1-8-10 住友不動産九段ビル 4F  
<http://www.tokyoipo.com/event/map/kudan2.html>
- ◆内容：XMLとJATSの基礎
- ◆講師：時実 象一(愛知大学文学部教授)
- ◆定員：30名
- ※参加費：  
学術情報 XML 推進協議会会員は無料、非会員は10,000円
- ※参加申込：<http://p.tl/U60v> からお願いいたします。
- ※受付メールが受講票となりますので、印刷してお持ちください。
- ※お問い合わせ先：  
学術情報 XML 推進協議会事務局 [office@xpa.jp](mailto:office@xpa.jp)

☆☆ 時実象一理事からの情報です☆☆

☆☆.....☆☆

編集後記

今週末は2013年度の年次大会です。今年は学生セッションという新しい企画が始まります。次代を担う若い力を応援し、これからの発展を多くの目で見守って行ければ、こんな嬉しいことはありません。  
沢山の会員の皆様のご参加とご協力を、どうかよろしくお願い致します。

ご意見ご連絡の宛先：[jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)  
メールマガジン編集長：岡本由起子

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013. 6.26 ☆☆ No.69

6月号 CONTENTS(目次)

- ◆◆情報知識学会第 21 回年次大会報告◆◆
- ◆◆第 10 回(2013)論文賞授賞式と受賞記念講演の報告◆◆
- ◆◆第 2 回永年会員表彰式の報告◆◆
- ◆◆第 18 回情報知識学フォーラムのお知らせ◆◆
- ◆◆学会誌編集委員会から◆◆
- ◆◆関連行事のご案内◆◆
  - ・講演会「PMC 登載と XML 作成」(仮題)のご案内
- ◆◆会員からの情報◆◆
  - ・SocInfo2013 の論文募集について

\*\*\*\*\*

---

◆◆情報知識学会第 21 回年次大会報告◆◆

---

\*\*\*\*\*

本年度の年次大会は 5 月 25 日(土)と 26 日(日)の 2 日間、お茶の水女子大学にて開催されました。教育支援システム、データベース、メディアなどを中心に、幅広い内容で計 29 件の発表があり、170 名を超える方に会場にお越しいただきました。件数の多さに加えて、9 件(30%以上)の発表者が女性だった点も、今回の大会の特色となっています。

発表は「一般セッション」と「学生セッション」に分かれて実施しました。学生セッションは初の試みで、学生の研究活動を奨励することを目的として開催しました。10 件の発表に対して厳正な審査を行い、堀智彰(筑波大)および遠藤淳一(和歌山大)の 2 氏を学生奨励賞に選出しました。また論文賞表彰式および受賞者の秋元良仁氏による記念講演と、会員期間 15 年以上の会員を対象に永年会員表彰式も行われました。

初日の午後にはシンポジウム「東北大震災と地籍情報」を開催しました。土地家屋調査士会の先生による基調講演 2 件、技術的アプローチに基づく招待講演 4 件のあと、パネルディスカッションを実施し、地籍情報の重要性を再認識するとともに、今後の可能性について討議しました。

来年度も活気のある大会にしたいと考えていますので、皆様、ぜひ奮ってご参加くださいますようお願いいたします。

○学生セッションの様子 <http://www.jsik.jp/?20130525#j1ffce18>

○シンポジウムの様子 <http://www.jsik.jp/?20130525#wff2cc9e>

○表彰式の様子 <http://www.jsik.jp/?20130525#sf1e3970>

第 21 回年次大会実行委員長 大槻 明(東京工業大学)

\*\*\*\*\*

---

◆◆第 10 回情報知識学会論文賞の発表と表彰式・記念講演◆◆

---

\*\*\*\*\*

5 月 25-26 日に開催された年次大会で、第 10 回(2013)情報知識学会論文賞の受賞者(秋元 良仁氏、亀山 渉氏)が発表され、表彰式および秋元 良仁氏による記念講演が行われました。

情報知識学会 第 10 回(2013)論文賞論文:

秋元 良仁, 亀山 渉: “分散的な異なるスキーマに対応した Museum メタデータ記述言語”, 情報知識学会誌, Vol. 22, No. 1, pp. 9-22, 2012.

(論文賞推薦委員会委員長 長塚 隆)

\*\*\*\*\*

---

◆◆第 2 回永年会員表彰式の報告◆◆

---

\*\*\*\*\*

◆◆永年会員表彰式◆◆

昨年に続いて、第 2 回の永年会員表彰式が年次大会の 2 日目、

5月26日(日)に予定どおり実施されました。

対象者は会員期間15年以上の会員50名で、その氏名は25日(土)の総会で発表されたとおります。

表彰式に出席されなかった方には後日、表彰状が郵送にて届けられました。永年会員の方々の本学会への長年のご支援に御礼申し上げますとともに、今後とも本学会をご支援くださいますようお願いいたします。

\*\*\*\*\*

◇◆第18回情報知識学フォーラムのお知らせ◆◇

\*\*\*\*\*

◇2013 年秋に開催予定の第18回情報知識学フォーラムについては、いまのところ関西地域での開催を予定しております。

◆今後、日時、会場、テーマ、講演者等が決まりましたら、Webやメールマガジンでご連絡いたしますのでよろしくお願いいたします。

第18回情報知識学フォーラム 実行委員長：  
堀 幸雄（香川大学総合情報センター）

\*\*\*\*\*

◇◆学会誌編集委員会から◆◇

\*\*\*\*\*

5月には第21回年次大会特集号として第23巻2号を発行いたしました。大会実行委員会のご尽力により、多数の発表が集まり、200ページを超える厚さとなりました。

現在、J-Stageでの公開に向けての作業を行っており、6月中には公開できる予定です。この後、第23巻3号は通常の論文誌として10月初めに発行予定です。査読を要しない、書評などの原稿はまだ間に合いますのでご寄稿をお願いいたします。

\*\*\*\*\*

◇◆関連行事のご案内◆◇

\*\*\*\*\*

☆★.....☆☆  
◆講演会「PMC 登載と XML 作成」(仮題)のご案内◆

学術雑誌をXMLで作成することにより、米国国立医学図書館が運営するPMC(旧 PubMed Central)への登載など、さまざまな可能性が広がります。今回はこのPMCへの登載を中心に、登載学会等の経験をお話いただきます。

- 日時 2013年7月30日(火)14:30-17:00
- 場所 科学技術振興機構(JST)四番町 B1 大会議室
- 主催 学術情報XML推進協議会(XSPA)
- 共催 独立行政法人 科学技術振興機構(JST)
- 協賛 日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)

■講演内容  
オープンアクセスジャーナルとしてのPMC  
XMLの応用例としてのPMC変換  
論文XML化およびPMCとの連携に向けて、J-STAGEの状況  
医学系学術誌PMC登載の経験  
PMC掲載雑誌XML編集の実例  
(講演タイトル等は変更することがあります)

- 申し込み先 <http://p.tl/U60v>
- お問い合わせ [office@xspa.jp](mailto:office@xspa.jp)
- 参加費 無料
- 詳細は <http://xspa.jp/events/20130730koenkai.html>

☆★.....☆☆

\*\*\*\*\*

◇◆会員からの情報◆◇

\*\*\*\*\*

☆★.....☆☆

Call for Papers:

The Fifth International Conference on Social Informatics  
(SocInfo2013) co-located with WebDB Forum 2013

25-27 November 2013, Kyoto University

<http://www.socinfo2013.org>

-----  
The Fifth International Conference on Social Informatics (SocInfo2013) is an interdisciplinary venue for researchers from informatics and the social & management sciences to come together to share ideas and opinions, and to present original research work. The goal is to create an opportunity for the dissemination of knowledge between the two communities, as well as to enable mutual critical discussion of current research.

The conference solicits original research and experience-based case study papers, as well as proposals for posters and demonstrations. It welcomes interdisciplinary papers on methods from the social sciences in the study of information systems, applying information technology in the study of social phenomena, or applying social concepts in the design of information systems.

Detailed research topics of interest for this conference include, but are not limited to:

- Computational models of social phenomena and social simulation
- Social networks and communities: discovery, evolution, analysis, and applications
- Mining social big data
- Social behavior modeling
- Social Influence and diffusion models of social influence
- Web mining and its social interpretations
- Security, privacy, trust, reputation, and incentive issues
- Credibility of online content
- Opinion mining and social media analytics
- Design and analysis of Web2.0 applications (social or collaborative Web applications)
- Algorithms and protocols inspired by human societies
- Mechanisms for providing fairness in information systems
- Social choice mechanisms in the e-society
- Recommendation systems
- Social applications of the semantic Web
- Social system design and architectures
- Virtual communities (e.g., open-source, multiplayer gaming, etc.)
- Impact of technology on socio-economic, security, defense aspects
- Visualization of dynamic social networks
- Social Interactions and Collaboration
- Socio-economic Systems and Applications
- Social Informatics Theory
- Intelligence and Social Cognition
- Temporal characteristics of social media and social interactions
- Real-time analysis and visualization of social phenomena

- Evaluating sociability of applications

Submissions should be original and should be submitted in English in pdf format via the submission system:

<https://www.easychair.org/conferences/?conf=socinfo2013>

The length of the research papers should not exceed 14 pages, while the demonstration submissions should be no longer than 6 pages (tentative). As in the previous years, the accepted papers (research and demonstration) will appear in Springer's Lecture Note Series in Computer Science. Some of the research paper submissions can be accepted as short papers based on the decision of the Program Committee. More details on the conference and submission guidelines can be found at the conference website.

#### Important dates:

-----

##### Research Papers:

- Research paper submission: July 25, 2013 (tentative)
- Notification of acceptance: August 25, 2013 (tentative)
- Submission of final version: September 25, 2013 (tentative)

##### Demonstration Papers:

- Demo submission: July 25, 2013 (tentative)
- Notification of acceptance: August 25, 2013 (tentative)
- Submission of final version: September 25, 2013 (tentative)

##### Tutorial/Workshops Proposals:

- Tutorial/workshop proposals due: July 1, 2013 (tentative)
- Tutorial/workshop notification: July 5, 2013 (tentative)

##### Conference:

November 25-27, 2013

##### Organizing Committee:

-----

##### General Co-Chairs:

- Katsumi Tanaka (Kyoto University, Japan)
- Andrew Flanagin (University of California, Santa Barbara, USA)

##### Program Co-Chairs:

- Ee Peng Lim (Singapore Management University, Singapore)
- Adam Jatowt (Kyoto University, Japan)
- Ying Ding (Indiana University, Bloomington, USA)
- Asako Miura (Kwansei Gakuin University, Japan)
- Keishi Tajima (Kyoto University, Japan)

##### Workshop/Tutorial Co-Chairs:

- Akiyo Nadamoto (Konan University, Japan)
- Jochen Leidner (Thomson Reuters, Switzerland)

##### Demo Co-Chairs:

- Taro Tezuka (Tsukuba University, Japan)
- Gael Dias (University of Low Normandy in Caen, France)

##### Publicity Co-Chairs:

- Yoshinori Hijikata (Osaka University, Japan)
- Antoine Doucet (University of Low Normandy in Caen, France)
- Ricardo Campos (Polytechnic Institute of Tomar, Portugal)

Treasurers:

- Chair: Kazutoshi Sumiya (Hyogo University, Japan)
- Hiroaki Ohshima (Kyoto University, Japan)
- Daisuke Kitayama (Kogakuin University, Japan)

Web Chair:

- Makoto P. Kato (Kyoto University, Japan)

Local Arrangement Co-Chairs:

- Takehiro Yamamoto (Kyoto University, Japan)
- Toshiyaki Shimizu (Kyoto University, Japan)

☆☆.....☆☆  
編集後記

お陰様で、第 21 回 年次大会 (5/25-26)は、170 名以上の方に  
ご参加いただき、盛会のうちに終了することが出来ました。  
実行委員会を代表して改めて御礼を申し上げます。  
近く、第 19 回情報知識学フォーラムが開催される予定ですので、  
皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

ご感想の宛先: jsik@nifty.com

(メールマガジン 6 月号 担当: 大槻 明)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*  
☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013. 7.30 ☆☆ No.70

7 月号 CONTENTS (目次)

- ◆◆常務理事会からのお知らせ◆◆  
【役員選挙管理委員会について】
- ◆◆第 18 回 情報知識学会フォーラムのお知らせ◆◆
- ◆◆関西西部会研究会案内◆◆  
【2013 年度第 1 回 (通算 18 回) 情報知識学会関西西部会研究会案内】
- ◆◆シニア部会卓話会のお知らせ◆◆  
【2013 年度第 1 回 (通算 第 7 回) シニア情報知識学研究部会卓話会  
のお知らせ】
- ◆◆関連行事のご案内◆◆  
【(国立情報学研究所 NII) 第 2 回 SPARC Japan セミナー2013  
「人社系オープンアクセスの現在」】

\*\*\*\*\*

◆◆常務理事会からのお知らせ◆◆

\*\*\*\*\*

◆役員選挙管理委員会について◆

平成 26-27 年度役員選挙が従来同様、26 年の 1 月公示・投票、2 月開票で  
行われる予定です。選挙は役員選出規定に基づいて実施され、役員選挙管理  
委員会 (委員長と 4 名の委員で構成) によって管理されます。なお、公正性  
を担保するため同規定により「選挙管理委員長と委員は役員を兼ねることが  
できない」と定められています。

このたび、メールによる常務理事会審議により、八重樫純樹静岡大学名誉  
教授に選挙管理委員長をお願いすることが決定し、ご本人の内諾も得ました。  
八重樫先生は元理事で、情報知識学フォーラム実行委員長を 2 回務められる  
など活躍され、永年会員でもあり、学会のことをよくご存知です。

4 名の選挙管理委員は委員長に推薦していただき、常務理事会による承認  
を経て決定します。そして選挙管理委員会が設置されます。

それ以降は役員選挙管理委員会からのお知らせをご覧ください。選挙管理  
委員会の実働開始は前回では 10 月初めで、同じ月に選挙管理委員長名で

「役員候補者の推薦について（公告）」が、翌年1月に「役員選挙公示」が出されています。  
以上、現状報告と今後の概略紹介まで。

情報知識学会会長・常務理事会議長： 石塚英弘

\*\*\*\*\*

◆◆ 第18回 情報知識学会フォーラムのお知らせ ◆◆

\*\*\*\*\*

◆2013 年開催予定の第 18 回情報知識学フォーラムは：

- ◇12 月 7 日（土曜日）
- ◇同志社大学にて
- ◇「ビッグデータと新たな知識発見」
- をテーマに大学、企業での研究事例をご紹介することを企画しております。
- 今後詳細が決まりましたら、Web やメールマガジンでアナウンス致します
- のでよろしくお願いいたします。

第 18 回 情報知識学フォーラム 実行委員長：  
堀 幸雄（香川大学総合情報センター）

\*\*\*\*\*

◆◆ 関西部会研究会案内 ◆◆

\*\*\*\*\*

【2013 年度第 1 回（通算 18 回）情報知識学会関西部会研究会案内】

- ◆下記の要領で研究会を開催いたします。今回は、いま注目を集めているオープン・リンクド・データに関するものなので、奮ってご参加ください。
- ◇日 時：2013 年 9 月 21 日（土）14：30～17：00
- ◇会 場：キャンパスポート大阪（大学コンソーシアム大阪）ルーム D  
大阪駅前第 2 ビル 4 階（大阪市北区梅田 1-2-2-400）  
TEL06-6344-9560  
JR 大阪、JR 北新地、阪急梅田、阪神梅田、地下鉄梅田・西梅田・東梅田から各 5～10 分程度
- ◇発表者：嘉村哲郎氏（東京藝術大学芸術情報センター/総合芸術アーカイブセンター）
- ◇テーマ：Linked Open Data の基礎とこれからの情報活用
- ◇概 要：近年、欧米を中心に公共情報や芸術・文化情報をデータとして自由に利用するための活動「オープン・データ」の取り組みが活発化している。これらの活動に合わせ、Web の世界では、公開された情報を活用(再利用)するために、標準化されたデータ構造およびデータ抽出の仕組みを利用した Linked Open Data(LOD)が広まりつつある。
- 本発表では、オープン・データ、ならびにリンクド・オープン・データの基礎技術と仕組みについて解説し、これからの情報流通について国内外の事例を参考に考察していく。
- ◇共 催：日本図書館研究会情報組織化研究グループ 書誌コントロール研究会（科学研究費基盤研究 (C) 課題番号 25330391 研究代表者：和中幹雄）

※事前申込みは不要です。当日、お気軽にご参加下さい。  
なお、資料代と飲み物代として、300 円を頂戴いたします。また、研究会終了後は懇親会を予定しております。

\*\*\*\*\*

◆◆ シニア部会卓話会のお知らせ ◆◆

\*\*\*\*\*

【2013 年度第 1 回(通算第 7 回)シニア情報知識学研究部会卓話会のお知らせ】

◆シニア部会主催の卓話会は、温故知新を趣旨として、情報知識学各分野における先駆者から当初の状況を解説して頂く「事始めシリーズ」に加えて、

現下急速に進展しつつある「高齢情報化社会」の動向も討論のテーマとして、2010 年末から既に 6 回開催しております。(http://www.jsik.jp/?senior)

2013 年度も同様の枠組みにて 3 回開催する計画です。その企画のための部会世話人会において、近頃、クラウド、スマホ、SNS、ライン、ビッグデータ、ステマ、プリズム、イノベーション、情報共有等々、耳触りのよい、あるいは耳障りなはやり言葉が巷にあふれているが、それらには羊頭狗肉、古い酒を新しき革袋に盛った怪しげなものや剣呑なものが多いのではないかとといった疑念が出されました。そこで一夕、それらのおさらい会を催し、参加者各位の自由討論により知見、経験を披瀝して、情報共有?を図り、その解釈と鑑賞を試みるのが有意義であろうとの結論になりました。

このような趣旨で本年度第 1 回卓話会を下記の要領で開催しますので、老壮各層会員とも積極的にご参加賜ようお願い致します。

- ◇日 時：2013 年 9 月 27 日（金）18：00－19：30
- ◇会 場：鶴見大学（京浜東北線鶴見駅、京急鶴見駅）（詳細は後刻 HP 等にて告知）
- ◇テーマ：近頃の情報知識環境 — 解釈と鑑賞
- ◇話題提供：根岸正光（部会世話人、国立情報学研究所名誉教授）  
※参加申込：事前申込は不要ですが、参加予定の会員は、根岸（negishi\_at\_nii.ac.jp）および学会事務局（jsik\_at\_nifty.com）宛、連絡頂ければ幸いです（\_at\_は@と読み替えてください）。

（シニア部会代表世話人：松村多美子、世話人：根岸正光）

\*\*\*\*\*

◆◆ 関連行事のご案内 ◆◆

\*\*\*\*\*

【国立情報学研究所 NII】

◆第 2 回 SPARC Japan セミナー2013「人社系オープンアクセスの現在」◆

- ◇日 時：8 月 23 日（金）13:00～17:00
- ◇会 場：国立情報学研究所 12 階 1208,1210 会議室
- ◇参加対象：研究者、図書館員、学術出版職にある方々  
※参加申込み：平成 25 年 8 月 20 日（火）締切
- ※宛先：  
国立情報学研究所 学術基盤推進部学術コンテンツ課図書館連携  
チーム SPARC 担当  
E-mail co\_sparc\_all@nii.ac.jp FAX 03-4212-2375  
※詳細は：http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2013/20130823.html

\*\*\*\*\*

☆★.....☆★  
編集後記

短い梅雨が終わり、いきなり猛暑日から始まった今夏ですが、皆様には、いかがお過ごしでしょうか。9 月に開催のシニア卓話会や、関西部会の研究会など、早くも情報知識学会は秋に向けて始動しています。12 月のフォーラムの準備も始まり、もう今年の後半が視野に入ってきました。とはいえ、まだまだ蟬の声が聞こえ始めたばかり。この大変な季節もまた良き休養と準備の時となりますようにと願うこの頃です。

ご意見、ご感想の宛先：jsik@nifty.com  
（メールマガジン 7 月号 担当：岡本由起子）

☆★.....☆★

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013. 8.30 ☆☆ No.71

=====

8 月号 CONTENTS (目次)

=====

- ◇◆編集委員会から◆◇
- ◇◆2013 年カレンダー 集会・研究会・サロン他◆◇

9月21日 関西西部会研究会、三田図書館・情報学会月例会  
9月26日 デジタル図書館ワークショップ  
9月27日 卓話会  
10月10日～11日 INFOPRO2013  
12月7日 情報知識学会フォーラム  
12月9日～14日 じんもんこん 2013

【お知らせ】

- ◆◆情報知識学会◆◆  
【第18回情報知識学会フォーラム(2013.12.7)のお知らせ】
- ◆◆関西西部会◆◆  
【2013年度第1回(通算18回)情報知識学会関西西部会研究会(2013.9.21)案内】
- ◆◆卓話会◆◆  
【シニア情報知識学研究部会2013年度第1回卓話会(2013.9.27)のお知らせ】
- ◆◆CODATA 部会の活動報告◆◆
- ◆◆関連行事◆◆  
【三田図書館・情報学会月例会(第156回)(2013.9.21)】  
【第45回デジタル図書館ワークショップ(2013.9.26)】  
【INFOPRO 2013 第10回情報プロフェッショナルシンポジウム(2013.10.10-11)】  
【人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2013」(2013.12.9-14)】

---

◆◆編集委員会からのお知らせ◆◆

---

第23巻第2号、第21回年次大会およびシンポジウム「東北大地震と地籍情報」の予稿集をJ-Stageにて公開いたしました。次の第3号、論文誌は10月上旬の刊行予定です。書評・研究会報告など査読を必要としない原稿はまだ間に合いますので、9月末までにお送りください。

また、現在編集委員会にて投稿規定の改定を進めております。本メールマガジンの配信される8月末には学会Webページにて改訂版の公開を予定しておりますので投稿にあたってはご確認をお願いします。

編集委員長 芦野俊宏

---

◆◆第18回 情報知識学会フォーラム◆◆

---

◆2013年開催予定の第18回情報知識学フォーラムは、12月7日(土曜日)、同志社大学にて「ビッグデータと新たな知識発見」をテーマに大学、企業での研究事例をご紹介することを企画しております。

今後詳細が決まりましたら、Web やメールマガジンでアナウンス致しますのでよろしくお願いいたします。

第18回情報知識学フォーラム 実行委員長：  
堀 幸雄(香川大学総合情報センター)

---

◆◆関西西部会研究会◆◆

---

【2013年度第1回(通算18回)情報知識学会関西西部会研究会案内】

◆下記の要領で研究会を開催いたします。今回は、いま注目を集めているオープン・リンクド・データに関するものなので、奮ってご参加ください。

◇日時：2013年9月21日(土) 14:30-17:00

◇会場：キャンパスポート大阪(大学コンソーシアム大阪) ルームD  
大阪駅前第2ビル4階(大阪市北区梅田1-2-2-400)  
TEL06-6344-9560

JR 大阪、JR 北新地、阪急梅田、阪神梅田、地下鉄梅田・西梅田・東梅田から各5?10分程度

◇発表者：嘉村哲郎氏

(東京藝術大学芸術情報センター/総合芸術アーカイブセンター)

◇テーマ：Linked Open Data の基礎とこれからの情報活用

◇概要：近年、欧米を中心に公共情報や芸術・文化情報をデータとして自由に利用するための活動「オープン・データ」の取り組みが活発化している。これらの活動に合わせ、Web の世界では、公開された情報を活用(再利用)するために、標準化されたデータ構造およびデータ抽出の仕組みを利用した Linked Open Data(LOD)が広まりつつある。本発表では、オープン・データ、ならびにリンクト・オープン・データの基礎技術と仕組みについて解説し、これからの情報流通について国内外の事例を参考に考察していく。

◇共催：日本図書館研究会情報組織化研究グループ 書誌コントロール研究会(科学研究費基盤研究(C)課題番号 25330391 研究代表者：和中幹雄)

※事前申込みは不要です。当日、お気軽にご参加下さい。

なお、資料代と飲み物代として、300 円を頂戴いたします。また、研究会終了後は懇親会を予定しております。

---

◆◆ シニア卓話会 ◆◆

---

シニア情報知識学研究部会 2013 年度第 1 回(通算第 7 回)卓話会のお知らせ  
(会場詳細決定)

シニア部会主催の卓話会は、温故知新を趣旨として、情報知識学各分野における先駆者から当初の状況を解説して頂く「事始めシリーズ」に加えて、現下急速に進展しつつある「高齢情報化社会」の動向も討論のテーマとして、2010 年末から既に 6 回開催しております。(http://www.jsik.jp/?senior)

2013 年度も同様の枠組みにて 3 回開催する計画です。その企画のための部会世話人会において、近頃、クラウド、スマホ、SNS、ライン、ビッグデータ、ステマ、プリズム、イノベーション、情報共有等々、耳触りのよい、あるいは耳障りなはやり言葉が巷にあふれているが、それらには羊頭狗肉、古い酒を新しき革袋に盛った怪しげなものや剣呑なものが多いのではないかといった疑念が出されました。そこで一夕、それらのおさらい会を催し、参加者各位の自由討論により知見、経験を披瀝して、情報共有?を図り、その解釈と鑑賞を試みるのが有意義であろうとの結論になりました。

このような趣旨で本年度第 1 回卓話会を下記の要領で開催しますので、老壮青各層会員とも積極的にご参加賜ようお願い致します。

◇ 日時：2013 年 9 月 27 日(金) 18:00?19:30

◇ テーマ：近頃の情報知識環境 ? 解釈と鑑賞

◇ 話題提供：根岸正光(部会世話人、国立情報学研究所名誉教授)

◇ 会場：鶴見大学 1 号館 2F セミナー室 2

(〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3)

会場案内：JR 京浜東北線鶴見駅西口下車徒歩 5 分、京急鶴見駅下車徒歩 7 分。

JR 鶴見駅西口から線路沿いに南方横浜方面にまっすぐお進みください。総持寺の参道入口が見えてきます。参道を 30m ほど進んだところの左側が鶴見大学文学部の建物です。参道左側の階段を上ると、セブンイレブンが見えますので、そこが 1 号館です。入るとエレベーター・ホールがありますので 2 階へ。

http://www.tsurumi-u.ac.jp/about/accessmap/

参加申込：事前申込は不要ですが、参加予定の会員は、

根岸(negishi\_at\_nii.ac.jp)および学会事務局(jsik\_at\_nifty.com)宛、連絡頂ければ幸いです(at\_は@と読み替えてください)。

(シニア部会代表世話人：松村多美子、世話人：根岸正光)

---

◆◆ CODATA 部会活動報告 ◆◆

---

【平成 25 年度第 1 回科学技術データベース懇談会開催報告】

平成 25 年 8 月 29 日に東洋大学白山キャンパスにて、平成 25 年度第 1 回(通算 8 回目)の科学技術データベース懇談会を開催した。参加者は総勢 13 名であり、材料、熱物性、地質、化学物質スペクトル、エコマテリアルなどのデータベースを運営している懇談会メンバに加えて、話題提供講師 1 名、オブザーバー 2 名という構成であった。今回は「オープンデータ」を開催テーマに据え、関連話題 3 件と、公共データ開放への対応に関するディスカッションで構成された。話題提供では、Linked Open Data の普及と発展、地質分野における情報発信体制の変化、計量標準分野のデータベース整備への対応といった、オープンデータを提供する立場、利活用を促進する立場からそれぞれ話題を頂いた。ディスカッションや話題提供後の意見交換を経て、お互いの相互理解を深化させることに成功し、発言の絶えない盛況な会となった。

平成 25 年度第 2 回科学技術データベース懇談会は、秋の学会ラッシュでの情報収集が落ち着いた後の、年明け頃の開催を予定している。

(CODATA 部会科学技術データベース懇談会幹事：山下雄一郎)

---

◆◆ 関連行事 ◆◆

---

【三田図書館・情報学会月例会(第 156 回)】

テーマ：RDA と書誌コントロールの将来

発表者：バーバラ・ティレット(Barbara Tillet)氏(RDA 開発合同運営委員会議長・前米国議会図書館)

日時：2013 年 9 月 21 日(土) 14:00-16:00

場所：慶應義塾大学(三田)南校舎 455 教室

概要：RDA の基本的考え方とこれまでの展開の経緯、実際の採用例と今後の可能性などを、これまで RDA に深く関与してきた立場から論じる。また、

並行して進行している RDA 関連のいくつかのプロジェクト、VIAF、RDA エlement等のメタデータレジストリへの登録、米国議会図書館による「書誌フレームワーク・イニシアティブ (BFI)」などについて、書誌コントロールの将来を見据えつつ解説する。

※発表は英語ですが、日本語の通訳があります

参加費：三田図書館・情報学会会員は無料／非会員は 200 円

※事前の参加申込みは不要です。

<http://www.mslis.jp/monthly.html>

問い合わせ先

三田図書館・情報学会事務局

〒108-8345 東京都港区三田 2-15-45

慶應義塾大学文学部 図書館・情報学専攻内

【第 45 回デジタル図書館ワークショップ】[参加募集]

情報処理学会第 112 回情報基礎とアクセス技術研究会合同研究会

日 程：平成 25 年 9 月 26 日(木) 12:30-16:50

会 場：筑波大学東京キャンパス文京校舎 116 講義室

(東京都文京区大塚 3-29-1)

[http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo\\_access.html](http://www.tsukuba.ac.jp/access/bunkyo_access.html)

参加費無料 (事前申し込み不要)

テーマ：「社会基盤のためのデータ処理技術および一般」

プログラム

(1) 12:30 - 14:00

◆ Twitter からの列車遅延情報収集手法の検討[IFAT]

○新井誠也, 平川豊, 大関和夫 (芝浦工大)

◆ 特徴語と RDF を用いた情報推薦手法の提案[IFAT]

○藤原哲, 大場みち子, 山口琢 (公立はこだて未来大学)

◆ 大学図書館の Twitter 利用[IFAT]

○栗山和子 (東洋大)

休憩 14:00 - 14:10

(2) 14:10 - 15:40

◆ 日本の Open Data 活用を目的としたデータセットのスキーマ分析とリンク関係の調査[IFAT]

○西出頼継, 本間維, 永森光晴, 杉本重雄 (筑波大学)

◆ 貴重書書誌の注記から抽出したメタデータによるオントロジー構築および書誌・美術関連 Linked Data と連携した検索システム構築[DLW]

○吉賀夏子 (佐賀大学), 渡辺健次 (広島大学), 只木進一 (佐賀大学)

◆ 21 世紀図書館情報専門職養成研究基盤アーカイブ構築に向けた情報アーキテクチャに関する一考察[DLW]

○宇陀則彦, 松村敦, 阪口哲男, 三森弘, 水嶋英治, 逸村裕 (筑波大学)

休憩 15:40 - 15:50

(3) 15:50 - 16:50 特別セッション

◆ 「Crowd4U/L-Crowd: アカデミアによる高度クラウドソーシングプラットフォームと図書館情報分野への応用」講演：森嶋厚行 (筑波大学図書館情報メディア系/知的コミュニティ基盤研究センター)

概要：

本講演では、大学が協力して開発を進めているクラウドソーシングプラットフォーム Crowd4U と、Crowd4U を利用した図書館×クラウドソーシングプロジェクト L-Crowd について紹介する。Crowd4U は、非営利・公益・学術のためのクラウドソーシングプラットフォームであり、それを用いて様々な研究が行われている。L-Crowd は、日本初の図書館情報分野におけるクラウドソーシングプロジェクトであり、単に一図書館によるプロジェクトではなく、複数の大学と国立国会図書館が協力して推進している世界的に見ても大きなスケールのプロジェクトである。本講演では、Crowd4U の概要とその上で行われている各種基礎研究・応用研究の紹介、および L-Crowd プロジェクトの挑戦について説明する。

以上

なお、最新のワークショップ情報は

<http://www.dl.slis.tsukuba.ac.jp/DLworkshop/>

を御覧下さい。

【INFOPRO 2013 第 10 回情報プロフェッショナルシンポジウム】

開催案内予告

参加申込みは、2013 年 9 月 2 日(月)よりオンラインで受付を開始します。

独立行政法人 科学技術振興機構(JST)と一般社団法人情報科学技術協会(INFOSTA)の共催による「第 10 回情報プロフェッショナルシンポジウム」(略称 INFOPRO2013)を下記により開催いたします。情報の総合的なシンポジウムに多くの皆様のご参加をお待ちしております。

◆ 会期 2013 年 10 月 10 日(木) 午後～11 日(金)

◆ 会場 日本科学未来館 (東京都江東区青海 2-3-6)

- 一般発表 (10 日午後、11 日午後)  
◆ 特別講演 (10 日 15:30~17:00)  
「iPS 細胞技術の普及における知的財産権の役割と挑戦」  
高尾 幸成 氏 (京都大学 iPS 細胞研究所 知財管理室室長)  
トーク&トーク (11 日 10:00~12:30)  
INFOPRO10 周年、インフォプロの再認識と再定義 (仮題)  
プロダクトレビュー、展示コーナー  
◆ 情報交流会 (10 日 17:30~19:30)  
10 日の特別講演終了後、一般発表の発表者・座長ならびに出展者の皆さん  
とともに、楽しい情報交換の場として多くのご参加をお待ちしています。  
情報交流会のみのご参加もできます。なお、詳細なプログラム等は、10 月  
にお知らせします。  
会誌「情報の科学と技術」10 月号にも掲載します。  
参加費 (予稿集代) 一般: 6,300 円 学生: 2,100 円 情報交流会: 4,200 円  
(いずれも消費税込み)  
申込み 9 月 2 日(月)よりオンラインで受付を開始します。  
問合せ INFOPRO 受付担当 Tel:03-3813-3791

- 【人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2013」】  
◆ テーマ: 人文科学とコンピュータの新たなパラダイム  
New Paradigms on Humanities Computing  
- Linking Knowledge of Human Activities -  
◆ 主 催: 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH)  
The Pacific Neighborhood Consortium (PNC)  
The Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI)  
京都大学地域研究統合情報センター (CIAS)  
◆ 共 催: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 (NIHU)  
◆ 日 時: 2013 年 12 月 9 日 (月)・14 日 (土)  
◆ 会 場: 京都大学百周年時計台記念館  
◆ シンポジウムの趣旨  
資源の循環や人的交流のグローバル化、地球規模での環境変化や大規模  
災害など諸課題が多様化・複雑化している現代社会において、問題解決  
に対する「知」もまた、多様化・複雑化しています。こうした諸課題に  
対応し豊かな社会や環境、文化を育むためには、細分化された「知」は  
地域や人々の活動と結びつけた「知識」として、再構築される必要が  
あります。これに呼応し、情報学の分野においても、オントロジー、  
セマンティック Web、LOD (Linked Open Data) といった研究やデジタル  
化、データベース、時空間情報処理などの研究手法が活発に展開されて  
います。  
その成果は、人文科学領域にも大きな影響を与え、歴史情報学や地域情報  
学などの新しい研究の潮流を生み出しつつあります。  
本会議は人文学や情報学を中心としつつ、問題意識を共有するあらゆる  
分野の方々の学術研究や社会実践の発表と議論の場です。環境、健康、  
災害等の喫緊の社会的課題に対応するための知を、地域や地域の人々の  
活動と結びつけた「知」として再構築することを目指します。ふるって  
ご参加下さい。  
◆ その他の情報  
参加費: 情報知識学会会員は後援学会のため主催学会の会員と同額  
プログラム: 発表申込締切が 8 月 28 日のため現時点では未確定  
詳細は次行に示す「じんもんこん 2013」の Web ページをご覧ください。  
URL: <http://jinmoncom.jp/sympo2013/>

☆★.....☆☆  
編集後記  
最近、気候変動という“狼”の気配を感じています。トイレなきマンション  
は、石油文明ではないかと考えながら、そして「分け入っても分け入っても  
青い山」(山頭火)、「一片氷心在玉壺」(王昌齡)などとつぶやきながら  
(決して Twitter でも Line でもない!)、新たなデータの時代での跳躍のため  
フラストレーションを貯めています。  
ご意見、ご感想の宛先: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)  
(メールマガジン 8 月号 担当: 岩田 修一)  
☆☆.....☆☆

9 月号 CONTENTS(目次)

- 
- ◆◆常務理事会からのお知らせ◆◆
  - ◆◆役員選挙について◆◆
  - 【選挙管理委員会の設置について】
  - ◆◆学会誌編集委員会より◆◆
  - ◆◆2013 年カレンダー 集会・研究会・サロン他◆◆
    - 10 月 10 日～11 日 INFOPRO2013
    - 10 月 12 日～13 日 第 61 回日本図書館情報学会研究大会
    - 10 月 17 日 平成 25 年度第 5 回 NII 市民講座
    - 10 月 25 日 第 3 回 SPARC Japan セミナー2013
    - 10 月 27 日 アート・ドキュメンテーション学会 第 80 回研究会  
第 58 回見学会
    - 10 月 29 日～31 日 第 15 回図書館総合展・学術情報オープンサミット 2013
    - 11 月 8 日 情報活動研究会 (INFOMATES) 第 21 回研究会
    - 11 月 21 日～22 日 全国図書館大会
    - 11 月 29 日 情報と人をつなぐ、じょいんと懇話会
    - 11 月 30 日 第 19 回公開シンポジウム「人文科学とデータベース
    - 12 月 7 日 情報知識学会フォーラム
    - 12 月 9 日～14 日 じんもんこん 2013
  - 【お知らせ】
  - ◆◆情報知識学会◆◆
    - 【関西西部会後援行事 情報活動研究会(INFOMATES)第 21 回研究会 (2013.11.8)】
    - 【関西西部会後援行事 情報と人をつなぐ、じょいんと懇話会 (2013.11.29)】
    - 【第 3 回知識・芸術・文化情報学研究会 (2014.2.8)】(発表者募集)
  - ◆◆関連行事◆◆
    - 【INFOPRO 2013 第 10 回情報プロフェッショナルシンポジウム(2013.10.10-11)】
    - 【第 61 回日本図書館情報学会研究大会 (2013.10.12-13)】
    - 【平成 25 年度第 5 回 NII 市民講座「社会基盤としてのオープンデータ  
～ みんなで作ろう、使おう、オープンデータ ～」 (2013.10.17)】
    - 【第 3 回 SPARC Japan セミナー2013「オープンアクセス時代の研究成果のイン  
パクトを再定義する： 再利用と Altmetrics の現在」 (2013.10.25)】
    - 【アート・ドキュメンテーション学会 第 80 回研究会 第 58 回見学会  
(2013.10.27)】
    - 【第 15 回図書館総合展・学術情報オープンサミット 2013 (2013.10.29-31)】
    - 【全国図書館大会 (2013.11.21-22)】
    - 【第 19 回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」 (2013.11.30)】  
(論文募集)
    - 【人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん 2013」 (2013.12.9-14)】

---

◆◆ 常務理事会からのお知らせ ◆◆

---

- ◆役員選挙管理委員について◆
 

平成 26-27 年度役員選挙のための選挙管理委員会の八重樫委員長から推薦された 4 名の委員を異議無く承認し、選挙管理委員会の構成が確定しました。役員選挙に関する公告、お知らせは選挙管理委員長からありますのでご覧ください。
- ◆学会誌の論文の PDF ファイルの国立国会図書館への納品について◆
 

本学会誌論文のうち J-Stage, CiNii に未掲載の PDF ファイルの納入依頼が国立国会図書館関西館からありました。「この依頼に応じて納品する」との提案が芦野編集委員長からあり、常務理事会は異議無く承認しました。
- ◆「じんもんこん 2013」の後援◆
 

人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん) を本学会は毎年後援しています。今年も同シンポジウムの実行委員会から後援依頼があり、常務理事会は 8 月に異議無く後援を決定しました。「じんもんこん 2013」の紹介はメルマガ 8 月号をご覧ください。

情報知識学会会長・常務理事会議長：石塚弘弘

---

◆◆ 選挙管理委員会の設置について ◆◆

---

- ◆平成 26-27 年度役員選挙管理委員会が下記の 5 名の委員で設置され、10 月 10 日に第一回選挙管理委員会が開催される予定です。
- 来年 1 月の公示・投票に向けて活動を開始し、早速、公示に先立つ候補者の推薦受付が始まります。学会誌第 23 巻第 3 号および学会ホームページをご覧ください。なお詳しくは、学会の定款および役員選出規定にある選挙の手続き等をご覧ください。

記

- ◇委員長 八重樫 純樹 (静岡大学名誉教授)  
・委員 飯澤 篤志 ((株)リコー)  
・委員 木村 美実子 (科学技術振興機構 (JST))  
・委員 鈴木 卓治 (国立歴史民俗博物館)  
・委員 角田 裕之 (鶴見大学)

※参照 URL :

- ・定款 <http://www.jsik.jp/?teikan>  
・役員選出規定 <http://www.jsik.jp/?senshutsu>

---

◆◆ 学会誌編集委員会より ◆◆

---

次の学会誌第23巻3号は、10月の発行に向けて準備中です。また、国立国会図書館オンライン資料収集制度の開始に伴い、これまでに発行された情報知識学会誌のうちJ-Stage及びCiNiiに登録されていないものについて、PDF版の納品手続きを行いました。

---

◆◆ 関西部会後援行事 情報活動研究会 (INFOMATES) 第21回研究会 ◆◆

---

「使いこなそう！国立国会図書館のウェブコンテンツ」

NDLのサイトでは、NDL-OPAC、NDLサーチ、リサーチナビといった特徴あるデータベースをはじめ、さまざまなコンテンツが提供されています。大変多岐にわたるため、NDLのサイトをよく利用しているという方でも、もっと便利な使い方があるのでは？とお感じの方も多いのではないのでしょうか。今回の研究会では、NDLのサイトで提供されるコンテンツの全体像をご紹介いただいたあと、質問や参加者同士の意見交換を通じて、NDLのサイトから知りたい情報をうまく引き出すためのヒントを考えます。皆さまのご参加お待ちしております。

【日時】2013年11月8日(金) 18:30～20:00  
【講師】水野 翔彦氏 (国立国会図書館関西館 電子図書館課)  
【会場】田辺三菱製薬株式会社 平野町1号ビル 101会議室  
(大阪市中央区平野町2-6-6)

[http://www.mt-pharma.co.jp/shared/show.php?url=../company/map\\_osaka.html](http://www.mt-pharma.co.jp/shared/show.php?url=../company/map_osaka.html)

【定員】先着20名

【参加費】無料

【申込】<https://sites.google.com/site/infomatestop/>

- ・上記ページから、お申し込みください。
- ・アクセスできない方はメールタイトルを「参加希望」とし、今後の研究会連絡希望の有無とあわせ、[infomates.msg@gmail.com](mailto:infomates.msg@gmail.com)宛、ご一報ください。
- ・キャンセルの場合は、早めのご連絡をお願いいたします ([infomates.msg@gmail.com](mailto:infomates.msg@gmail.com)宛)。
- ・いただいた個人情報は当研究会の連絡と参加者分析にのみ使用させていただきます。

後援：一般社団法人情報科学技術協会、独立行政法人科学技術振興機構情報企画部  
協力：株式会社サンメディア  
なお、第21回研究会については、情報知識学会関西部会の後援をいただいています。

---

◆◆ 関西部会後援行事 情報と人をつなぐ、じょいんと懇話会 ◆◆

---

情報科学技術協会 (INFOSTA) 西日本委員会では、11月に情報関連分野の専門家  
の講演と参加者各位の人的ネットワークの構築を目的とする懇親会をセットにした  
「じょいんと懇話会」を企画しております。INFOSTAの会員、非会員を問いません  
ので、奮ってご参加ください。

<日時>2013年11月29日(金) 18:30～19:30 講演 19:30～21:00 懇親会  
(立食パーティ)  
<会場>大阪市中央公会堂 大会議室 (大阪市北区中之島1丁目1番27号)  
<テーマ>人はいかに情報を探索するか～使いやすいシステムを考える

<講師>松下光範氏（関西大学総合情報学部教授）

<定員>40名（先着順）

<参加費>3,500円（懇親会代込み）、参加費は、当日会場で頂戴いたします。

※但し、INFOSTA主催「サーチャー講座21」あるいは「基礎能力試験対策セミナー」の2013年度受講者は、2,000円

<申込方法>下記項目(1)から(5)を明記の上、申込先の電子メール宛に送信ください。

[申込先]INFOSTA 西日本委員会「じょいんと懇話会担当」

E-mail: jointkonwa2013@gmail.com

[項目]

(1)2013/11/29 じょいんと懇話会申込み（主題／Subjectにお書きください）

(2)氏名（当日配付の参加者名簿に記載されます）

(3)所属、職種、専門分野のいずれかを必ず記入

（当日配付の参加者名簿に記載されますので、差し支えないものを記入してください。）

(4)緊急連絡用電話番号（参加者名簿には記載しません）

(5)INFOSTA主催「サーチャー講座21」、「基礎能力試験対策セミナー」の2013年度受講の有無

<申込締切>2013年11月22日（金）

<企画・共催・後援>

INFOSTA 西日本委員会企画

共催：（社）情報科学技術協会（INFOSTA）、インフォ・スペシャリスト交流会

後援：情報知識学会関西西部会、記録管理学会、情報活動研究会（INFOMATES）

松下教授はシステムを利用するユーザの行為に着目し、その行為を円滑に行えるようなシステムを創出する方法論である「インタラクションデザイン」を専門とされています。講演では、人間の情報探索行動の分析を通じて使いやすい情報処理システムのデザインとは何かをお話いただきます。的確な情報検索支援や検索システムの改良を考える上で新たな視点が得られる機会となればと存じます。

---

#### ◆◆ 第18回 情報知識学会フォーラム ◆◆

---

◆2013年開催予定の第18回情報知識学フォーラムは、12月7日（土曜日）、同志社大学にて「ビッグデータと新たな知識発見」をテーマに大学、企業での研究事例をご紹介しますことを企画しております。

今後詳細が決まりましたら、Webやメールマガジンでアナウンス致しますのでよろしくお願いいたします。

第18回情報知識学フォーラム 実行委員長：

堀 幸雄（香川大学総合情報センター）

---

#### ◆◆ 第3回知識・芸術・文化情報学研究会（2014.2.8） ◆◆（発表者募集）

---

昨今のデジタル・情報環境の急速な進展とともに、学術分野にも「情報」や「デジタル」を意識した分野横断型の研究が多く見受けられるようになってきました。大学の教育・研究活動においても、この傾向は強まっており、これに関連する教育プログラムやコースの活動が充実しています。

時代に即した新しい研究テーマのもと、このような課程で学ぶ学部生・大学院生や若手研究者が学術的な交流をする機会へのニーズはますます大きくなっています。

そのため、芸術・文化、およびその他の関連する分野の情報・知識研究に興味のある大学院生および若手研究者を主に意識し、発表・交流のための場として「知識・芸術・文化情報学研究会」を2011年度に発足させ、2012年1月に第1回、2013年2月に第2回の研究集会を開催しました。

本会は、異分野の人的交流を通じて、参加者相互が新たな研究テーマや方法を発見できる場と位置づけており、学会発表とはひと味違う萌芽的・冒険的な発表も歓迎します。下記の通り第3回の研究集会を実施しますので、奮ってご応募ください。

知識・芸術・文化情報学研究会

世話役

赤間亮（立命館大学：代表）

田窪直規（近畿大学）

村川猛彦（和歌山大学）

矢野環（同志社大学）

日時：2014年2月8日（土） ※時間は発表者数により調整します。

場所：立命館大阪梅田キャンパス（大阪梅田駅前）

〒530-0018 大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5 階  
[http://www.ritsumeij.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumeij.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

研究分野：

1. 情報技術を使った芸術・文化分野やその他の分野の研究
2. 芸術・文化やその他の分野に応用できる情報技術の研究

研究発表の内容例：

1. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
2. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の表現、生産、組織化・DB構築、検索、提供
3. 電子出版、電子図書館、電子博物館・美術館
4. 芸術分野やその他の分野の用語、シソーラス
5. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の流通と知的所有権
6. インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
7. その他、広く文化を対象とした情報・知識に関連する諸研究・開発

応募方法：

- ・申込方法および締切：11月30日(土)までに、論題と研究要約(200字以内)を添えて、[kacimeeting+2014@gmail.com](mailto:kacimeeting+2014@gmail.com) に電子メールで申し込むこと。
- ・発表資料：発表資料は発表者が必要部数を準備する。
- ・発表時間：質疑込み 20分程度。ただし発表者数により調整する。(必要部数および発表時間は締め切り後、発表者に連絡します。)

参加費：500円

※なお、研究発表会後に懇親会を予定しています。

主催：知識・芸術・文化情報学研究会

共催：情報知識学会関西西部会、アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会

協力：立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

## ◆◆ 関連行事 ◆◆

### 【INFOPRO 2013 第10回情報プロフェッショナルシンポジウム】

開催案内予告

参加申込みは、2013年9月2日(月)よりオンラインで受付を開始します。

独立行政法人 科学技術振興機構(JST)と一般社団法人情報科学技術協会(INFOSTA)の共催による「第10回情報プロフェッショナルシンポジウム」(略称 INFOPRO2013)を下記により開催いたします。情報の総合的なシンポジウムに多くの皆様のご参加をお待ちしております。

- ◆ 会期 2013年10月10日(木) 午後～11日(金)
- ◆ 会場 日本科学未来館 (東京都江東区青海 2-3-6)
- ◆ 一般発表 (10日 午後、11日 午後)
- ◆ 特別講演 (10日 15:30～17:00)

「iPS細胞技術の普及における知的財産権の役割と挑戦」  
高尾 幸成 氏 (京都大学 iPS 細胞研究所 知財管理室室長)

トーク&トーク (11日 10:00～12:30)

INFOPRO10周年、インフォプロの再認識と再定義(仮題)

プロダクトレビュー、展示コーナー

- ◆ 情報交流会 (10日 17:30～19:30)

10日の特別講演終了後、一般発表の発表者・座長ならびに出展者の皆さんとともに、楽しい情報交換の場として多くのご参加をお待ちしています。情報交流会のみのご参加もできます。なお、詳細なプログラム等は、10月にお知らせします。

会誌「情報の科学と技術」10月号にも掲載します。

参加費 (予稿集代) 一般：6,300円 学生：2,100円 情報交流会：4,200円  
(いずれも消費税込み)

申込み 9月2日(月)よりオンラインで受付を開始します。

問合せ INFOPRO 受付担当 Tel:03-3813-3791

### 【第61回日本図書館情報学会研究大会 (2013.10.12-13)】

日時：2013年10月12日(土)、13日(日)

会場：東京大学 本郷キャンパス 赤門総合研究棟

(東京都文京区本郷 7-3-1, 交通アクセス, キャンパスマップ)

事務局：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東大教育学部図書館情報学研究室内第61回日本図書館情報学会研究大会事務局

(Tel: 03-5841-3976, E-mail: jslis2013 (at mark here) jslis.jp)  
<http://www.jslis.jp/conference/2013Autumn.html>

【平成 25 年度第 5 回 NII 市民講座「社会基盤としてのオープンデータ  
～ みんなで作ろう、使おう、オープンデータ ～」(2013.10.17)】

■講 師：武田 英明（国立情報学研究所教授）

■日 時：2013 年 10 月 17 日（木）18:30～19:45（講義・質疑応答）

■会 場：学術総合センター 2 階・中会議場

■詳 細：<http://www.nii.ac.jp/shimin/>

■概 要：

情報やデータを公開・共有する仕組みとして「オープンデータ」がいま注目されています。オープンデータはこれまでの情報公開とは違うのでしょうか。実際に公開されているオープンデータを紹介しつつ、オープンデータの考え方から作り方、使い方にまで広く説明します。また、より高度なオープンデータを実現する手段である Linked Data についても紹介します。

※参加費無料

※当日参加も可能ですが、事前にお申込み頂ければ幸いです。

【第 3 回 SPARC Japan セミナー2013「オープンアクセス時代の研究成果の  
インパクトを再定義する： 再利用と Altmetrics の現在」(2013.10.25)】

■日 時：平成 25 年 10 月 25 日（金曜日）10:00～17:00

■会 場：国立情報学研究所 12F 会議室 1208,1210 会議室

■セミナーサイト：

<http://www.nii.ac.jp/sparc/event/2013/20131025.html>

■概 要

昨今、"Open Access=Access+Reuse"の定義のもと、欧米では論文への障壁無きアクセスのみならず、論文データの再利用の議論が盛んになっています。また、論文だけでなく、研究データの OA 化を義務付ける動きが著しい状況です。一方、オープンになった論文、データに対し、ソーシャル上での反応など、論文の被引用数といった従来の評価指標とは異なる手法によってその影響度を測る"Altmetrics"も注目されています。そこで今回の SPARC Japan セミナーでは、今年の Open Access Week のテーマである"Redefining Impact"とも呼応しながら、研究成果のインパクトについて焦点を当て、今後の多様な学術情報流通の展望ならびに課題について議論してみたいと思います。

■講演（予定）

|             |                      |
|-------------|----------------------|
| 西 薗 由依      | 鹿児島大学附属図書館/DRF       |
| 池 内 有為      | 筑波大学大学院図書館情報メディア研究科  |
| Mark Hahnel | figshare             |
| Jason Priem | ImpactStory          |
| 坊 農 秀雅      | ライフサイエンス統合データベースセンター |
| 大 園 隼彦      | 岡山大学附属図書館/DRF        |
| 林 和弘        | 科学技術・学術政策研究所         |

■ビデオレター（予定）

|                |                      |
|----------------|----------------------|
| Heather Joseph | SPARC, North America |
| Mark Patterson | eLife                |
| Peter Binfield | PeerJ                |

【アート・ドキュメンテーション学会 第 80 回研究会 第 58 回見学会  
(2013.10.27)】

「文学のドキュメンテーションと文学館」

10 月 27 日(日)に東京千駄木にある森鷗外記念館において、文学研究におけるドキュメンテーションの役割や、それを支える文学館について考える研究会を開催いたします。また同時に、特別展「鷗外と画家 原田直次郎 ～文学と美術の交響～」の見学会も実施いたします。研究会の講演者には、「鷗外『椋鳥通信』全人名索引」を発表された弘前大学の山口徹氏と、文学館を研究テーマとしている皇學館大学の岡野裕行氏を迎えて文学、ドキュメンテーション、そして文学館に関する議論を深めます。また文学館のご担当の方より展示や文学館の取り組みに関するレクチャーもありますので、みなさま是非ご参加ください。

■ 概 要

日 時：10 月 27 日（日）13：00 ～（開場 12：30）  
場 所：文京区立森鷗外記念館 <http://moriogai-kinenkan.jp/>

■ プログラム

- (1) 山口徹氏（弘前大学）  
「鷗外の伝えたアート・シーン ドキュメンテーションとしての「椋島通信」及び全人名索引」
  - (2) 岡野裕行氏（皇學館大学）  
「文学館の成立過程と現在の状況」
  - (3) 進藤幸治氏（森鷗外記念館）  
「森鷗外記念館の概要とその取り組み」
  - (4) 見学会&休憩
- 特別展「鷗外と画家 原田直次郎 ～文学と美術の交響～」見学  
(5) ディスカッション「文学のドキュメンテーションと文学館」  
発表者＋司会：田良島哲氏（東京国立博物館）  
17：00 頃終了予定 その後懇親会（千駄木近辺）

■ 参加費(研究会＋見学会)

会 員：600 円  
非会員：800 円  
※いずれも懇親会費用は除きます。

■ 申し込み：先着 25 名まで

以下のフォームよりお申込みください。  
<http://j.mp/JADS20131027>  
最終案内は、学会ホームページ(<http://www.jads.org>)において広報いたします。

※予定は変更されることがありますので、ホームページで随時最新の情報をご確認ください。

【第 15 回図書館総合展・学術情報オープンサミット 2013 (2013.10.29-31)】

2013 年 10 月 29 日（火）～31 日（木）  
パシフィコ横浜 展示ホール／アネックスホール  
主催：図書館総合展運営委員会  
企画・運営：カルチャー・ジャパン（JCC）  
<http://2013.libraryfair.jp/>

第 15 回図書館総合展はプレフォーラムやアフターイベントを含めて、2013 年 10 月 28 日（月）から 2013 年 11 月 1 日（金）の 5 日間開催されます。  
パシフィコ横浜での開催は 10 月 29 日（火）からの 10 月 31 日（木）までの 3 日間となります。

図書館総合展とは、図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、“図書館の今後”について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていく場です。当日会場では、図書館にまつわる様々なフォーラムやプレゼンテーション、多様な団体によるポスターセッション、そして企業による最新の技術や動向が伺えるブース出展など、様々な企画が行われます。

図書館関係企業、図書館職員の皆様はもちろんのこと、学生や一般の方々のご参加を心よりお待ち申し上げております。

図書館総合展では、運営と一緒に図書館総合展を盛り上げてくださる方を運営協力委員として任命する制度をつくりました。  
くわしくは「図書館総合展運営協力委員制度について」をご覧ください。

なお、フォーラム、ブース等の出展申込を受け付けています。出展をご検討いただける企業・団体・個人の皆さま、ぜひ、資料をご確認ください。

【全国図書館大会 (2013.11.21-22)】

平成 25 年度（第 99 回）福岡大会  
開催期間 2013 年 11 月 21 日（木）～22 日（金）  
開催地 福岡県福岡市  
開催会場 アクロス福岡ほか  
大会テーマ あなたの未来をひらく図書館  
第 99 回全国図書館大会福岡大会ホームページ  
[http://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/library2013\\_web/index.html](http://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/library2013_web/index.html)

第 99 回全国図書館大会福岡大会 申込専用ホームページ

[https://amarys-jtb.jp/2013lib\\_fukuoka/](https://amarys-jtb.jp/2013lib_fukuoka/)

【第19回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」(2013.11.30)】  
(論文募集)

活用・継承する「データベース」と「データベース」による新知見

-----  
第19回を迎える今回のシンポジウムでは、データベース構築だけでなく、人文科学分野での活用や新知見の創出事例、あるいはデータベースの継承に注目した特集テーマを設け、また、広く下記の内容の論文を募集します。奮ってご応募ください。

開催日：2013年11月30日(土)

会場：立命館大学 衣笠キャンパス  
アート・リサーチセンター多目的ルーム  
(京都市北区等持院北町56-1)

[http://www.arc.ritsume.ac.jp/aboutus\\_access.html](http://www.arc.ritsume.ac.jp/aboutus_access.html)

【主催】第19回公開シンポジウム「人文科学とデータベース」実行委員会

【共催】立命館大学アート・リサーチセンター・立命館大学文学研究科

【後援】人文系データベース協議会

【募集論文テーマ】

人文科学とデータベースに関する以下のテーマを中心に募集致します。

- ・人文科学や芸術におけるデータベース構築の企画、事例、応用研究
- ・人文科学におけるデータベースの支援ツールや周辺技術に関する研究
- ・人文系における地理情報処理に関連する研究
- ・人文系における数理モデルに関する研究
- ・人文系データについての情報処理的研究

【応募期限】

★講演発表申込締切 2013年10月11日(金)

氏名・所属・論文タイトル・内容あらまし(200字程度)・住所・Emailアドレス  
を下記事務局 Email でお送りください。

Email: [db.humanities\(at\)gmail.com](mailto:db.humanities(at)gmail.com)

★論文原稿提出締切 2013年11月8日(金)

実行委員会所定の様式(発表申込者に送付)にしたがって執筆のうえ事務局に送付してください。図表込みで約8~10ページ程度です。

【事務局】

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1

立命館大学アート・リサーチセンター

赤間 亮(シンポジウム実行委員長)

Email: [db.humanities\(at\)gmail.com](mailto:db.humanities(at)gmail.com)

【実行委員会】

委員長 赤間 亮(立命館大学)

委員 河角龍典(立命館大学)

後藤真(花園大学)

高橋晴子(大阪樟蔭女子大学)

研谷紀夫(関西大学)

丸川雄三(国際日本文化研究センター)

【人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2013」】

◆ テーマ：人文科学とコンピュータの新たなパラダイム

New Paradigms on Humanities Computing

- Linking Knowledge of Human Activities -

◆ 主 催：情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会(SIG-CH)

The Pacific Neighborhood Consortium(PNC)

The Electronic Cultural Atlas Initiative(ECAI)

京都大学地域研究統合情報センター(CIAS)

◆ 共 催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構(NIHU)

◆ 日 時：2013年12月9日(月)・14日(土)

◆ 会 場：京都大学百周年時計台記念館

◆ シンポジウムの趣旨

資源の循環や人的交流のグローバル化、地球規模での環境変化や大規模災害など諸課題が多様化・複雑化している現代社会において、問題解決に対する「知」もまた、多様化・複雑化しています。こうした諸課題に対応し豊かな社会や環境、文化を育むためには、細分化された「知」は地域や人々の活動と結びついた「知識」として、再構築される必要があります。これに呼応し、情報学の分野においても、オントロジー、セマンティック Web、LOD

(Linked Open Data) といった研究やデジタル化、データベース、時空間情報処理などの研究手法が活発に展開されています。その成果は、人文科学領域にも大きな影響を与え、歴史情報学や地域情報学などの新しい研究の潮流を生み出しつつあります。本会議は人文学や情報学を中心としつつ、問題意識を共有するあらゆる分野の方々の学術研究や社会実践の発表と議論の場です。環境、健康、災害等の喫緊の社会的課題に対応するための知を、地域や地域の人々の活動と結びつけた「知」として再構築することを目指します。ふるってご参加下さい。

◆その他の情報

参加費：情報知識学会会員は後援学会のため主催学会の会員と同額  
プログラム：発表申込締切が 8 月 28 日のため現時点では未確定  
詳細は次行に示す「じんもんこん 2013」の Web ページをご覧ください。  
URL:<http://jinmoncom.jp/sympo2013/>

☆★.....☆☆  
編集後記

暑い夏もようやく終り、各種学会活動も本番を迎えたようです。  
今月のメールマガジンは行事満載です。皆さん奮ってご参加ください。

ご意見、ご感想の宛先： [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)  
(メールマガジン 9 月号 担当：時実 象一)

☆☆.....☆☆

\*\*\*\*\*  
☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013-10-25 ☆☆ No.73

=====

10 月号 CONTENTS(目次)

=====

(目次)

- ・第 18 回情報知識学フォーラムのお知らせ
- ・情報知識学会役員選挙 選挙管理委員会からのお知らせ
- ・学会誌編集委員会からのお知らせ
- ・シニア情報知識学研究部会より
  - 2013 年度第 2 回 (通算第 8 回) 卓話会のご案内
  - 2013 年度第 1 回 (通算第 7 回) 卓話会報告
- ・学会行事案内
  - 関西西部会後援 情報活動研究会(INFOMATES)第 21 回研究会(2013.11.8)
  - 関西西部会後援 情報と人をつなぐ、じょいんと懇話会(2013.11.29)
  - 人文科学とコンピュータ「じんもんこん 2013」(2013.12.9-14)
  - 第 3 回知識・芸術・文化情報学研究会 (2014.2.8)(発表者募集)
- ・関連団体行事
  - 図書館総合展・学術情報オープンサミット 2013 (2013.10.29-31)
  - アート・ドキュメンテーション学会秋季研究発表会(2013.11.17)
  - 第 99 回全国図書館大会 (2013.11.21-22)
- ・会員からの情報
  - 国際会議 CCSEA-2014, SEA-2014 論文募集 (2013.10.28 投稿締切)
  - 富田倫生さん追悼記念「青空文庫と図書館をつなぐ」(2013.11.3)
  - EnjuKaigi2013 開催 (2013.11.23)

◆◆ 第 18 回情報知識学フォーラムのお知らせ ◆◆

2013 年 12 月 7 日 (土) 13:00-18:00 同志社大学にて、今話題のビッグデータについて大学・企業で研究されている方から様々な対象に対する適用、利活用、知識発見の具体例をご紹介します。  
会員、非会員を問わず、多数の方のご参加をお待ちしております。  
当日のプログラムと講演タイトルが決まりましたので、下記ページにて

詳細をご確認ください。

- date: 2013/12/07 (Sat) 13:00 - 18:00
- place: 同志社大学新町キャンパス R205 教室  
京都府京都市上京区新町通今出川上ル
- URL: <http://www.jsik.jp/?forum2013>

---

◆◆ 情報知識学会役員選挙 選挙管理委員会からのお知らせ ◆◆

---

【平成 26・27 年度 情報知識学会役員選挙について】

◆10 月 10 日に第 1 回選挙管理委員会が開催され、下記の通り平成 26・27 年度情報知識学会役員選挙の日程が決まりましたので、お知らせ致します。  
なお、会員の皆様へ郵送する学会誌 23 巻 3 号に役員候補者の推薦方法が公告されますのでご参照ください。

1. 日程

- ★役員候補者推薦締切: 11 月 30 日 (学会誌 3 号の公告参照)
- ☆公示 : 1 月 15 日
- ☆投票用紙発送 : 1 月 15 日
- ★投票締切 : 2 月 7 日 (必着)
- ☆開票 : 2 月 12 日
- ☆常務理事会報告 : 2 月中
- ★総会承認 : 5 月 (予定)

※当選辞退者があれば理事会報告までに繰り上げ当選実施

2. 選出役員

- 会長 : 1 名
- 理事 : 20 名
- 監事 : 2 名

(選挙管理委員会)

委員長 八重樫 純樹

委員 飯沢 篤志、木村 美実子、鈴木 卓治、角田 裕之

※なお、選挙管理委員会の設置については、メールマガジン 9 月号で  
お知らせいたしました。以下もご参照下さい:

<http://www.jsik.jp/?mm20130926>

定款 <http://www.jsik.jp/?teikan>

役員選出規定 <http://www.jsik.jp/?senshutsu>

---

◆◆ 学会誌編集委員会からのお知らせ ◆◆

---

先号でご案内したとおり、投稿規定、投稿整理カードなどを改訂致しました。投稿の手続きも一部変更しておりますので、ご投稿頂く際はご一読下さい。皆様のご協力を頂いて第 23 巻第 3 号、論文誌をほぼ予定通り発行することができました。このメルマガが届く頃にはお手元に届いていると思います。11 月には J-Stage での公開予定です。

(編集委員長 芦野俊宏)

---

◆◆ シニア情報知識学研究部会より ◆◆

---

【2013 年度第 2 回 (通算第 8 回) 卓話会のご案内】

シニア部会では「事始めシリーズ」として、情報知識学の様々な分野の先達をお招きして、往時の研究活動について話を伺い現在の状況に関する理解を深めると共に、今後の展開について議論するための卓話会を開催しています。

今回は、もと丸善 MASIS センターで、1960 年代後半に欧米でサービスを開始した国際的大型データベース検索システム DIALOG の我が国への導入に活躍された高原良文氏をお願いして、データベース検索草創期の状況等についてお話いただき、現在の情報収集行動・技法等にいたる経緯の理解を深め、また今後の方向性などについて討議するため、下記の要領で本年第 2 回卓話会を開催します。

1960年～70年代は世界的な学術情報流通の転換期で、なかでもロッキード社の DIALOG に代表される国際的大型オンライン・データベース検索システムの普及は、当時の学術情報の提供・収集・利用に顕著な影響を与えました。DIALOG は 1966 年に米国 NASA/RECON の情報検索システムを母体に開発され、それまでは単独で情報提供を行っていた BIOSIS、CAsEarch、AGRICOLA、PROMT、INSPEC など理工学、生物、農学、教育など各種分野のデータベースを集めて検索システムを構築し、我が国に導入された。1977 年当時には 75 種のデータベースで構成され、当時の利用者、とりわけ研究者にとって情報収集の利便性から世界中に急速に普及する結果となりました。インターネットの利用が日常茶飯事になりグーグルの普及など革新的な変化が加速し多様化する現在ですが、我が国における情報検索草創期の状況について、先人のお話を通して改めて振り返ってみるのも意義があると思います。

若手、壮年、シニアの各層会員とも奮ってご参加をお待ちします。

- ・日時：2013 年 12 月 13 日（金）18:00-19:00（適宜延長）
- ・会場：学会事務局（秋葉原、凸版印刷内）<http://www.jsik.jp/?access>
- ・講師：高原良文氏（サンメディア経営顧問、もと丸善 MASIS センター）
- ・テーマ：「情報検索事始め—海外データベース・サービス導入の回想」  
※参加申込：事前申し込みは不要ですが参加予定の会員は、根岸世話人（negishi@nii.ac.jp）および学会事務局（jsik@nifty.com）宛に連絡いただければ幸いです。  
（シニア部会代表世話人：松村多美子、世話人：根岸正光）

#### 【2013 年度第 1 回（通算第 7 回）卓話会報告】

本年度第 1 回シニア部会卓話会は 9 月 27 日 18 時から『近頃の情報知識環境—解釈と鑑賞』をテーマとして鶴見大学で開催された。出席 11 名。今回は、卓話会というより、昨今の情報知識環境について意見交換する懇話会といった体裁とし、まず話題提供として根岸がメモに基づき、近頃の情勢について次のようにまとめた。

まず、テーマにある「解釈と鑑賞」は、惜しくも休刊となった「国文学 解釈と鑑賞」誌からの借用であるが、この際、その元来の意義を確認しようと試み、ある大学の機関リポジトリ掲載論文によって、それが昭和初年の「日本文芸学論争」に由来することが分かった。今や調べ物は随分と便利になったものだと、情報知識環境の進歩が実感されたところである。

この前口上の後、ガラスマ、SNS、LINE、ニコ生、ビッグデータ、ステマ、PRISM、イノベーション、情報共有等々、近時の多岐に亘るはやり言葉を材料として話を進めるため、それらを、(1)情報通信環境における、常時接続・高速化・無線化、(2)情報操作機器における、パソコンからスマホ、タブレット、ウェアラブルへ、(3)情報知識サービスにおけるパッケージからクラウドへ、といった流れで整理、紹介することを試みた。とくに、無料サービスとはいっても、何らかの方法で monetizing に結びつけなければならないという、その危うい性質；わが国における検索エンジン・シェアの Google 独占状況；personalization と称する「便利な」機能で、利用者は知らず知らず業者側の設定した filter bubble 内に拘禁されるおそれ；クラウド・サービスを default 設定のまま使って機密を大公開してしまう事故；また学術関係では、OA 誌の進展に伴って predatory publication business も発展していることなどを指摘した。

こうした状況に「解釈と鑑賞」を加えて総括すると、(1)昔からあるものを新しい言葉で言い換え新規性を装い、同じことを各社別々に怪しげなカタカナ命名して独自性をうたうので解釈と鑑賞が厄介。さらにこうした言い換え自体を、もっともらしく「再定義」と言い換えるのものはやっている、(2)常時接続でつながってない何とでもできないが、すると個人情報情報は筒抜けで、業者の設定した情報空間に封じ込められる、(3)只より高いものはないが、只でなくても危ない。知らせたいこと、知られたくないこと、知りたいことの間でのせめぎ合い、というあたりになるであろうか。

話題提供後の意見交換では、こうした情勢下で、果たして有効な図書館情報学や情報リテラシー教育は可能であるのか、情報知識関連の研究開発やビジネスは moving target を追い求めて水商売化してしまっている等々の議論で盛り上がり、20 時前に一旦散会、鶴見駅前の居酒屋に会場を移して延長戦に入った。

さてこの記事をもとめる中で、昭和初年のモボモガ風俗に触発されたという今和次郎の考現学にならって、今こそ、『情報知識考現学』なるものを提唱する必要があるのではないかという思いに至った次第である。  
（シニア部会世話人：根岸正光）

◆◆ 学会行事案内 ◆◆

-----☆☆

【関西西部会後援行事 情報活動研究会 (INFOMATES) 第 21 回研究会】  
「使いこなそう！国立国会図書館のウェブコンテンツ」

NDL のサイトでは、NDL-OPAC、NDL サーチ、リサーチナビといった特徴あるデータベースをはじめ、さまざまなコンテンツが提供されています。大変多岐にわたるため、NDL のサイトをよく利用しているという方でも、もっと便利な使い方があるのでは？とお感じの方も多いのではないのでしょうか。今回の研究会では、NDL のサイトで提供されるコンテンツの全体像をご紹介いただいたあと、質問や参加者同士の意見交換を通じて、NDL のサイトから知りたい情報をうまく引き出すためのヒントを考えます。皆さまのご参加お待ちしております。

(日 時) 2013 年 11 月 8 日 (金) 18:30~20:00  
(講 師) 水野 翔彦 氏 (国立国会図書館関西館 電子図書館課)  
(会 場) 田辺三菱製薬株式会社 平野町 1 号ビル 101 会議室  
(大阪市中央区平野町 2-6-6)

[http://www.mt-pharma.co.jp/shared/show.php?url=../company/map\\_osaka.html](http://www.mt-pharma.co.jp/shared/show.php?url=../company/map_osaka.html)

(定 員) 先着 20 名

(参加費) 無料

(申 込) <https://sites.google.com/site/infomatestop/>

- ・上記ページから、お申し込みください。
- ・アクセスできない方はメールタイトルを「参加希望」とし、今後の研究会連絡希望の有無とあわせ、[infomates.msg@gmail.com](mailto:infomates.msg@gmail.com) 宛まで、ご一報ください。
- ・キャンセルの場合は、早めのご連絡をお願いいたします ([infomates.msg@gmail.com](mailto:infomates.msg@gmail.com) 宛)。
- ・いただいた個人情報は当研究会の連絡と参加者分析にのみ使用させていただきます。

後援：一般社団法人情報科学技術協会

独立行政法人科学技術振興機構情報企画部、情報知識学会関西西部会

協力：株式会社サンメディア

-----☆☆

【関西西部会後援行事 情報と人をつなぐ、じょいんと懇話会】

情報科学技術協会 (INFOSTA) 西日本委員会では、11 月に情報関連分野の専門家の講演と参加者各位の人的ネットワークの構築を目的とする懇親会をセットにした「じょいんと懇話会」を企画しております。

INFOSTA の会員、非会員を問いませんので、奮ってご参加ください。

(日時) 2013 年 11 月 29 日 (金) 18:30~19:30 講演  
19:30~21:00 懇親会(立食パーティ)  
(会場) 大阪市中央公会堂 大会議室(大阪市北区中之島 1 丁目 1 番 27 号)  
(テーマ) 人はいかに情報を探索するか～使いやすいシステムを考える  
(講師) 松下光範氏 (関西大学総合情報学部教授)  
(定員) 40 名(先着順)  
(参加費) 3,500 円 (懇親会代込み)

※但し、INFOSTA 主催「サーチャー講座 21」あるいは「基礎能力試験対策セミナー」の 2013 年度受講者は、2,000 円。  
参加費は、当日会場で頂戴いたします。

(申込方法) 下記項目(1)から(5)を明記の上、申込先の電子メール宛に送信ください。

(申込先) INFOSTA 西日本委員会「じょいんと懇話会担当」

E-mail: [jointkonwa2013@gmail.com](mailto:jointkonwa2013@gmail.com)

[項目]

- 1)2013/11/29 じょいんと懇話会申込み (Subject にお書きください)
- 2)氏名 (当日配付の参加者名簿に記載されます)
- 3)所属、職種、専門分野のいずれかを必ず記入 (当日配付の参加者名簿に記載されますので、差し支えないものを記入してください)
- 4)緊急連絡用電話番号 (参加者名簿には記載しません)
- 5)INFOSTA 主催「サーチャー講座 21」、「基礎能力試験対策セミナー」の 2013 年度受講の有無

(申込締切) 2013 年 11 月 22 日(金)

(企画・共催・後援) INFOSTA 西日本委員会企画

共催：情報科学技術協会 (INFOSTA)、インフォ・スペシャリスト交流会

後援：情報知識学会関西西部会、記録管理学会、情報活動研究会 (INFOMATES)

◇松下教授はシステムを利用するユーザの行為に着目し、その行為を円滑に行えるようなシステムを創出する方法論である「インタラクシオンデ

ザイン」を専門とされています。講演では、人間の情報探索行動の分析を通じて使いやすい情報処理システムのデザインとは何かをお話しいただきます。的確な情報検索支援や検索システムの改良を考える上で新たな視点が得られる機会となればと存じます。

-----☆★

【第3回知識・芸術・文化情報学研究会 (2014.2.8)(発表者募集)】

昨今のデジタル・情報環境の急速な進展とともに、学術分野にも「情報」や「デジタル」を意識した分野横断型の研究が多く見受けられるようになってきました。大学の教育・研究活動においても、この傾向は強まっており、これに関連する教育プログラムやコースの活動が充実しています。

時代に即した新しい研究テーマのもと、このような課程で学ぶ学部生・大学院生や若手研究者が学術的な交流をする機会へのニーズはますます大きくなっています。

そのため、芸術・文化、およびその他の関連する分野の情報・知識研究に興味のある大学院生および若手研究者を主に意識し、発表・交流のための場として「知識・芸術・文化情報学研究会」を2011年度に発足させ、2012年1月に第1回、2013年2月に第2回の研究集会を開催しました。

本会は、異分野の人的交流を通じて、参加者相互が新たな研究テーマや方法を発見できる場と位置づけており、学会発表とはひと味違う萌芽的・冒険的な発表も歓迎します。下記の通り第3回の研究集会を実施しますので、奮ってご応募ください。

～知識・芸術・文化情報学研究会～

・世話役

赤間亮 (立命館大学：代表)

田窪直規 (近畿大学)

村川猛彦 (和歌山大学)

矢野環 (同志社大学)

・日時：2014年2月8日(土) ※時間は発表者数により調整します。

・場所：立命館大阪梅田キャンパス (大阪梅田駅前)

〒530-0018 大阪市北区小松原町2-4 大阪富国生命ビル5階

[http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

・研究分野：

1. 情報技術を使った芸術・文化分野やその他の分野の研究

2. 芸術・文化やその他の分野に応用できる情報技術の研究

・研究発表の内容例：

1. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見

2. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の表現、生産、組織化・DB構築、検索、提供

3. 電子出版、電子図書館、電子博物館・美術館

4. 芸術分野やその他の分野の用語、シソーラス

5. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の流通と知的所有権

6. インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など

7. その他、広く文化を対象とした情報・知識に関連する諸研究・開発

※応募方法：

・申込方法および締切：11月30日(土)までに、論題と研究要約(200字以内)を添えて、[kacimeeting+2014@gmail.com](mailto:kacimeeting+2014@gmail.com) に電子メールで申し込むこと。

・発表資料：発表資料は発表者が必要部数を準備する。

・発表時間：質疑込み20分程度。ただし発表者数により調整する。

(必要部数および発表時間は締め切り後、発表者に連絡します。)

※参加費：500円

※なお、研究発表会後に懇親会を予定しています。

・主催：知識・芸術・文化情報学研究会

・共催：情報知識学会関西部会

アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会

・協力：立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

-----☆★

【人文科学とコンピュータ「じんもんこん2013」(2013.12.9-14)】

◆シンポジウムの名称：「じんもんこん2013」

◆テーマ：人文科学とコンピュータの新たなパラダイム

New Paradigms on Humanities Computing

- Linking Knowledge of Human Activities -

◆主 催：情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH)

The Pacific Neighborhood Consortium (PNC)  
The Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI)  
京都大学地域研究統合情報センター (CIAS)

- ◆共 催：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 (NIHU)
- ◆日 時：2013 年 12 月 9 日 (月)・14 日 (土)
- ◆会 場：京都大学百周年時計台記念館
- ◆シンポジウムの趣旨：資源の循環や人的交流のグローバル化、地球規模での環境変化や大規模災害など諸課題が多様化・複雑化している現代社会において、問題解決に対する「知」もまた、多様化・複雑化しています。こうした諸課題に対応し豊かな社会や環境、文化を育むためには、細分化された「知」は地域や人々の活動と結びついた「知識」として、再構築される必要があります。これに呼応し、情報学の分野においても、オントロジー、セマンティック Web、LOD (Linked Open Data) といった研究やデジタル化、データベース、時空間情報処理などの研究手法が活発に展開されています。その成果は、人文科学領域にも大きな影響を与え、歴史情報学や地域情報学などの新しい研究の潮流を生み出しつつあります。本会議は人文学や情報学を中心としつつ、問題意識を共有するあらゆる分野の方々の学術研究や社会実践の発表と議論の場です。環境、健康、災害等の喫緊の社会的課題に対応するための知を、地域や地域の人々の活動と結びついた「知」として再構築することを目指します。ふるってご参加下さい。
- ◆その他の情報  
参加費：情報知識学会会員は後援学会のため主催学会の会員と同額。  
※詳細は以下「じんもんこん 2013」の Web ページをご覧ください。  
URL:<http://jinmoncom.jp/sympo2013/>

---

◆◆ 関連団体行事 ◆◆

---

-----☆★

【図書館総合展・学術情報オープンサミット 2013 (2013.10.29-31)】

- ・2013 年 10 月 29 日 (火)～31 日 (木)  
パシフィコ横浜 展示ホール/アネックスホール
- ・主催：図書館総合展運営委員会
- ・企画・運営：カルチャー・ジャパン (JCC)
- ※URL：<http://2013.libraryfair.jp/>

◆第 15 回図書館総合展はプレフォーラムやアフターイベントを含めて、2013 年 10 月 28 日 (月) から 2013 年 11 月 1 日 (金) の 5 日間開催されます。パシフィコ横浜での開催は 10 月 29 日 (火) からの 10 月 31 日 (木) までの 3 日間となります。

◇図書館総合展とは、図書館を使う人、図書館で働く人、図書館に関わる仕事をしている人達が、「図書館の今後」について考え、「新たなパートナーシップ」を築いていく場です。当日会場では、図書館にまつわる様々なフォーラムやプレゼンテーション、多様な団体によるポスターセッション、そして企業による最新の技術や動向が伺えるブース出展など、様々な企画が行われます。

◇図書館関係企業、図書館職員の皆様はもちろんのこと学生や一般の方々のご参加を心よりお待ちしております。

-----☆★

【アート・ドキュメンテーション学会秋季研究発表会 (2013.11.17)】

2008 年度に新設された秋季・研究発表会は、毎年多くの発表者を得て活発な議論の場となっており、第 6 回目となる今年度は、下記要領で研究発表を行います。また今年は「デジタルアーカイブサロン」についてのセッションを設け、サロンのこれまでの活動内容や研究報告を行う予定です。皆様お誘いあわせの上ご参加ください。

- ・開催日と場所  
2013 年 11 月 17 日 (日)  
跡見学園女子大学文京キャンパス 2 号館 M2302 教室  
<http://www.atomi.ac.jp/univ/about/campus/access.html>  
丸ノ内線 茗荷谷駅より徒歩 2 分  
(茗荷谷駅 2 番出口を左に出て、突き当りを右 (西方向) に進み徒歩 2 分)  
(※春日通り沿いからは入れません)

- ・プログラム  
○09:30 開場  
○10:00 開会挨拶

- 10:10 第1部: 特別セッション デジタルアーカイブサロンの現在  
(KEYNOTE SPEECH & PRESENTATION)  
イントロダクション「デジタルアーカイブサロンの歩み」  
木村 裕文 (ラディオインターナショナル)  
(研究発表 01)  
デジタル・アーカイブの効率的な探索・収集・情報発信法: より  
ワンソースマルチユース  
福田 博同 (跡見学園女子大学文学部)  
(研究発表 02)  
文化財管理における美術品用語辞典の作成  
嘉村哲郎 (東京藝術大学 芸術情報センター/総合芸術アーカイブ  
センター)  
河内晋平 (東京藝術大学 総合芸術アーカイブセンター)  
○11:50 昼休み  
○13:00 第2部: アート・ドキュメンテーションと国際連携  
(研究発表 03)  
ヴェネチア東洋博物館の浮世絵コレクションの全貌  
赤間 亮 (立命館大学アート・リサーチセンター)  
斎藤ちせ (立命館大学大学院文学研究科)  
(研究発表 04)  
アジアからの美術書誌情報の発信ー東京国立近代美術館・国立西洋  
美術館 OPAC の artlibraries.net における公開の経緯とその意義  
水谷 長志 (東京国立近代美術館)  
川口 雅子 (国立西洋美術館)  
丸川 雄三 (国立民族学博物館/国立美術館)  
(国際会議等参加報告)  
アジア学会 2013 年次大会参加記  
栗原 祐司 (東京国立博物館)  
○14:40 休憩(10 分)  
○14:50 第3部: ミュージアムとアーカイブ その深化と展望  
(研究発表 05)  
京浜東北線川口市西側における地域映像アーカイブ制作  
井上 和久 (早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科)  
(研究発表 06)  
ウフィツィ・ヴァーチャル・ミュージアム  
森岡 隆行( 株式会社日立製作所)  
岡田 温司 (京都大学大学院人間・環境学研究科)  
クリスティーナ アチディーニ(フィレンツェ美術館特別監督局)  
ヴィットー カッペリーニ (フィレンツェ大学)  
マルコ カッペリーニ (チェントリカ)  
(研究発表 07)  
「秘伝」のアーカイブ化: 観世文庫の現状と今後の課題  
横山 太郎 (跡見学園女子大学文学部)  
○16:30 閉会挨拶  
○16:40 終了

■研究会参加費

会員: 1000 円 (資料代)

非会員: 1500 円

■参加申し込み: 先着 90 名まで

参加を希望される方は、以下のフォームよりお申込みください。

<http://j.mp/JADS20131117>

定員 90 名になり次第、締め切りとなりますので、お早めにお申し込みを  
いただくようお願い申し上げます。

■懇親会

近隣で開催予定

-----☆☆

【第 99 回全国図書館大会 (2013.11.21-22)】

平成 25 年度 (第 99 回) 全国図書館大会福岡大会

・開催期間: 2013 年 11 月 21 日 (木) ~ 22 日 (金)

・開催地: 福岡県福岡市

・開催会場: アクロス福岡ほか

・大会テーマ: あなたの未来をひらく図書館

※第 99 回全国図書館大会福岡大会ホームページ

[http://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/library2013\\_web/index.html](http://www.lib.pref.fukuoka.jp/hp/library2013_web/index.html)

※第 99 回全国図書館大会福岡大会 申込専用ホームページ

[https://amarys-jtb.jp/2013lib\\_fukuoka/](https://amarys-jtb.jp/2013lib_fukuoka/)

◆◆ 会員からの情報 ◆◆

-----☆★

【国際会議論文募集のお知らせ (2013.10.28 投稿締切)】

(大槻理事からの情報です)

The Fourth International Conference on Computer Science,  
Engineering and Applications (CCSEA-2014) と  
The Third International Conference on Software Engineering  
and Applications (SEA-2014)が 2014/3 にインドで同時開催されます。  
皆様の論文投稿をお待ちしております。

- ・開催日： 2014/3/7-8
- ・開催場所： Vel Tech University, Chennai, India  
URL : (CCSEA-2014) <http://airccj.org/2014/ccsea/index.html>  
(SEA-2014) <http://airccj.org/2014/sea/index.html>

[Important Dates]

(CCSEA-2014)

Submission Deadline : October 28, 2013  
Authors Notification : January 06, 2014  
Final Manuscript Due : February 06, 2014

(SEA-2014)

Submission Deadline : October 28, 2013  
Authors Notification : January 06, 2014  
Final Manuscript Due : February 06, 2014

-----☆★

【富田倫生さん追悼記念「青空文庫と図書館をつなぐ」(2013.11.3)】

(高久理事からの情報です)

富田倫生さん追悼記念シンポジウム「青空文庫と図書館をつなぐ」を開催します。本シンポジウムを通して、富田さんが青空文庫等の活動を通して、図書館に遺してくれたものを考え、同時に青空文庫に対して図書館が何をできるのかを具体的に論じ、行動への一歩になればと思っています。

名称：富田倫生さん追悼記念シンポジウム「青空文庫と図書館をつなぐ」

日時：2013 年 11 月 3 日 (日) ※文化の日 14:00-17:00

会場：さくら WORKS<関内>

※詳細 URL: <https://www.facebook.com/events/752369001444689/>

主催：「青空文庫と図書館をつなぐ」実行委員会

後援：青空文庫、図書館総合展運営委員会ほか

協賛：アカデミック・リソース・ガイド株式会社ほか

定員：80 名 (最大) ※除く運営スタッフ

会費：無料 (ただし、「本の未来基金」への寄付をカンパで申し受けます。

運営費用を除いたうえで有志一同として寄付予定です)

<プログラム (予定) >

13:00 開場

14:00-14:10 開会挨拶

14:10-15:00 基調講演：大久保ゆう「青空文庫と図書館－富田倫生の  
足跡を振り返りつつ」

15:00-15:10 休憩

15:10-15:50 連続ショートトーク「図書館で広がる青空文庫の世界」

今井福司「大学の司書課程・司書教諭課程での青空文庫の取り上げ方」

岡本真「図書館システムと青空文庫」ほか

15:50-16:00 休憩

16:00-16:55 オープントーク「青空文庫に図書館は何ができるのか」

16:55-17:00 閉会挨拶

17:00 閉会

-----☆★

【EnjuKaigi2013 開催 (2013.11.23)】

(江草常務理事からの情報です)

オープンソースソフトウェアの図書館システムである Next-L Enju の企画・  
開発・導入を図る有志による任意団体 Project Next-L では、Next-L Enju  
のさらなる発展を企図して、来る 11 月 23 日 (土) に福岡県福岡市で、  
Next-L Enju に特化したカンファレンスである「EnjuKaigi 2013」を開催  
いたします。

会場となる福岡県福岡市では直前の 11 月 21 日（木）、22 日（金）に第 99 回全国図書館大会が開催されており、日本全国から多数の図書館関係者が集まることが予想されます。ぜひ、図書館大会とあわせて、本「EnjuKaigi 2013」にご参加・ご後援・ご協賛賜れますと幸いです。

（開催概要）

- ・名称：EnjuKaigi 2013「オープンソース図書館システムの発展」
- ・日時：2013 年 11 月 23 日（土）10:00～17:00
- ・会場：九州大学箱崎キャンパス 21 世紀交流プラザⅠ 多目的ホール  
（〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎 6-10-1）
- ・主催：Project Next-L
- ・定員：100 名
- ・参加費：無料（カンパ歓迎）
- ・後援：Code4Lib JAPAN、日本図書館協会
- ・詳細 URL: <http://www.next-l.jp/?page=EnjuKaigi2013>

（プログラム予定）

- 9:30～10:00 受付
- 10:00～10:05 オープニングスピーチ 原田隆史（同志社大学准教授）
- 10:05～10:50 基調講演「Next-L Enju のこれまでとこれから」  
田辺浩介（Next-L Enju 開発者）  
※Next-L Enju の開発経緯から、現在の開発・導入状況、今後のロードマップ等について紹介します。
- 10:50～11:50 プレゼンテーション（事例紹介；2～3 件）
- 11:50～12:20 プレゼンテーション（スポンサー紹介）  
※協賛企業によるブース展示の紹介があります。
- 12:20～14:00 ランチ ※協賛企業によるブース展示を実施します。
- 14:00～14:45 特別講演「Enju に期待すること ―被災地支援とデポジトリライブラリの取り組み―」  
熊谷慎一郎（宮城県図書館）
- 14:45～15:10 ブレイク ※協賛企業によるブース展示を実施します。
- 15:10～16:50 講演者によるパネル討論（田辺、熊谷、原田ほか）
- 16:50～17:00 閉会あいさつ
- 17:00～18:00 会場撤収、移動
- 18:00～20:00 情報交流会

☆☆・・・・・・・・☆☆  
\*\*\*\*\*

編集後記

今年は、例年になく、秋の猛暑、相次ぐ台風の襲来と落ち着く暇も無い様子ですが、会員の皆さまはいかがお過ごしでしょうか。秋は実りの秋、学会イベントのシーズンでもあります。12 月には京都で情報知識学フォーラムが開催されます。皆さまふるってご参加ください。皆さまの研究と教育、開発の成果が出ますよう、ご健勝をお祈りしつつ。

（メールマガジン 10 月号 担当：高久 雅生）

☆☆・・・・・・・・☆☆

\*\*\*\*\*  
☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013-11-25 ☆☆ No.74

---

11 月号 CONTENTS(目次)

---

（目次）

- ・第 18 回情報知識学フォーラムのお知らせ
- ・情報知識学会役員選挙 選挙管理委員会からのお知らせ
- ・学会誌編集委員会からのお知らせ
- ・シニア情報知識学研究部会より  
2013 年度第 2 回（通算第 8 回）卓話会のご案内
- ・学会行事案内  
人文科学とコンピュータ「じんもんこん 2013」(2013.12.9-14)  
第 3 回知識・芸術・文化情報学研究会 (2014.2.8)(発表者募集)

---

◆◆ 第18回情報知識学フォーラムのお知らせ ◆◆

---

2013年12月7日(土) 13:00-18:00 同志社大学にて、今話題のビッグデータについて大学・企業で研究されている方から様々な対象に対する適用、利活用、知識発見の具体例をご紹介します。  
会員、非会員を問わず、多数の方のご参加をお待ちしております。  
当日のプログラムと講演タイトルが決まりましたので、下記ページにて詳細をご確認ください。

- date: 2013/12/07 (Sat) 13:00 - 18:00
- place: 同志社大学新町キャンパス R205 教室  
京都府京都市上京区新町通今出川上ル
- URL: <http://www.jsik.jp/?forum2013>
- プログラム
- 13:00 開会挨拶
- 13:05-14:05 講演 1: ビッグデータ俯瞰分析  
大槻明(東京工業大学 特任准教授)
- 14:05-15:05 講演 2: Web データを用いた京都市のホテル業界に関する応用研究  
津田博史(同志社大学 教授)
- 15:30-16:30 講演 3: 身近なビッグデータ と おもてなし と 企業利益  
利光哲哉(富士通株式会社)
- 16:30-17:30 講演 4: ソーシャルメディアデータ利活用の可能性  
廣井和重((株)日立製作所)
- 17:30-18:00 総合討論  
司会: 原田隆史(同志社大学)
- 18:00-18:05 閉会挨拶 堀幸雄(情報知識学フォーラム実行委員長  
香川大学総合情報センター)
- 18:30- 懇親会 (一般: 4000 円, 学生: 2000 円)  
会場: 同志社大学寒梅館 1 階アマーク・ド・パラディ(地図)

---

◆◆ 情報知識学会役員選挙 選挙管理委員会からのお知らせ ◆◆

---

【平成 26-27 年度 情報知識学会役員選挙について】(推薦締切 11 月 30 日)

平成 26-27 年度役員候補者の推薦期限は 11 月 30 日です。推薦を検討しておられる会員は、至急、推薦書を学会事務局までお送りください。詳細は以下を参照ください。

- ・情報知識学会誌 23 巻 3 号の「役員候補者の推薦について (公告)」

(選挙管理委員会)

委員長 八重樫 純樹

委員 飯沢 篤志、木村 美実子、鈴木 卓治、角田 裕之

---

◆◆ 学会誌編集委員会からのお知らせ ◆◆

---

第 23 巻第 3 号を J-Stage 公開いたしました。今回から、長期保存用という事で、形式を PDF/A にしております。閲覧などで問題を発見されましたら編集委員会までご一報ください。フォーラム実行委員会のご尽力により、第 23 巻第 4 号をフォーラム号として発行いたします。また、7 月以降論文投稿が低迷しております。大会発表の査読論文文化など、投稿をお願いいたします。

(編集委員長 芦野俊宏)

---

◆◆ シニア情報知識学研究部会より ◆◆

---

【2013 年度第 2 回 (通算第 8 回) 卓話会のご案内】

シニア部会では「事始めシリーズ」として、情報知識学の様々な分野の先達をお招きして、往時の研究活動について話を伺い現在の状況に関する理解を深めると共に、今後の展開について議論するための卓話会を開催しています。

今回は、もと丸善 MASIS センターで、1960 年代後半に欧米でサービスを

開始した国際的大型データベース検索システム DIALOG の我が国への導入に活躍された高原良文氏にお願いして、データベース検索草創期の状況等についてお話いただき、現在の情報収集行動・技法等にいたる経緯の理解を深め、また今後の方向性などについて討議するため、下記の要領で本年第2回卓話会を開催します。

1960年～70年代は世界的な学術情報流通の転換期で、なかでもロッキード社の DIALOG に代表される国際的大型オンライン・データベース検索システムの普及は、当時の学術情報の提供・収集・利用に顕著な影響を与えました。DIALOG は 1966 年に米国 NASA/RECON の情報検索システムを母体に開発され、それまでは単独で情報提供を行っていた BIOSIS、CAsEarch、AGRICOLA、PROMT、INSPEC など理工学、生物、農学、教育など各種分野のデータベースを集めて検索システムを構築し、我が国に導入された 1977 年当時には 75 種のデータベースで構成され、当時の利用者、とりわけ研究者にとって情報収集の利便性から世界中に急速に普及する結果となりました。インターネットの利用が日常茶飯事になりグーグルの普及など革新的な変化が加速し多様化する現在ですが、我が国における情報検索草創期の状況について、先人のお話を通して改めて振り返ってみるのも意義があると思います。

若手、壮年、シニアの各層会員とも奮ってご参加をお待ちします。

- ・日時：2013 年 12 月 13 日（金）18:00-19:00（適宜延長）
- ・会場：学会事務局(秋葉原、凸版印刷内)<http://www.jsik.jp/?access>
- ・講師：高原良文氏（サンメディア経営顧問、もと丸善 MASIS センター）
- ・テーマ：「情報検索事始め—海外データベース・サービス導入の回想」
- ※参加申込：事前申し込みは不要ですが参加予定の会員は、根岸世話人 ([negishi@nii.ac.jp](mailto:negishi@nii.ac.jp)) および学会事務局 ([jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com))宛に連絡いただければ幸いです。
- （シニア部会代表世話人：松村多美子、世話人：根岸正光）

---

◆◆ 学会行事案内 ◆◆

---

-----☆★

【第3回知識・芸術・文化情報学研究会（2014.2.8）(発表者募集)】

昨今のデジタル・情報環境の急速な進展とともに、学術分野にも「情報」や「デジタル」を意識した分野横断型の研究が多く見受けられるようになってきました。大学の教育・研究活動においても、この傾向は強まっており、これに関連する教育プログラムやコースの活動が充実しています。

時代に即した新しい研究テーマのもと、このような課程で学ぶ学部生・大学院生や若手研究者が学術的な交流をする機会へのニーズはますます大きくなっています。

そのため、芸術・文化、およびその他の関連する分野の情報・知識研究に興味のある大学院生および若手研究者を主に意識し、発表・交流のための場として「知識・芸術・文化情報学研究会」を 2011 年度に発足させ、2012 年 1 月に第 1 回、2013 年 2 月に第 2 回の研究集会を開催しました。

本会は、異分野の人的交流を通じて、参加者相互が新たな研究テーマや方法を見発できる場と位置づけしており、学会発表とはひと味違う萌芽的・冒険的な発表も歓迎します。下記の通り第 3 回の研究集会を実施しますので、奮ってご応募ください。

～知識・芸術・文化情報学研究会～

- ・世話役  
赤間亮（立命館大学：代表）  
田窪直規（近畿大学）  
村川猛彦（和歌山大学）  
矢野環（同志社大学）
- ・日時：2014 年 2 月 8 日（土） ※時間は発表者数により調整します。
- ・場所：立命館大阪梅田キャンパス（大阪梅田駅前）  
〒530-0018 大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5 階  
[http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumeiji.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

・研究分野：

1. 情報技術を使った芸術・文化分野やその他の分野の研究
  2. 芸術・文化やその他の分野に応用できる情報技術の研究
- ・研究発表の内容例：
1. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の構造解析、モデル化、可視化、

知識発見

2. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の表現、生産、組織化・DB構築、検索、提供
3. 電子出版、電子図書館、電子博物館・美術館
4. 芸術分野やその他の分野の用語、シソーラス
5. 芸術分野やその他の分野の情報・知識の流通と知的所有権
6. インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
7. その他、広く文化を対象とした情報・知識に関連する諸研究・開発

※応募方法:

- ・申込方法および締切: 11月30日(土)までに、論題と研究要約(200字以内)を添えて、[kacimeeting+2014@gmail.com](mailto:kacimeeting+2014@gmail.com) に電子メールで申し込むこと。
- ・発表資料: 発表資料は発表者が必要部数を準備する。
- ・発表時間: 質疑込み 20分程度。ただし発表者数により調整する。(必要部数および発表時間は締め切り後、発表者に連絡します。)

※参加費: 500円

※なお、研究発表会後に懇親会を予定しています。

- ・主催: 知識・芸術・文化情報学研究会
- ・共催: 情報知識学会関西部会  
アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会
- ・協力: 立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

-----☆★

【人文科学とコンピュータ「じんもんこん 2013」(2013.12.9-14)】

- ◆シンポジウムの名称: 「じんもんこん 2013」
- ◆テーマ: 人文科学とコンピュータの新たなパラダイム  
New Paradigms on Humanities Computing  
- Linking Knowledge of Human Activities -
- ◆主 催: 情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会 (SIG-CH)  
The Pacific Neighborhood Consortium (PNC)  
The Electronic Cultural Atlas Initiative (ECAI)  
京都大学地域研究統合情報センター (CIAS)
- ◆共 催: 大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 (NIHU)
- ◆日 時: 2013年12月9日(月) - 14日(土)
- ◆会 場: 京都大学百周年時計台記念館
- ◆シンポジウムの趣旨: 資源の循環や人的交流のグローバル化、地球規模での環境変化や大規模災害など諸課題が多様化・複雑化している現代社会において、問題解決に対する「知」もまた、多様化・複雑化しています。こうした諸課題に対応し豊かな社会や環境、文化を育むためには、細分化された「知」は地域や人々の活動と結びついた「知識」として、再構築される必要があります。これに呼応し、情報学の分野においても、オントロジー、セマンティック Web、LOD (Linked Open Data) といった研究やデジタル化、データベース、時空間情報処理などの研究手法が活発に展開されています。その成果は、人文科学領域にも大きな影響を与え、歴史情報学や地域情報学などの新しい研究の潮流を生み出しつつあります。本会議は人文学や情報学を中心としつつ、問題意識を共有するあらゆる分野の方々の学術研究や社会実践の発表と議論の場です。環境、健康、災害等の喫緊の社会的課題に対応するための知を、地域や地域の人々の活動と結びついた「知」として再構築することを目指します。ふるってご参加下さい。
- ◆その他の情報  
参加費: 情報知識学会会員は後援学会のため主催学会の会員と同額。  
※詳細は以下「じんもんこん 2013」の Web ページをご覧ください。  
URL: <http://jinmoncom.jp/sympo2013/>  
プログラム URL: <http://jinmoncom.jp/sympo2013/program.html>

☆★-----☆★  
\*\*\*\*\*

編集後記

11月に入って急に寒くなりました。10月には真夏日となった日もあり、いっきに晩秋そして冬に突入です。気象庁が発表した今冬の長期予報によると昨年、一昨年に続いて、「寒い冬」となる見込みの様です。風邪など召されませぬようご自愛ください。

(メールマガジン 11月号 担当: 白鳥 裕)

☆★-----☆★

\*\*\*\*\*

☆☆☆ 情報知識学会 メールマガジン ☆☆☆ 2013-12-26 ☆☆ No.75

---

12月号 CONTENTS(目次)

---

- ・第18回情報知識学フォーラム開催報告
- ・情報知識学会役員選挙 選挙管理委員会からのお知らせ
- ・学会行事案内
  - 第3回「知識・芸術・文化情報学研究会」開催案内(2014/2/8)
- ・関連団体行事のご案内
  - 国立情報学研究所 NII JAPAN IDENTITY & CLOUD SUMMIT 2014(2014/1/14~15)
  - 平成25年度第7回NII市民講座「問題を見ずに問題を解く  
～ 定数時間アルゴリズムとは? ～」(2014/1/22)
- ・会員からの情報
  - シンポジウム『進化するミュージアム2014』(2014/1/21)

---

◆◆ 第18回情報知識学フォーラム開催報告 ◆◆

---

2013/12/07(Sat)に同志社大学新町キャンパスにて  
第18回情報知識学フォーラム「ビッグデータと新たな知識発見」を開催  
いたしました。情報知識学会は、「情報と知識」についてさまざまな側面  
から考え、研究し、議論していく場ですが、いま話題のビッグデータに  
ついて大学、企業で研究している方々より講演、それぞれの立場でご議論  
を頂きました。下記に開催報告をまとめましたのでご興味のある方はぜひ  
ご覧ください。

・第18回情報知識学フォーラム報告  
<http://www.jsik.jp/?forum2013report>

(情報知識学フォーラム実行委員 堀 幸雄)

---

◆◆ 情報知識学会役員選挙 選挙管理委員会からのお知らせ ◆◆

---

平成26-27年度役員候補者の推薦は11月30日に締切られ、24名の推薦があ  
りました。選挙管理委員会では、1月15日に投票用紙を発送し、2月7日締切り  
の投票に向けて準備しております。  
被選挙者は、役員候補者の被推薦者のみならず、正会員も含む学会員全員が  
対象です。会員の皆様におかれましては是非とも投票をお願いします。主な  
日程は以下の通りです。

主な日程

★役員候補者推薦締切：11月30日(締め切りました)  
☆公示：1月15日  
☆投票用紙発送：1月15日  
★投票締切：2月7日(必着)  
☆開票：2月12日  
☆常務理事会報告：2月中  
★総会承認：5月(予定)

選出役員

会長：1名  
理事：20名  
監事：2名

・学会公式サイト(<http://www.jsik.jp/>)

(選挙管理委員会)

委員長 八重樫 純樹

委員 飯沢 篤志、木村 美実子、鈴木 卓治、角田 裕之

◆◆ 学会行事案内 ◆◆

-----☆★

【第3回「知識・芸術・文化情報学研究会」開催案内（2014/2/8）】

日時：2014年2月8日（土）10:00 受付開始

会場：立命館大阪梅田キャンパス（大阪梅田駅前）多目的室

〒530-0018 大阪市北区小松原町 2-4 大阪富国生命ビル 5 階

アクセス：

[http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap\\_office\\_osaka\\_j.html](http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_office_osaka_j.html)

主催：知識・芸術・文化情報学研究会

共催：情報知識学会関西西部会、アート・ドキュメンテーション学会関西地区部会

協力：立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点

プログラム：

10:00 受付開始

10:30 開会挨拶

10:35 特別セッション・講演「芸能データ収集の難しさ」

大友浩（落語CDワザオギプロデューサー・芸能研究家）

11:20 特別セッション・発表1「伝統芸能の計量分析」の黎明－歌舞

伎・落語・相撲－

坂部裕美子（（財）統計情報研究開発センター研究員、

立命館大学大学院文学研究科博士課程後期課程）

11:40 特別セッション・発表2「現代から過去の日本における芸術文化の

変容の考察-数理アプローチとデータベースの活用-

川畑泰子（九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻 CCD コース博士2年）

12:00 特別セッション・ディスカッション

12:20 休憩

13:20 発表3「閲覧時間を考慮した Web 情報検索支援システム」

遠藤淳一（和歌山大学大学院 システム工学研究科 M2）

13:50 発表4「個人利用向け情報管理システムの構築」

野田長寛（和歌山大学大学院 システム工学研究科 M1）

14:20 発表5「デジタルタブレット端末を利用した医療文書の管理」

野本真記子

14:50 休憩

15:00 発表6「語彙索引作成ツールの開発による役者評判記索引の効率化」

山路正憲（立命館大学 アート・リサーチセンター 衣笠総合

研究機構研究員）

15:30 発表7「メタデータを用いた異言語浮世絵データベース間における

同一作品の同定手法」

加藤拓磨\*、久山岳夫\*\*、Biligsai Khan Batjargal\*\*\*、木村文則\*\*\*、

前田亮\*（\*=立命館大学 情報理工学部、\*\*=立命館大学 情報理工学

研究科、\*\*\*=立命館大学衣笠総合研究機構）

16:00 休憩

16:10 発表8「型紙に表現された文様の分類方法について」

加茂瑞穂（立命館大学衣笠総合研究機構ポスドクトラル

フェロー）

16:40 発表9「近代物産誌と民俗資料を用いた北飛騨民俗ナレッジベースの構築と活用」

松森智彦（同志社大学文化情報学研究科・日本学術振興会

特別研究員（PD））

17:10 閉会挨拶

17:40 懇親会

参加申し込み方法：

・2014年1月17日（金）までに、氏名・所属を明記の上、

kacimeeting+2014(at)gmail.com 宛に電子メールで申し込むこと

((at) を @ に変えてください)。

・研究会参加費（500 円）を当日徴収します。

・研究発表会後に懇親会を予定しています。大学や分野の枠を超えた交流の場にしたいと思いますので、奮ってご参加ください。

◆◆ 関連団体行事のご案内 ◆◆

-----☆☆

【国立情報学研究所 NII JAPAN IDENTITY & CLOUD SUMMIT 2014】

- ◆日 時： 2014 年 1 月 14 日(火)10:30-18:00/1 月 15 日(水)10:00-18:00
- ◆会 場： 学術総合センター 一橋講堂 他  
〒101-8430 東京都千代田区一ツ橋 2-1-2
- ◆主 催： 国立情報学研究所 /  
一般社団法人 OpenID ファウンデーション・ジャパン
- ◆協 賛： Ping Identity Corporation / ノーサレンダー株式会社 /
- ◆後 援： 文部科学省 / 総務省 / 経済産業省 /  
情報処理学会電子化知的財産・社会基盤研究会 (EIP)
- ◆協 力： Kantara Initiative

◇テーマ： ビッグデータと Identity - アイデンティティから考える  
クラウド・ビッグデータ・モバイルの興隆

※詳細： <https://jics.nii.ac.jp/>

※入場： 無料

-----☆☆

【平成 25 年度第 7 回 NII 市民講座 「問題を見ずに問題を解く  
～ 定数時間アルゴリズムとは？ ～」 (2014/1/22)】

- ◆講 師： 吉田 悠一 (国立情報学研究所助教)
- ◆日 時： 2014 年 1 月 22 日 (水) 18:30～19:45 (講義・質疑応答)
- ◆会 場： 学術総合センター 2 階・中会議場
- ※詳 細： <http://www.nii.ac.jp/shimin/>
- ◇概 要：  
昨今ビッグデータが話題となっている。ビッグデータを扱う上での問題点は、データが巨大なのでその上で計算を行うのが大変なことと、そもそもデータ全てを取得するのが大変なことである。これらを解決するにはどうすれば良いか  
-- データを見なければ良い！本講演で解説する定数時間アルゴリズムは、データを殆ど見ず、常に同じ時間で処理を終える、まさにビッグデータ時代にうってつけの手法である。

※参加申込： 2013 年 12 月 20 日(金)より受付開始

※参加費無料

※当日参加も可能ですが、事前にお申込み頂ければ幸いです。

---

◆◆ 会員からの情報 ◆◆

---

-----☆☆

【シンポジウム『進化するミュージアム 2014』 (2014/1/21)】

URL : <http://www.digital-heritage.or.jp/symposium5/>

◆主旨：  
現在ミュージアムでは、さまざまな分野のデジタル技術を背景にして、文化財や現物資料の保存や研究に新しい方法や考え方が活用され、デジタル技術を用いた展示手法の研究開発も進んでいます。本物とデジタルの融合を図りながらあらたな価値を提供する「進化するミュージアム」実現のために、より精度の高いデジタルデータ取得法やその活用としてのコンテンツ表現や再生技術が必要とされ、さまざまな試みが行われています。これらを私たちは、デジタル技術を用いた「資源・財産」ととらえ「デジタル文化財」と呼んでいます。本シンポジウムでは、文化力向上を掲げる国レベルの動向をはじめ、「本物」と共に歩む「デジタル」の可能性とミュージアムの未来像を、背景にある技術や秘話、実例としてのデジタル展示を交えて体感いただきます。

- ◆日時： 2014 年 1 月 21 日 (火)
  - ・第 1 部「デジタル文化財展示～最新デジタル文化財展示を体験しよう！」  
→ 11 時開場 (18 時まで) 出入自由
  - ・第 2 部「デジタル文化財最新事例セッション」  
→ 12:00 開場 (17 時まで)、先着 330 席

◆場所： 東京・丸の内「JP タワーホール&カンファレンス」  
東京都千代田区丸の内二丁目 7 番 2 号 JP タワー4 階  
(※商業施設 KITTE ビル 4 階)

◆主催：一般財団法人デジタル文化財創出機構

<http://www.digital-heritage.or.jp/>

◆後援：文化庁、東京国立博物館、京都国立博物館、九州国立博物館、一般財団法人デジタルコンテンツ協会、公益財団法人画像情報教育振興協会 (CG-ARTS 協会)

◆協力：朝日新聞社、凸版印刷株式会社

◆参加費：入場無料（事前の予約や登録は不要です）

◆プログラム：（※内容は予告なく変更の可能性があります）

・第1部 11:00-18:00（出入り自由）

「デジタル文化財展示～最新デジタル文化財を体験しよう！」

〔展示アイテム〕唐招提寺『鑑真和上お身代わり造立』、武蔵野美術大学『MAU M&L 博物図譜』、九州国立博物館『デジタル計測彩色古墳』、平等院『デジタル復元映像』、東大寺『法華堂復元映像』、首都大学東京『東日本大震災アーカイブ』、京都国立博物館『青銅鏡 VR』、体験型学習コンテンツ『V×R ダイナソー』、絵画の空間体験鑑賞システム『ViewPaint：フェルメール《牛乳を注ぐ女》』など

・第2部 12時開場、12時30分開演（先着330名）

「デジタル文化財最新事例セッション」

- ・開会挨拶 本田牧雄（一般財団法人デジタル文化財創出機構代表理事）
- ・来賓挨拶 青柳正規（文化庁長官）
- ・来賓挨拶 デジタル文化資産推進議員連盟役員（※登壇者調整中）
- ・基調講演「国立デジタル文化情報保存センター構想と保存技術日本版スタンダード」  
長尾真（前国立国会図書館長）× 小林敏夫（神奈川大学）
- ・セッション1「式年遷宮における神宝の調整」※登壇者調整中(神宮司庁遷宮造営庁神宝装束部)
- ・セッション2「唐招提寺『鑑真和上坐像』を引き継ぐ・・・お身代わり造立」  
木下成通（公益財団法人美術院国宝修理所部長）  
× 樋澤明（凸版印刷株式会社）
- ・特別講演「膨大な博物誌とそのデジタルアーカイブの実際」  
荒俣宏（博物学者）× 寺山祐策（武蔵野美術大学）
- ・セッション3「平等院復元の科学的アプローチ」  
神居文彰（平等院住職）
- ・セッション4「九州彩色古墳の研究と公開」  
池内克史（東京大学）× 朽津信明（東京文化財研究所）  
× 河野一隆（九州国立博物館）
- ・セッション5「人の記憶と記録を可視化する手法：東日本大震災アーカイブ」  
渡邊英徳（首都大学東京システムデザイン学部）
- ・閉会挨拶「進化するミュージアム～ミュージアムの未来像」  
島谷弘幸（東京国立博物館副館長）

（※閉会後18時まで引き続き会場内「デジタル文化財展示」見学可能）

☆★.....☆☆  
\*\*\*\*\*

## 編集後記

2013年もあつという間に残り数日となり、本メルマガも今年最後の12月号をお届け致します。この年末年始は最も長い連休パターンという報道もありますが、会員の皆様はどのような年末年始を過ごされる予定でしょうか。来年の干支は午(うま)ということで、目標まで駆け抜けるためにもうまくりフレッシュしたいものです。それでは、会員の皆様もどうぞ良いお年をお迎え下さい。

ご意見、ご感想の宛先： [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

（メルマガジン 12月号 担当： 阪口 哲男）

☆★.....☆☆

お知らせ

情報知識学会誌 Vol. 24 No. 3 (平成 26 年 9 月刊行予定)

## 特集「サイエンスデータとマッシュアップ技術」論文公募

情報通信研究機構・村田 健史 (ken.murata@nict.go.jp)

### 1. 主旨

「ビッグデータ」は、新聞やテレビ等でこの文字を見ない日がないほど定着してきた用語ですが、一方でビジネス分野を除いてビッグデータによる新しい知見獲得やサービスはまだ十分ではありません。ビッグデータの主要テーマの一つである異分野融合についても、これからの発展が期待されている段階です。ビッグデータが価値を発揮するためには、基盤技術の発展と技術のマッシュアップによる実用化が不可欠です。

このたび本学会では、「サイエンスデータとマッシュアップ」特集を組み、広く論文投稿を募ることとなりました。本特集では、気象、環境・建築、防災、エネルギー、宇宙、農林水産、化学、生命科学、医療・福祉、地域、観光、メディア、流通などを含む様々な科学データとその融合についての話題を広く募集します。各分野のビッグデータについて、その活用方法の提案、技法やデータ伝送・管理・処理・可視化システム（サイエンスクラウド・ソーシャルクラウド）、および成果や有効性などをテーマとする論文の投稿をお待ちします。また、分野内または分野間融合を目指す異分野間データ融合、基盤技術（Linked Open Data 技術を含む）とそのマッシュアップ技術、クラウド技術についても募集します。

### 2. 公募テーマ

- (ア) サイエンスデータ（ビッグデータ）伝送・管理・処理等の技術開発
- (イ) サイエンスデータ（ビッグデータ）利活用・公開に関する提案・研究成果
- (ウ) サイエンスデータの分野内または異分野間のデータ融合の提案や処理・利活用技法・マッシュアップ技術、システム（クラウド）およびそれらの成果

### 3. 投稿締切

2014 年 5 月 23 日（金）

### 4. 原稿送付先

学会誌原稿投稿送付用アドレス E-mail: paper-submit@jsik.jp

(Subject に「特集号原稿」と明記、「情報知識学会誌」投稿規定及び執筆要領に従うこと)

お知らせ

## 情報知識学会 第 22 回 (2014 年度) 年次大会 発表論文募集について

情報知識学会では下記の期日・場所で、総会と共に研究報告会を開催いたします。

- ・ 日程: 2014 年 5 月 24 日 (土) - 25 日 (日)
- ・ 会場: 和歌山大学システム工学部 (和歌山市栄谷 930)
- ・ URL(発表論文募集): <http://www.jsik.jp/?2014cfp>

発表論文を下記要領で募集いたしますので、奮ってご応募頂きますようお願い申し上げます。

### 1. 募集分野

- (1) 情報知識の構造解析、モデル化、可視化、知識発見
- (2) 情報・知識の表現、生産、組織化、検索、提供
- (3) 電子出版、電子図書館
- (4) マルチメディア、電子ミュージアム
- (5) 用語、シソーラス
- (6) 知識情報の流通と知的所有権
- (7) 専門分野における情報の品質管理、基準化
- (8) インターネット、セマンティックウェブ、Web x.0 など
- (9) その他情報知識学に関連する諸研究・開発

### 2. 応募方法

- ・ 登録方法: 登録フォームから必要情報を登録: <http://goo.gl/1ghbla>
- ・ 応募期限: 2014 年 3 月 14 日 (金)

- ・採択可否通知：2014 年 3 月 20 日(木)
- ・原稿提出期限：2014 年 4 月 18 日(金)
- ・今大会では、前大会に引き続き、学生セッションを行い、優秀な発表には学生奨励賞を贈呈する予定です。学生セッションの参加を希望される場合は、「学生セッションを希望する」にチェックを入れてください。

### 3. 論文執筆・発表について

- (1) 原稿の体裁は、学会誌の論文執筆要領に準拠してください。論文種別欄は「第 22 回年次大会予稿」となります。
- (2) 発表時間は質疑応答を含めて 30 分です。論文提出がないと発表できません。
- (3) 登壇発表者は当学会員に限ります。当日入会も可能です。同一の者による複数登壇発表は認められません(共著は可)。
- (4) 本論文は電子ファイルでの提出を予定しています。具体的な方法は採否決定時に改めて連絡いたします。
- (5) 予稿原稿ページ数は 6 ページ以内を基本とします。超過した場合は、2 ページ単位で 2,000 円ずつ超過料金が発生します。(例：超過 1～2 ページ 2,000 円、超過 3～4 ページ 4,000 円)

### 4. お問い合わせ先

〒640-8510 和歌山市栄谷 930

和歌山大学システム工学部 村川研究室内

第 22 回 (2014 年度) 情報知識学会 年次大会実行委員会

E-mail : jsik2014\_at\_gmail.com (\_at\_ を @ に変えてください)

極力メールでお問い合わせください。

お知らせ

## 第 11 回 (2014) 論文賞 推薦開始のお知らせ

第 11 回 (2014) の論文賞の選定を行います。昨年同様の選考方式に基づき、学会員が直接投票で選びます。論文賞推薦委員会の委員は、長塚副会長 (委員長)、芦野編集委員長、根岸常務理事、田良島常務理事の 4 名です。

### (1) 選定の日程

- 1 論文賞の候補の推薦。本学会員 (正会員, 賛助会員) は、推薦委員会に対して論文賞にふさわしいと思われる論文をその理由をつけて推薦する。
  - ・推薦開始 : 2014 年 2 月 25 日
  - ・推薦締切り : 2014 年 3 月 15 日
- 2 推薦委員会は、会員からの推薦論文が多数の場合は一次選考を行い、また少数の場合は推薦委員会により追加推薦を行って、候補論文を決定する。
  - ・候補決定 : 3 月下旬
- 3 これら論文賞候補論文とその推薦理由を学会ホームページおよびメルマガ等に掲載し、会員に投票を依頼する。投票は、総会出欠回答はがきに併設の論文賞投票欄に記入する。なお、推薦者の名前、人数などは公表しない。
  - ・投票開始 : 3 月 27 日
  - ・投票締切り : 4 月 21 日
- 4 投票の結果、最多得票の論文を論文賞授賞論文とする。ただし、推薦委員会は得票数や論文内容などを勘案し、得票数第 2 位の論文についても論文賞とすることができる。
- 5 選定結果発表
  - ・授賞式 : 次期総会 (5 月 25 日(日)予定) において

### (2) 推薦対象論文 (下記 7 件, 掲載順)

1. 荒井 俊介, 辻 慶太: “Blog・Twitter に書かれた疑問を収集・提供する Web サイトの構築”, 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 1, pp. 1-19, 2013.
2. 方波見 柳子, 石塚 英弘: “クリニカルパスを複数の患者に並行実施する場合の看護師・介護士の必要労働時間推定シミュレーション”, 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 1, pp. 20-46, 2013.
3. Nizamuddin, Hidehiro ISHIZUKA: “A prototype of an integrated information system for geographic information produced during the rehabilitation and reconstruction process following the earthquakes and tsunami disasters in Aceh

province, Indonesia” , 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 1, pp. 47-69, 2013.

4. 田辺 和俊, 栗田 多喜夫, 西田 健次, 鈴木 孝弘: “サポートベクター回帰を用いた 158 カ国の国債格付けの再現” , 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 1, pp. 70-91, 2013.
5. 三和 義秀: “小説を対象とした読後の感情状態形成モデルの研究 –読者のパーソナリティ特性と認知的評価に基づいて–” , 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 1, pp. 92-110, 2013.
6. 青山 俊弘, 山地 一禎, 池田 大輔, 行木 孝夫: “機関リポジトリコンテンツの 多面的な学内利用フレームワークの提案と実装 ” , 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 3, pp. 380-394 , 2013.
7. 七丈 直弘: “共引用クラスタリングによる研究分野の動的把握に向けた試論” , 情報知識学会誌, Vol. 23, No. 3, pp. 355-370, 2013.

<注> これらは学会誌の他, オンライン (J-Stage) でも論文全文を参照できる.  
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsik/-char/ja/>

### (3) 推薦方法・締め切り

推薦する論文について, 400 字程度の推薦理由を付して, 2014 年 3 月 15 日までに, 学会事務局 (jsik@nifty.com), および, 推薦委員会 (nagatsuka-t@tsurumi-u.ac.jp) あてに, 電子メールで送信する。形式自由。ただし, SUBJECT 欄に「論文賞候補推薦状」と明示すること。

### (4) 意見募集

来年度以降の選定方式の改定について会員の意見を求めます。例えば現状では、年度単位のため論文賞の対象とする論文が少ないので、例えば2年置きに選定する、あるいは2年間にわたって（前年度の論文も重複して）対象にする等の案も考えられます。

※ご意見は, 事務局 (jsik@nifty.com) まで。

## 事務局からのお知らせ

### [ 1 ] 電子メールアドレスをご連絡願います

情報知識学会メールマガジンは会員の皆様全員にぜひ読んでいただきたい内容です。毎月発行していますので、電子メールアドレスを未登録のかたや最近更新されたかたはどうぞ事務局 [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) へお知らせください。

### [ 2 ] 平成 26 年度(2014 年度)の年会費をお振込ください。

年会費の納期限は毎年 5 月末日です。1 年間の年会費は正会員 8 千円、学生会員・ユース会員・シニア会員は 4 千円です。過去数年分未納のかたは合計額を納入してください。請求書が必要な場合、その旨を事務局へ電子メールその他でお知らせくだされば郵送いたします。請求書の宛名は会員個人名または所属団体名など、ご希望通りに発行しますのでご連絡ください。

1. 振込先（振込手数料はご本人負担をお願いします）

- a. 郵便振替口座 00150-8-706543 情報知識学会
- b. ゆうちょ銀行 〇一九店(ゼロイチキュー店) 当座 0706543 情報知識学会

2. ご自分が納入した年月日の確認方法

学会からお手元へ届く郵便物の宛名ラベルの最下行をご覧ください。[ ] 内に過去 4 年間ご自分の納入日が印字されているので確認できます。納入年（西暦の下 2 桁）、月（2 桁）、日（2 桁）の 6 桁です。年会費を滞納している場合は、[未納] と表示してあります。

### [ 3 ] 新規入会申込方法

入会ご希望のかたは情報知識学会ホームページ <http://www.jsik.jp/> から「本会について」→「入会案内」→「入会申込フォーム」に必要事項を入力・送信してください。

あるいは申込用紙を pdf 形式、doc 形式でダウンロードし、ご記入のうえ下記の事務局へ郵送または電子メールなどをお願いします。

### [ 4 ] お問い合わせは電子メールをお願いします

学会事務所の入ったビルは耐震補強工事中のため電話および F A X を受けることができません。お問い合わせは電子メールか郵送をお願いします。

情報知識学会事務局

〒110-8560 東京都台東区台東 1-5 凸版印刷(株)内

E-mail:[jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com) URL:<http://www.jsik.jp>

---

---

## 情報知識学会誌 編集委員会

|        |              |        |          |  |
|--------|--------------|--------|----------|--|
| 編集委員長  | 芦野 俊宏        | 東洋大学   |          |  |
| 副編集委員長 | 梶川 裕矢        | 東京工業大学 |          |  |
| 編集委員   |              |        |          |  |
| 相田 満   | 国文学研究資料館     | 天野 晃   | 理化学研究所   |  |
| 石井 守   | 情報通信研究機構     | 石塚 英弘  | 筑波大学名誉教授 |  |
| 岩田 覚   | 京都大学         | 宇陀 則彦  | 筑波大学     |  |
| 江草 由佳  | 国立教育政策研究所    | 岡 伸人   | 東北大学     |  |
| 岡本 由起子 | 欧州情報協会       | 小川 恵司  | 凸版印刷(株)  |  |
| 五島 敏芳  | 京都大学         | 阪口 哲男  | 筑波大学     |  |
| 白鳥 裕   | 大日本印刷(株)     | 田良島 哲  | 東京国立博物館  |  |
| 時実 象一  | 愛知大学         | 研谷 紀夫  | 関西大学     |  |
| 長田 孝治  | ロゴヴィスタ(株)    | 長塚 隆   | 鶴見大学     |  |
| 中山 堯   | 神奈川大学        | 中山 伸一  | 筑波大学     |  |
| 西澤 正巳  | 国立情報学研究所     | 西脇 二一  | 奈良大学     |  |
| 根岸 正光  | 国立情報学研究所名誉教授 | 原 正一郎  | 京都大学     |  |
| 原田 隆史  | 同志社大学        | 藤田 桂英  | 東京農工大学   |  |
| 細野 公男  | 慶應義塾大学名誉教授   | 村井 源   | 東京工業大学   |  |
| 村川 猛彦  | 和歌山大学        | 村田 健史  | 情報通信研究機構 |  |
| 森 純一郎  | 東京大学         | 安永 尚志  | 人間文化研究機構 |  |
| 山下 雄一郎 | 産業技術総合研究所    | 山本 昭   | 愛知大学     |  |

(五十音順)

---

---

### ■複写をされる方に

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写許諾契約を締結されている企業の従業員以外は、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けて下さい。

著作物の転載、翻訳のような複写以外の許諾は、直接本会へご連絡ください。

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41 乃木坂ビル 学術著作権協会

TEL: 03-3475-5618 FAX: 03-3475-5619 E-mail: naka-atsu@muji.biglobe.ne.jp

アメリカ合衆国における複写については、次に連絡してください。

Copyright Clearance Center, Inc. 222 Rosewood Drive, Danvers, MA. 01923, USA

TEL: 978-750-8400 FAX: 978-750-4744 URL: <http://www.copyright.com/>

情報知識学会誌 Vol. 24, No. 1 2014 年 2 月 28 日発行 編集・発行 情報知識学会

頒布価格 3000 円

---

---

### 情報知識学会(JSIK: Japan Society of Information and Knowledge)

会長 石塚 英弘

事務局 〒110-8560 東京都台東区台東 1-5-1 凸版印刷(株)内

E-mail: [jsik@nifty.com](mailto:jsik@nifty.com)

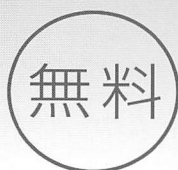
URL: <http://www.jsik.jp/>

---

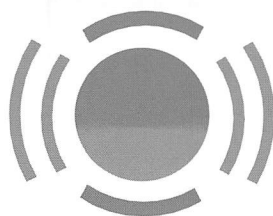
---



独立行政法人  
科学技術振興機構  
Japan Science and Technology Agency



つながる ひろがる ひらめく



# J-GLOBAL

科学技術総合リンクセンター

科学技術情報をつなぎ、発想を支援するサービス

共同研究に  
最適な研究者を  
探したい...

あの大学の  
研究を  
製品化  
できないかな？

「知」を結ぶ異分野への架け橋

<http://jglobal.jst.go.jp/>

技術問題を  
解決する  
ヒントが  
欲しい...

うちの技術を  
他分野で  
使えないか？

同業他社の  
技術動向を  
把握したい...

## ■お問合せ先

独立行政法人科学技術振興機構 J-GLOBAL サポート

<http://support-jglobal.jst.go.jp/>

# *Journal of Japan Society of Information and Knowledge*

## ~~~~~ Contents ~~~~~

### **Foreword**

|                         |   |
|-------------------------|---|
| Hidehiro ISHIZUKA ..... | 1 |
|-------------------------|---|

### **Research Papers**

|                                                                                                                                                        |   |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
| Structuring Concepts of River Culture Using Text Analysis<br>Takanori KAWASHIMA, Tomoki TAKADA, Toshio KUWAKO,<br>Hajime MURAI, Akifumi TOKOSUMI ..... | 3 |
|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|

### **Reports**

|                                                                     |    |
|---------------------------------------------------------------------|----|
| Meeting Report fom CODATA<br>Yuichiro YAMASHITA, Tetsuya BABA ..... | 19 |
|---------------------------------------------------------------------|----|

### **Mail Magazine Archives**

|                                              |    |
|----------------------------------------------|----|
| Mail Magazine (Oct. 2012 to Dec. 2013) ..... | 21 |
|----------------------------------------------|----|

### **Information**

|                                                                    |    |
|--------------------------------------------------------------------|----|
| Call for Papers on Special Issue .....                             | 89 |
| Call for Papers on Conference .....                                | 90 |
| 11 <sup>th</sup> Best Paper Award: Recommendation and Ballot ..... | 92 |
| Others .....                                                       | 94 |

**情報知識学会誌** 第24巻1号 2014年2月28日発行

編集兼発行人 情報知識学会 〒110-8560 東京都台東区台東 1-5-1 凸版印刷(株)内

E-mail : jsik@nifty. com

URL : <http://www.jsik.jp/>

(振替 : 00150-8-706543)

学術刊行物 ISSN 0917-1436